

# 大田原市母子保健計画

【平成 29 年度～平成 38 年度】

# 愛あいプラン

(第 4 次)



平成 29 年 3 月

# 大田原市

# ～すべては子どもたちの未来のために～

## 大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」

### の策定にあたって

未来を担う子どもは、親にとってかけがえのない存在であるとともに、地域社会全体の宝でもあります。

しかし、わが国においては少子高齢化が進行し、さらに核家族化、家族形態の多様化、共働き世帯の増加など母と子を取り巻く環境の変化により、出産・子育てにかかわる父母の不安や負担感が増加していることから、地域において妊娠期から出産・子育て期へと切れ目のない支援の強化を図ることが求められております。

本市では、平成24年4月から「子ども幸福課」を新設し、安心して子供を産み育てることができる地域社会の実現を目指して、各種事業に取り組んでまいりましたが、近年は、ひとり親家庭、未婚による出産、経済的問題、DVや虐待など、支援が必要な家庭が増加し、幅広い視点からの対策が急務となってまいりました。

そこで本市では、平成28年4月から「子育て世代包括支援センター」を開設し、予防的視点を踏まえ、支援体制の構築に向け取り組みを開始したところであります。

本計画では、平成24年3月に作成した大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第3次）」が平成28年度で終了となるため、今計画の策定を機に設置した「大田原市母子保健連絡協議会」の皆様のご意見をいただきながら、課題と施策を検討し、地域全体で子育てを支援できる体制づくりをめざし策定いたしました。

本計画の基本目標であります「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育てできるまち おおたわら」の実現に向け、そして、「この地域で子育てがしたい」という若い方々の主体的な育児を応援できる大田原市を目指して母子保健施策を推進してまいりますので、市民各位のなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、この計画の策定に当たり、アンケートやパブリックコメントなどで貴重なご意見やご提案をいただきました市民の皆さまをはじめ、慎重なご審議をいただきました大田原市母子保健連絡協議会の皆さま並びに関係各位のご指導ご協力に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成29年 3月

大田原市長 津久井 富雄



# 目 次

## 第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨 .....	1
2 計画の位置づけ .....	1
3 計画期間 .....	2

## 第2章 母子保健に関する大田原市の現状

1 母子保健に関する統計 .....	3
2 子ども幸福課の母子保健事業 .....	8
3 すべての子どもたちが健やかに成長するための保健・医療・教育・地域の 支援体制 .....	11

## 第3章 計画の基本的考え方

1 基本理念 .....	12
2 前計画の達成状況と「愛あいプラン（第4次）」に向けた課題 .....	12

## 第4章 計画の主要課題に対する目標

基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援 .....	14
基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 .....	34
基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり .....	50
重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み .....	57
重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援 .....	61

## 第5章 計画の推進体制 .....

## 第6章 評価指標一覧 .....

## 参考資料

1 健康に関するアンケート調査結果報告 .....	69
2 親と子の健康と子育てに関するアンケート調査結果報告 .....	78
3 「愛あいプラン（第3次）」（H24～28）の指標と評価 .....	92
4 すこやか親子21の基盤課題・重点課題（国・県・市の比較） .....	101
5 母子保健連絡協議会委員名簿 .....	105
6 「愛あいプラン（第4次）」策定の経過と進捗管理スケジュール .....	106
7 大田原市母子保健連絡協議会運営要綱 .....	107
8 「愛あいプラン（第4次）」計画書配布先一覧 .....	109

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

母子保健法及び児童福祉法の一部改正により、平成9年4月から3歳児健康診査等の基本的な母子保健事業が市に移譲されました。本市においては、平成17年10月に大田原市、黒羽町、湯津上村が合併し、「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産し、のびのび子育てができる環境づくり」を目指して、母子保健事業を展開してきました。

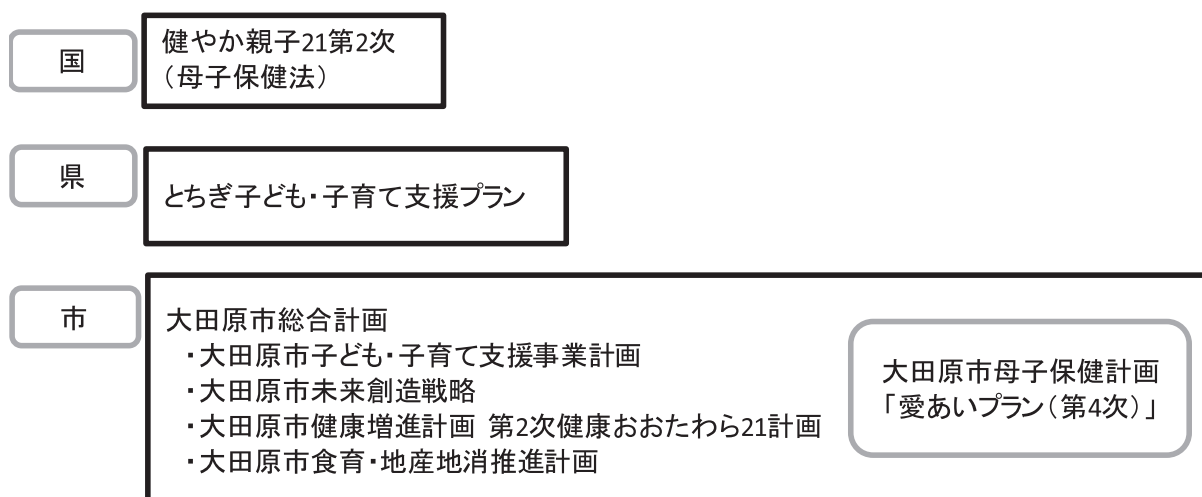
平成15年に「少子化社会対策基本法」「次世代育成支援対策基本法」、平成24年に「子ども・子育て支援法」が制定され、平成27年度からは、「子ども・子育て支援制度」がスタートしており、本市でも平成27年に「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、家庭や地域、関係機関と連携しながら、子育て支援にかかわる施策を推進しているところです。

このような動きの中で、国の「健やか親子21」の最終評価と次期計画が策定され、平成26年6月17日の厚生労働省通知「母子保健計画策定指針」により、各地方公共団体においても母子保健計画を策定することが求められています。

母子保健計画はすべての子どもが健やかに成長していく上での健康づくりの出発点であること、また、本市の健康課題である生活習慣病の予防のためにも、子どもだけではなく家族全体の生活習慣を見直すことができる時期であることから、次世代を担う子どもたちを健やかに育てるための基盤とする、大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」を策定します。

## 2 計画の位置付け

この計画は、母性並びに子どもの健康の保持増進を図るために、基本的な事項と推進に必要な方策を明らかにしたものです。さらに、本市の上位計画である「大田原市総合計画」をはじめ、「大田原市子ども・子育て支援事業計画」「大田原市未来創造戦略」「大田原市健康増進計画 第2次健康おおたわら21計画」「大田原市食育・地産地消推進計画」等との十分な整合性を図るものとします。



### 3 計画期間

この計画は、平成 29 年度を初年度とし、平成 38 年度までの 10 年間を計画期間とします。なお、平成 33 年度に中間評価を行います。

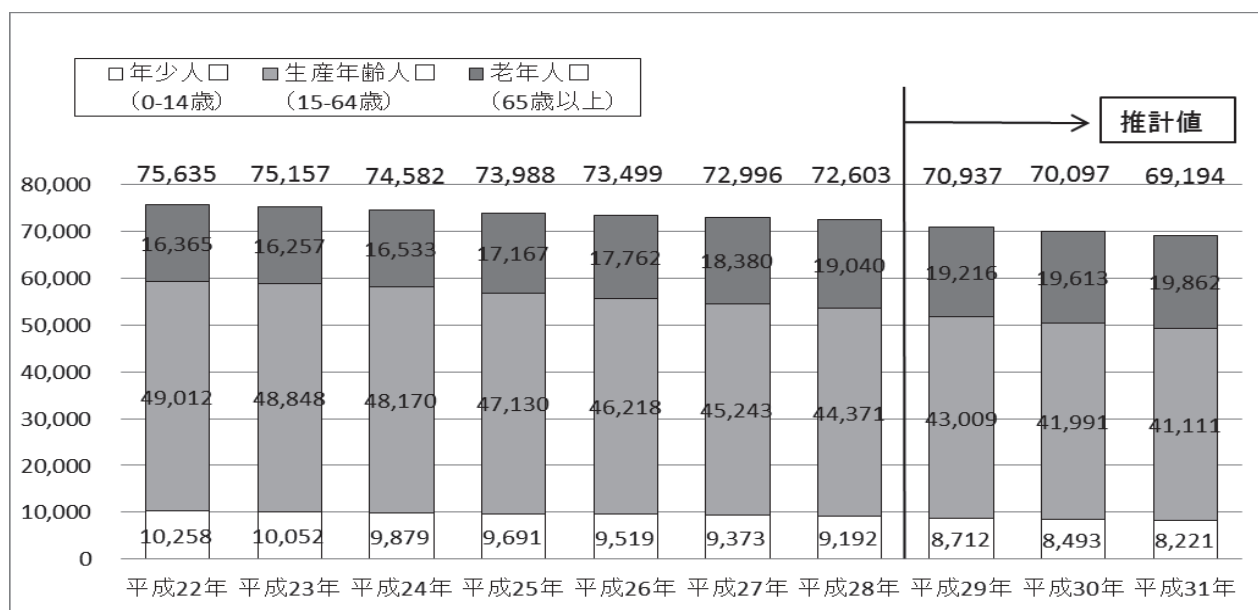
## 第2章 母子保健に関する大田原市の現状

### 1 母子保健に関する統計

#### (1) 人口の推移

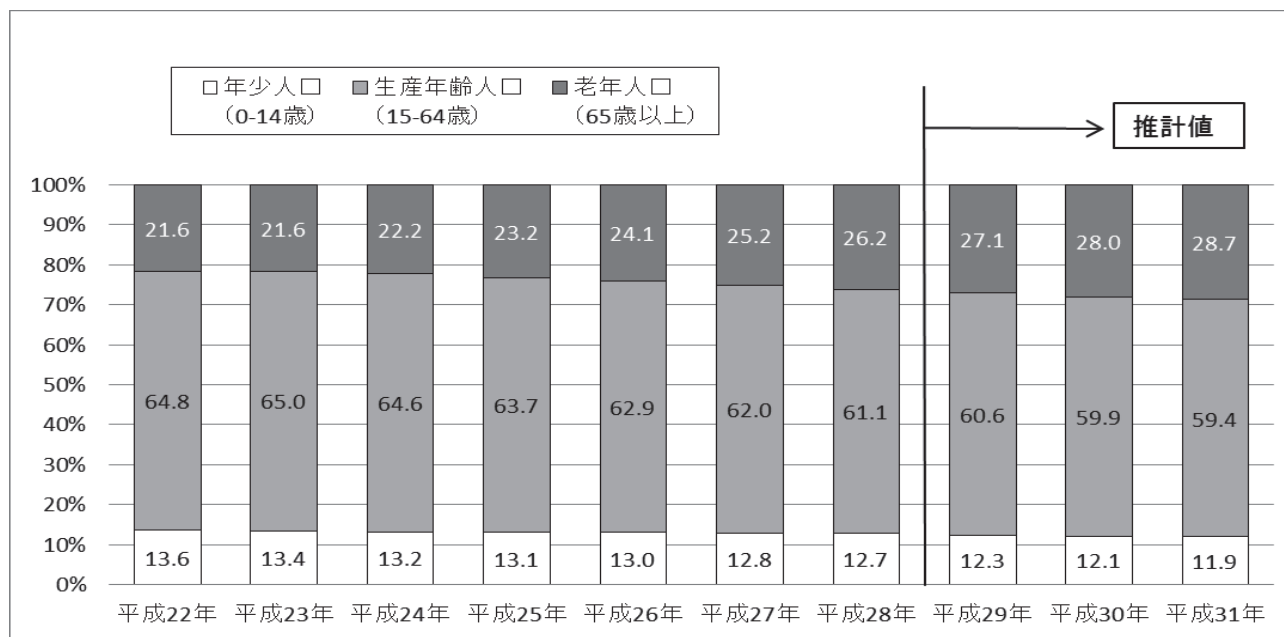
大田原市の人口は、平成17年の市町村合併時点では79,023人でしたが、平成28年には72,603人となり減少傾向です。人口構成は、老年人口（65歳以上）が増加する一方、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）がともに減少しています。今後もこの傾向が進行していくと予測されます。

#### 人口推移と将来推計



(平成22年から平成28年は住民基本台帳、外国人登録含む実績値(各年4月1日)より)

#### 年齢3区分の人口構成比



(平成22年から平成28年は住民基本台帳、外国人登録含む実績値(各年4月1日)より)

## (2) 出生

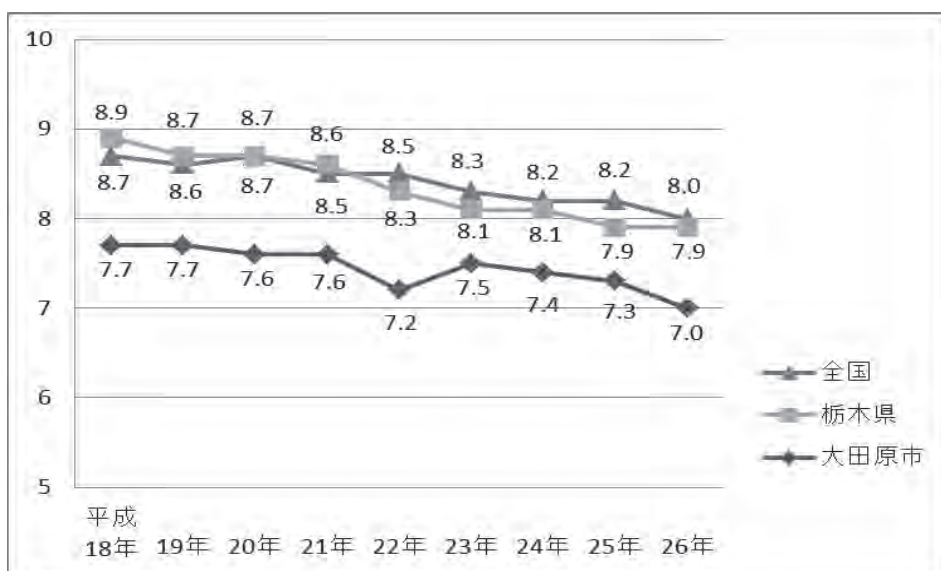
本市の人口千人あたりの出生率は緩やかな減少を続けており、全国や栃木県の出生率を下回っています。また、本市の出生数も年々減少しています。

1人の女性（15～49歳）が一生の間に産む子どもの数を示す合計特殊出生率は、わずかな増減はあるものの、平成18年からは全国や栃木県を下回っており、平成26年では1.30となっています。

しかし、本市においては、国際医療福祉大学の学生の転入転出の影響により、女性の人口が本来の定住人口よりも多い状況にあるため、出生率が低く算定されてしまう傾向にあります。そこで、大学生の転入転出による人口に対する影響がより低い住民基本台帳人口により合計特殊出生率を算出すると、平成26年では1.42となります。

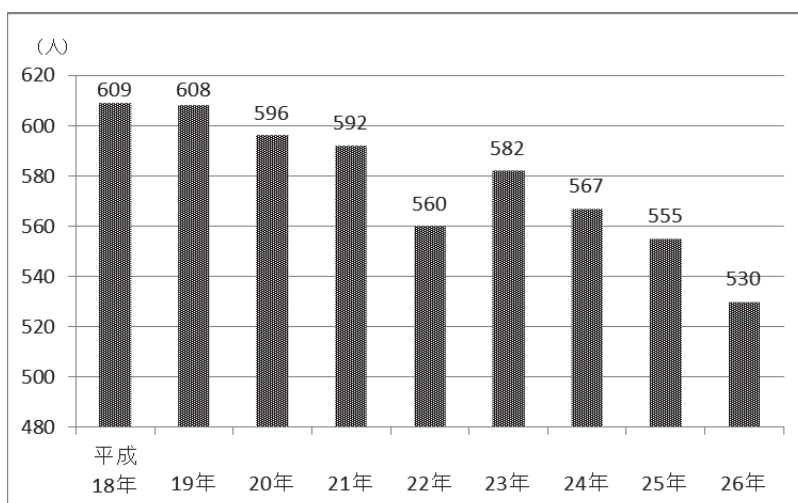
栃木県の出産時の母親の年齢は30歳代が最も多くなっています。一方で、20歳代が減少傾向にあり、40歳以上が増加しています。母親の高年齢化が進みつつあります。

出生率の推移



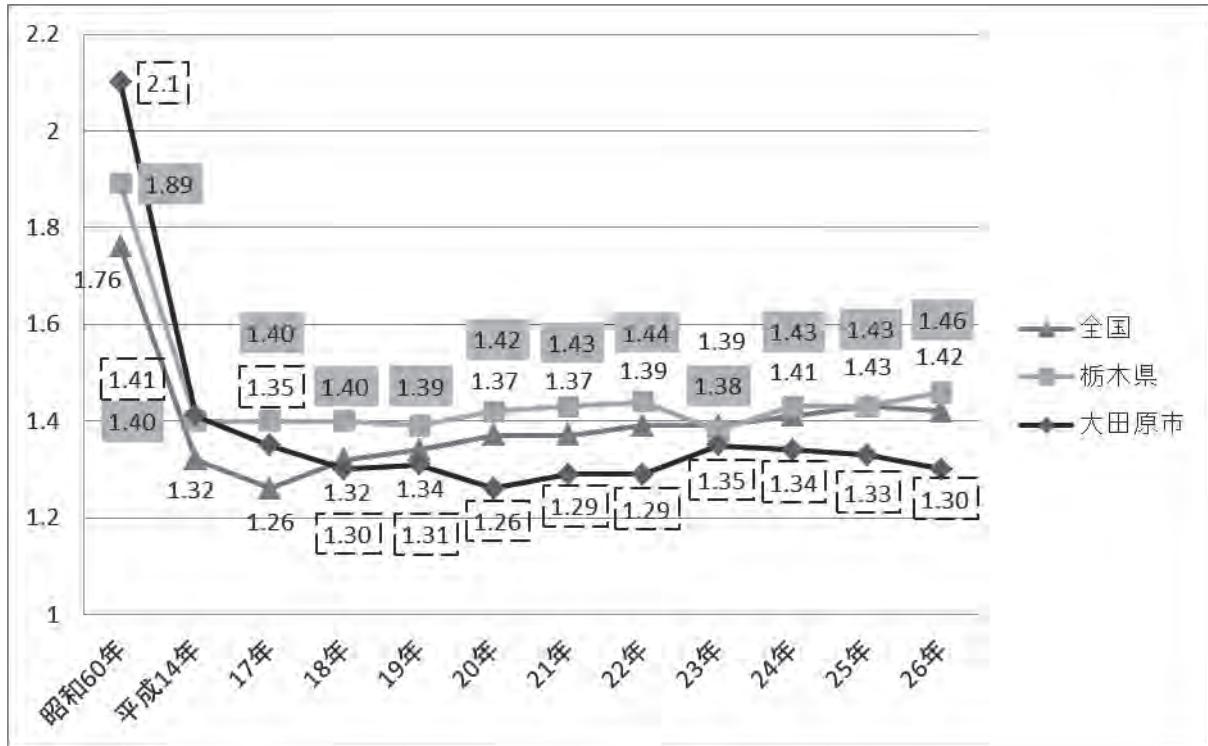
(栃木県保健統計年報より)

大田原市の出生数の推移



(栃木県保健統計年報より)

### 合計特殊出生率の推移



(栃木県保健統計年報より)

### 栃木県の母の年齢別出生割合の推移

区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
10歳代	1.1	1.4	1.2	1.3	1.4
20歳代	41.9	41.1	40.4	39.7	38.2
30歳代	54.3	54.5	55.0	55.3	56.2
40歳以上	2.6	3.0	3.4	3.7	4.2

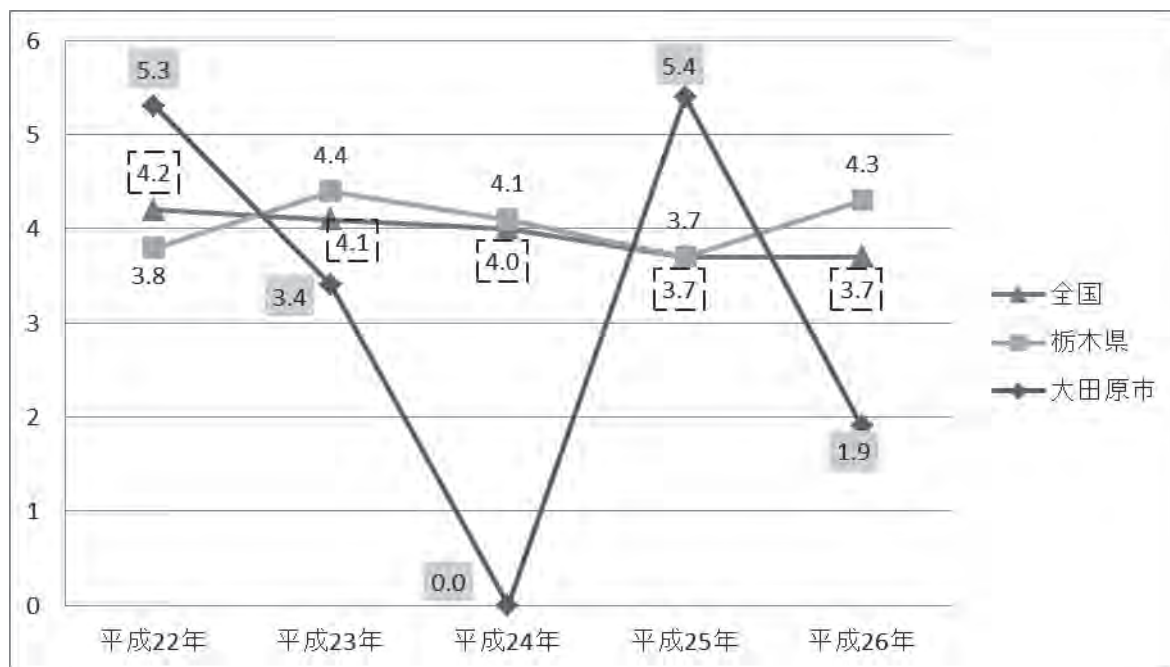
(平成 27 年度版 とちぎの母子保健より)



### (3) 周産期死亡

周産期死亡は、妊娠満 22 週以降の死産と生後 1 週間未満の早期新生児死亡を合わせたものです。本市は出生数そのものが少ないため、単純な比較を行うことはできませんが、その年によりばらつきがあり、平成 24 年は 0 人でした。

周産期死亡率の推移



(栃木県保健統計年報より)

$$\text{※ 周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数} + \text{早期新生児死亡数}}{\text{出生数} + \text{妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

### (4) 人工妊娠中絶

栃木県の人工妊娠中絶の実施率は減少傾向にあります。また、20歳未満の人工妊娠中絶数も減少しています。

栃木県の年齢階級別人工妊娠中絶の実施率の推移

	20歳未満	20～24歳以下	25～29歳以下	総数
平成22年度	6.9	15.7	12.7	8.3
平成23年度	6.5	17.1	13.1	8.2
平成24年度	6.8	15.0	12.5	7.9
平成25年度	6.6	15.3	12.1	7.7
平成26年度	5.3	13.5	12.7	7.4

(衛生行政報告例より)

### 栃木県の20歳未満の人工妊娠中絶数

	15歳未満	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	総数
平成22年度	4	14	26	61	87	123	315
平成23年度	4	15	37	67	72	110	305
平成24年度	5	23	41	58	83	110	320
平成25年度	5	17	36	64	77	107	306
平成26年度	1	9	33	42	65	92	242

(衛生行政報告例より)

### (5) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡には、生後4週間未満の新生児死亡も含まれます。平成25年は乳児・新生児それぞれの死亡、平成26年は新生児の死亡です。

#### 乳児（1歳未満）死亡率の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
大田原市(人数)	3.6(2人)	1.7(1人)	0.0	3.6(2人)	1.9(1人)
栃木県	2.1	2.4	2.4	1.9	3.6
全国	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1

(栃木県保健統計年報より)

#### 新生児（生後4週間未満）死亡率の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
大田原市(人数)	1.8(1人)	0.0	0.0	1.8(1人)	1.9(1人)
栃木県	0.9	1.0	1.0	1.0	1.8
全国	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9

(栃木県保健統計年報より)

## 2 子ども幸福課の母子保健事業

		事業	対象	回数	内容
子育て世代包括支援センター	妊娠 期 ・ 周 産 期	母子健康手帳の交付及び面接・相談	妊婦	年間	母子の健康及び育児、発達を記録するための母子健康手帳を交付し、安全・安心な出産と育児を支援するため妊婦アンケートを実施。全妊婦への相談・指導を行い、産後の育児を見通した支援につなげる。
		妊婦一般健康診査	妊婦	年間	妊婦健康診査受診票 14 回分の交付。
		不妊治療費補助金交付	不妊治療を受けている夫婦	年間	不妊治療費（人工授精、体外受精・顕微授精）に対する補助金の交付。
		不育治療費補助金交付	不育治療を受けている夫婦	年間	不育治療費に対する補助金の交付。
		産前産後サポート事業	妊婦、出産後おおむね 4 か月未満の産婦	年間	妊産婦が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩み等について、助産師・保健師が相談支援を行う。
		養育支援ヘルパー派遣事業	妊娠中及び出産後 4 か月未満の乳児のいる家庭で、妊婦や養育に対して支援者のいない家庭	年間	妊娠中や出産後で、家事や育児の支援を必要とする家庭に対して、ヘルパーを派遣する。利用にあたっては、妊娠中から市の保健師等に相談しておくことが必要。所得に応じた利用者負担あり。
		産後ケア事業	出産後 4 か月未満の産婦とそれに係る子	年間	母子で医療機関に入所し、出産後の母子の心身のケアや育児指導を受ける。利用にあたっては、妊娠中から市の保健師等に相談しておくことが必要。所得に応じた利用者負担あり。
	乳 幼 児 期	未熟児養育事業	低出生体重児、未熟児	年間	身体の発育が未熟なままで生まれ、医師が指定養育医療機関において入院養育を必要と認めた乳児に対して、その治療に必要な医療費を公費で負担。 低体重児の届出、未熟児訪問指導を実施。
		乳児家庭全戸訪問(産婦新生児訪問)	生後 4 か月未満の乳児	年間	母子の健康管理や異常・疾病の発生予防、早期発見、育児支援を目的に実施。エジンバラ産後うつ質問票を活用し、産後うつ等の母親の不調に早期に対応する。
		4 か月児健康診査	4 か月児	月 1 回	小児科診察、整形外科診察、身体計測、発達の確認、離乳食の集団栄養指導。問診と個別相談を実施し、保護者の育児支援を行う。

子育て世代包括支援センター	乳幼児期	事業	対象	回数	内容
		10か月児相談	10か月児	月1回	身体計測、離乳食から幼児食への移行のための集団栄養指導、幼児期から増加するむし歯予防の指導、言葉と豊かな情緒を育むためのブックスタートの実施、必要に応じて理学療法士の相談を実施。事故防止のパンフレット配布。
		1歳6か月児健康診査	1歳6か月児	大田原地区：月1回、黒羽地区：3か月に1回	内科診察、歯科診察、むし歯予防のための個別歯科指導、発達確認、問診、相談、保健指導。必要に応じて心理相談員・管理栄養士の相談を実施。耳のきこえのアンケート実施。事故防止のパンフレット配布。
		2歳児歯科健康診査	2歳6か月児	〃	歯科診察、歯科集団指導、発達確認、問診、相談、保健指導。必要に応じて心理相談員・管理栄養士の相談を実施。
		3歳児健康診査	3歳6か月児	〃	内科診察・歯科診察、尿検査、身体計測、視力と聴力のアンケート、肥満スクリーニングを実施。発達確認、問診、相談、保健指導。必要に応じ歯科衛生士・管理栄養士・心理相談員の相談を実施。
		乳幼児健康相談	就学前乳幼児	月1回	身体計測、保健師・管理栄養士による育児相談。
		離乳食教室	乳児と保護者	月1回	離乳食の進め方・具体的な作り方についての集団と個別の指導。
		親子の絆づくりプログラム（BPプログラム）	2～5か月の第1子を育てる母親	年6回、1コース4回	0歳児を初めて育てる母親の仲間づくり、及び育児の基礎知識の学習。
		すくすく教室	乳幼児と保護者	年6回	子どもの体と心を育むための講話と集団指導。「早起き早寝、朝ごはん、あいさつ、絵本の読み聞かせ」をスローガンに実施。
		肥満予防連携事業	3歳6か月児	月1回	1歳6か月時と3歳6か月時のカウプ指数から、肥満ハイリスクの方を那須赤十字病院小児科に紹介。受診後保健師が家庭訪問を実施。将来の肥満予防につなげる。
	よい歯のコンクール	3歳児健康診査終了児	年1回	3歳児健康診査でむし歯のなかった子どもを対象に実施。歯科保健意識の向上を図る。	
	発達支援	すこやか相談	乳幼児健康診査等で経過観察が必要な乳幼児	毎月	作業療法士、言語聴覚士、心理相談員、管理栄養士、保健師が相談・指導を実施。

子育て世代包括支援センター	発達支援	事業	対象	回数	内容
		5歳児健康診査	年中児	各園1回（対象児の多い園は2回）	保育園・幼稚園での集団の様子を観察し、発達・発育状況を確認し、発達に課題をもつ子に対して、スムーズな就学のための支援を実施。6か月後に事後確認も実施。
		年長児巡回相談	年長児	各園1回（対象児の多い園は2回）	学校へのスムーズな引き継ぎ方法を検討する。（学校教育課主催）
		教育支援相談会	就学について不安のある保護者	月2回、随時相あり。	就学に対する不安解消のために相談を実施。就学についての支援体制を検討する。（学校教育課主催）
		子育てセミナー等各種研修会、講演会	保育園・幼稚園の教諭他	必要に応じ年度ごとに計画	子どもへの適切な支援のための保育士・教諭の力量形成、保護者や地域の障害の理解等のための研修会や、講演会を実施。
	障害児支援連携事業	福祉サービスの利用対象者	随時	療育手帳を取得した方や福祉サービスを利用している方に対して、サービス事業者や福祉課職員等と保健師が家庭訪問をすることにより、生育環境等について把握し、記録を作成し福祉課に保存。情報が引き継がれることにより、障害にわたる支援が途切れなくなされることを目的とする。	
	学童期	思春期健康教室	小学校6年生から中学校3年生の全員	市内全小中学校	健やかな母性、父性を育むための健康教育を学校の実施。
		フッ化物洗口	小学1年生から中学校3年生の希望者	〃	永久歯の歯質を強化し、むし歯を予防することを目的に、学校において週1回フッ化物洗口を実施。
		むし歯予防講話会	小学校1年生から中学校3年生の全員	〃	むし歯予防のための口腔衛生知識の普及・啓発のため、歯科衛生士が講話と実技指導を実施。
		小児生活習慣病予防健診	小学校5年生から中学校3年生までの希望者	市内全小中学校	学校において、小児生活習慣病予防健診を実施。必要に応じ、市の保健師・管理栄養士が事後指導を実施。



## 第3章 計画の基本的考え方

### 1 基本理念

「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育てできるまち

おおたわら」

### 2 前計画の達成状況と「愛あいプラン（第4次）」に向けた課題

平成24年度から28年度までの「愛あいプラン（第3次）」の課題を評価することにより、今後10年間を見据えた母子保健の主要な取り組み課題を抽出しました。

基盤課題は、妊娠・出産・子育て、子どもの成長等、ライフステージにおいて、基本的で重要な支援や地域づくりの基盤を示しています。さらに2つの重点課題は、本市が特に重点を置く母子保健課題を示しています。

#### 基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、安心して妊娠・出産・子育てができるよう支援する

1. 妊娠期から出産まで
2. 乳幼児期
3. 健康づくりの推進

#### 基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

子どもが主体的に取り組む健康づくりを支援し、次世代の健康を育む保健対策の充実を図る

1. 思春期の心と体の健康づくり
2. 規則正しい生活習慣づくり
3. 学童期の歯科保健

#### 基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

妊産婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない地域づくりを推進する

#### 重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防の取り組み

親子の愛着を育むことで、子どもの虐待を予防する

#### 重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支援する

# 愛あいプラン(第4次)



みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育て  
できるまち おおたわら

## 子育て・健康支援

(重点課題①)

妊娠期からの  
児童虐待予防への  
取り組み

不妊

予防  
接種

産後  
うつ

低出生  
体重児

相談  
相手

健康  
診査

少子化

(基盤課題A)

妊娠・出産・子育ての切れ目ない  
支援

(重点課題②)

「育てにくさ」を感じる  
親に寄り添う支援

身体  
活動

喫煙  
飲酒

肥満  
やせ

性

食育

心の  
健康

(基盤課題B)

学童期・思春期から  
成人期に向けた保健対策

(基盤課題C)

子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり



## 第4章 計画の主要課題に対する目標

### 基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

- 1 妊娠期から出産まで
- 2 乳幼児期
- 3 健康づくりの推進

#### 目標

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、  
安心して子育てができるよう支援する

## 基盤課題A 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

### 目 標

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援体制を構築し、安心して子育てができるよう支援する

### 1 妊娠期から出産まで

#### 現状と課題

#### ① 妊娠届出による母子健康手帳の交付

妊娠中の健康管理が適切に行われるために、妊娠週数11週以下の妊娠届出が推奨されています。妊娠11週以下の届出率をみると、平成22年度に比べ増加傾向にあります。今後も継続して早期の届出と妊婦健康診査の受診を啓発していくことが必要です。

大田原市母子健康手帳の交付状況比較（単位：人）

	満11週以下	満12～19週	満20～27週	満28週以降	分娩後	未記入
H22	536 (91.6%)	34 (5.8%)	11 (1.9%)	3 (0.5%)	0 (0%)	1 (0.2%)
H27	488 (94.5%)	22 (4.3%)	4 (0.8%)	2 (0.4%)	0 (0%)	0 (0%)

（大田原市母子保健事業実績報告より）

#### ② 妊婦健康診査

妊婦健康診査費用については平成25年度から地方財源措置になり、市町村ごとに公費負担を実施しているところです。本市では平成21年度から助成回数を14回に拡大し、現在に至っています。

早期に妊娠届出をし、妊婦健康診査を受けることは母体・胎児の健康管理と、安心して出産を迎えるためとても重要です。今後も、早期の届出を啓発するとともに妊婦健康診査受診を勧奨することが必要です。

妊婦健康診査の状況（単位：件）

年 度	受診票交付人数	延べ受診者数
平成25年度	528	6164
平成26年度	567	6698
平成27年度	565	6231

（大田原市母子保健事業実績報告より）

### ③ 乳児家庭全戸訪問

母子の健康管理と、疾病・異常の早期発見や母親の育児支援を目的に、市内に住所を有する4か月未満の全ての児を対象として家庭訪問を行っています。赤ちゃんの時期に訪問することで、保健師との信頼関係が構築されやすく、その後のスムーズな支援につながっています。

多少の増減はあるものの、95%前後の実施率となっています。産後は、慣れない育児の疲れや気持ちの不安定さ等が出現する時期でもあるため、産科医療機関と連携しながら早期の訪問を実施することが必要です。

妊産婦・新生児訪問指導の実施状況（単位：人）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
出生数	589	567	538	540
訪問数	576	549	509	513
訪問実施率	97.8%	96.8%	94.6%	95.0%

（大田原市母子保健事業実績報告より）

### ④ 低出生体重児の状況

本市の低出生体重児（2,500g未満）の割合は、平成25年度14.4%と比べ平成26年度10.9%と減少しましたが、国や県に比べ多い状況です。

低体重児出生届出状況

	市	国	県
平成23年度	11.0%	9.6%	10.5%
平成24年度	9.7%	9.6%	10.5%
平成25年度	14.4%	9.6%	11.0%
平成26年度	10.9%	9.5%	10.3%

（栃木県保健統計年報より）

平均出生体重は平成25年度に比べ平成26年度はやや上昇しましたが、国の平均体重より下回っています。低出生体重児の出生の要因としては、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊婦の体格、喫煙、高齢出産等が考えられます。

平均出生体重（体重：kg）

年	H21	H22	H23	H24	H25	H26
市	3.02	3.01	2.99	3.00	2.94	2.97
県	2.99	2.99	2.98	2.98	2.98	2.99
国	3.03	3.02	3.00	3.00	3.00	3.00

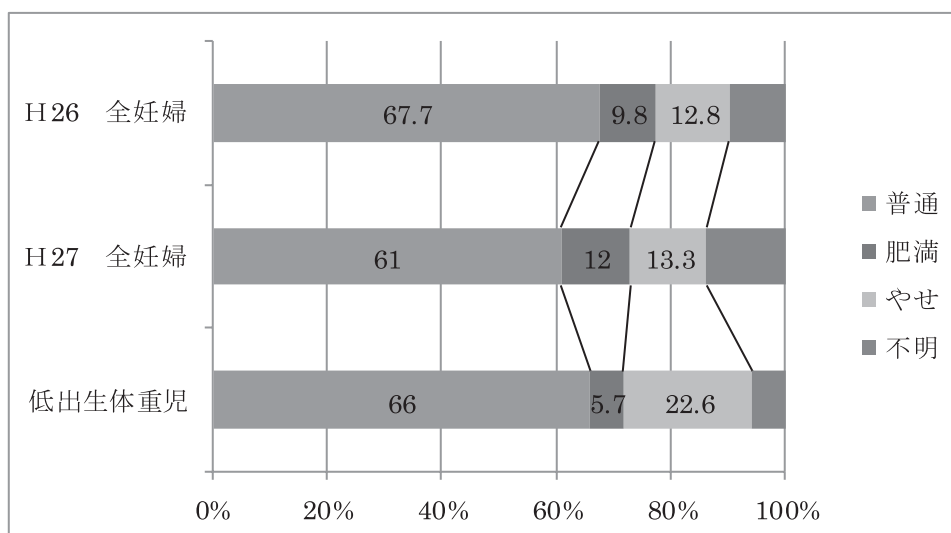
（大田原市母子保健事業実績報告より）

平成27年度の低出生体重児の母親の妊娠前の体格をみると、やせ体格の妊婦が全妊婦と比べて多い状況です。また、妊娠前は高血圧の既往がなかったにも関わらず、妊娠により高血圧・尿蛋白の所見が出現する妊婦が増加傾向にあることがわかりました。

#### 平成27年度母親の妊娠前の体格（BMI）

妊娠前のBMI	低体重児の母親	平成26年度 妊娠届出の あった全妊婦	平成27年度 妊娠届出の あった全妊婦
18.5～25未満（普通）	66.0%	67.7%	61.0%
25以上（肥満）	5.7%	9.8%	12.0%
18.5未満（やせ）	22.6%	12.8%	13.3%
不明	5.7%	9.8%	13.8%

（妊婦アンケート、低出生体重児出生届出名簿より）



すべての妊婦が健康に妊娠・出産を迎えられるよう、高血圧や糖尿病等の予防のため、妊娠に伴う身体の変化や食生活等の健康管理の重要性について、知識の普及・啓発を行う必要があります。また、低出生体重児の出生には妊婦の体格も関係してくることから、妊娠前（思春期頃）から自分の適性体重を知り、自身の身体について知ることも必要です。

妊娠中の喫煙については妊婦自身の喫煙率は10%未満ですが、育児期間中は、夫の約半数が喫煙している状況です。また、低出生体重児を持つ母親の喫煙率は全妊婦の喫煙率の2倍以上となっており、喫煙は低出生体重児出生に関係があることがうかがえます。

妊婦自身だけでなく夫や周囲からの受動喫煙も、流早産や低出生体重児、乳幼児突然死症候群のリスクとなるため、妊婦はもちろんのこと、家族にも禁煙の大切さを伝えていくことが重要です。

## 妊婦の喫煙状況

	低体重児の母親	平成27年度妊婦
妊娠中の喫煙率	7.5%	3.4%

(大田原市低出生体重児名簿、すこやか親子アンケートより)

## 育児期間中の父親の喫煙率

	喫煙率
4か月児を持つ父親	46.9%
1.6歳児を持つ父親	56.1%
3歳児を持つ父親	45.7%

(すこやか親子アンケートより)

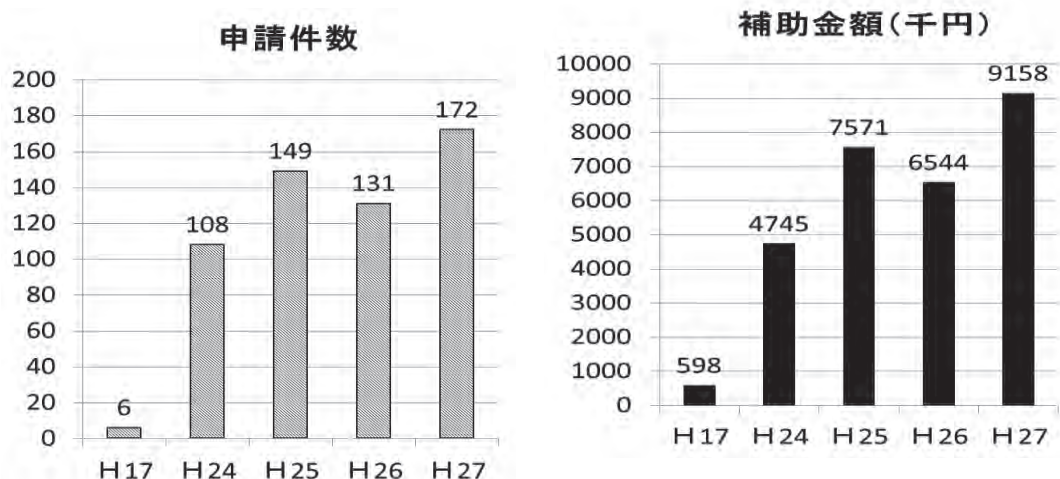
## ⑤ 不妊に関する医療費助成

事業を開始した平成17年度の申請件数は6件でしたが、平成27年度は172件であり、30倍近くに増加しています。

現代の社会的背景には晩婚化・晩産化の進行があり、それに伴い、不妊に悩む夫婦が増加していることが考えられます。また、申請者の中には二人目を希望している人も多く、二人以上の子どもを望んでいる市民が多いことがうかがえます。

不妊治療を受けている夫婦の経済的負担を軽減するためにも、今後も不妊治療費の助成を継続していく必要があります。

## 不妊治療費補助金交付事業の実施状況



(大田原市母子保健事業実績報告より)

不妊には妊孕性にんようせい(妊娠のしやすさ)が関わっており、妊娠のしやすい年齢は、20歳前半をピークとして37歳頃から急速に低下するといわれています。本市の不妊治療申請者の状況は、35歳以降の申請者数が半数以上を占めており、平成27年度は7割が35歳以上でした。また、平成27年度の実申請者数は84組で、そのうち20組が妊娠につながりました。さらに妊娠率を高めるためには、妊孕性の高い時期に治療を受けるよう周知することが重要です。また、思春期教育に加え、将来結婚・妊娠する世代(高校生や大学生)へ妊孕性を周知していくことが必要です。

延申請者数の申請時の年齢（妻）

	20代	30～34歳	35～42歳	43歳以上	合計
平成25年度	12（8%）	40（27%）	82（55%）	15（10%）	149（100%）
平成26年度	6（5%）	50（38%）	70（53%）	5（4%）	131（100%）
平成27年度	14（8%）	34（20%）	103（60%）	21（12%）	172（100%）

（大田原市母子保健事業実績報告より）

助成申請した人の妊娠率

	実申請者数	妊娠者数	妊娠率
平成24年度	23	7	30.4
平成25年度	56	17	30.3
平成26年度	64	16	25.0
平成27年度	84	20	23.8

（大田原市母子保健事業実績報告より）

課題と施策

課題	施策
<p>低出生体重児の要因として、やせ体格や妊娠高血圧症候群の妊婦が多い傾向にある。</p> <p>低出生体重児を持つ母親の喫煙率は全妊婦の喫煙率の2倍以上となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子健康手帳交付時に、妊婦健康診査の重要性を啓発します。</li> <li>・妊娠前の体格に合わせた体重増加について、知識の普及・啓発を行います。</li> <li>・妊娠中からの規則正しい食生活や禁煙等、妊娠期の過ごし方について妊婦や家族が健康管理の重要性について理解を深め行動できるよう、知識の普及・啓発を行います。</li> <li>・妊娠届出の際や乳幼児健康診査において、喫煙のリスクについての知識を普及するため、必要な人へ資料を配布します。</li> </ul>

課 題	施 策
不妊治療を行う年齢の上昇と妊娠率の低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思春期教室を実施し、妊孕性の周知を行います。</li> <li>・ イベント（成人式や産業文化祭等）で妊孕性の理解を深めるために、妊娠についてのパンフレットを配布します。</li> </ul>

**評価指標**

評価指標	ベースライン (現状)		中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	
1. 全出生数中の低出生体重児の割合	10.4%		減少	減少	
2. 妊娠中の妊婦の喫煙率	3.4%		減少	減少	
3. 育児期間中の両親の喫煙率		母	父	減少	減少
	4か月児健康診査	5.6%	46.9%		
	1歳6か月児健康診査	8.1%	56.1%		
	3歳児健康診査	13.0%	45.7%		
4. 妊娠中の妊婦の飲酒率	1.1%		減少	減少	

## 2 乳幼児期

### 現状と課題

#### ① 乳幼児健康診査

乳幼児健康診査は、単に疾病・異常の早期発見の場にとどまらず、親子関係の構築や育児不安等に関する相談等、育児支援においても重要な役割があります。

本市の平成26年度の乳幼児健康診査の受診率は、すべての健康診査において90%以上と高い受診率で、県平均と比較しても同等の受診率となっています。

乳幼児健康診査受診率（単位：％）

	年 度	4か月児	10か月児	1歳6か月児	2歳児	3歳児
市	平成22年度	97.3	94.9	98.6	94.0	89.2
	平成26年度	97.3	97.8	97.3	98.1	94.2
県平均	平成26年度	97.3	97.3	97.0	—	95.9

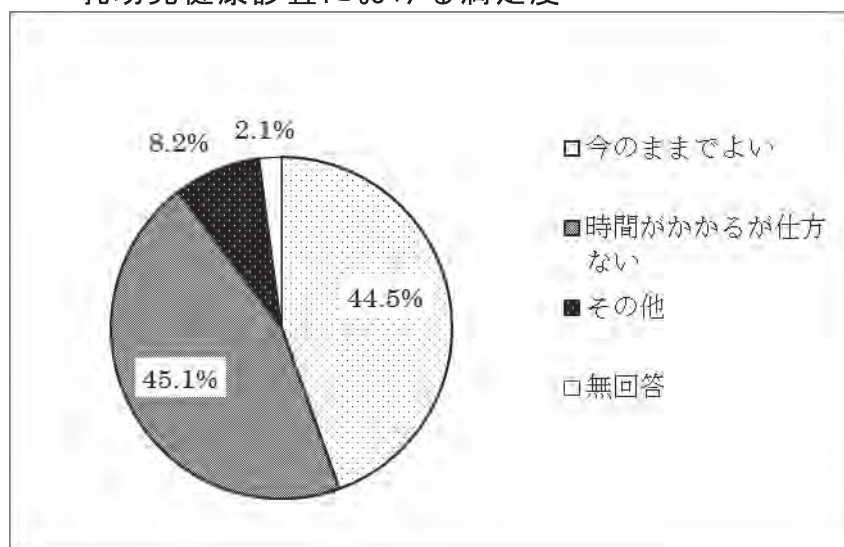
（市：大田原市母子保健事業実績報告より）

（県：平成27年度版 とちぎの母子保健より）

未受診児に対しては、健康診査の再通知や家庭訪問等で受診勧奨を行い、100%を目標に状況把握に努めています。今後も未受診児に対しては、成長・発達の確認、育児支援、虐待予防の観点から未受診理由の把握に努め、必要に応じて適切な対応を図っていく必要があります。

市で実施している乳幼児健康診査について、平成28年度に実施した「親と子の健康と子育てに関するアンケート」によると「今のままでよい」が45.5%で、「時間がかかるが仕方がない」（46.1%）を合わせると91.6%となっています。

乳幼児健康診査における満足度



（平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより）

乳幼児健康診査においては、健診日に都合の悪い場合等は事前に受診日の日程調整を行う、待ち時間を短縮する工夫等を行っていますが、今後も保護者のニーズを踏まえながら、保護者の満足度が高くなるような健康診査内容や体制



を検討・工夫していく必要があります。

## ② 乳幼児健康相談

乳幼児健康相談は計測と保健師や栄養士による個別相談を行っており、予約の必要がなく、気軽に利用できる育児相談の場となっています。相談内容としては乳児・幼児共に栄養に関する相談が多く、相談全体の53.9%と半数以上を占めており、次いで育児に関する相談が30.3%となっています。

食に関する不安は育児不安の要因の一つにもなるため、離乳食教室や児の発達に合わせた栄養に関する相談・指導について、内容を充実させていく必要があります。

平成27年度 乳幼児健康相談参加者数・相談内容（単位：人）

	計測のみ	健康相談（相談内容内訳）					合計
		育児	発達	身体	栄養	計	
乳児	181	47	8	18	79	152	333
幼児	172	20	7	2	40	69	241
計 (%)	353	67 (30.3%)	15 (6.8%)	20 (9.0%)	119 (53.9%)	221 (100%)	574

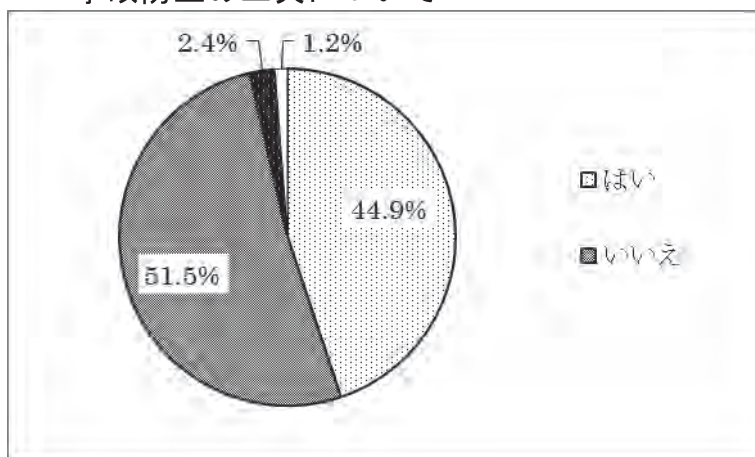
（平成27年度大田原市母子保健事業実績報告より）

## ③ 子どもの事故防止対策

1～9歳までの子どもの死亡原因の第一位は「不慮の事故」となっており、0～4歳児の不慮の事故による死亡は、家庭内でも多く起きています（平成23年人口動態統計より）。

1歳6か月児健康診査において実施したアンケートによると、「浴室のドアには、子どもが一人で開けられないように工夫がしてありますか？」の問いに対して「いいえ」と答えた人が51.5%という状況でした。

事故防止の工夫について

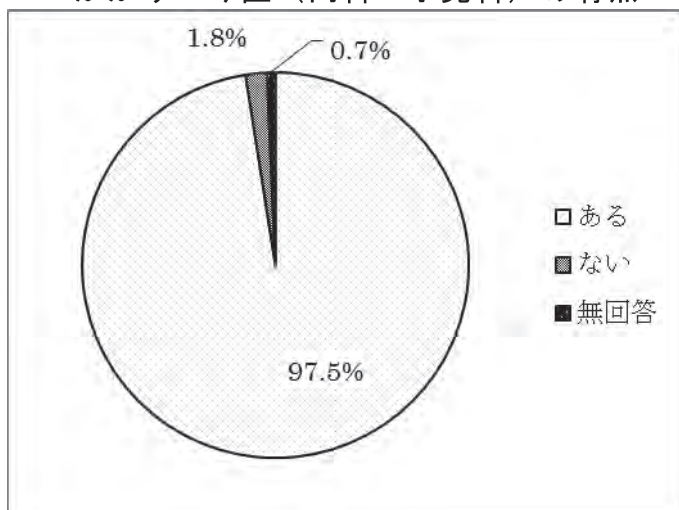


（平成27年度 1歳6か月児健康診査「すこやか親子21アンケート」より）

子どもの事故防止については、10か月児相談の集団指導の中で健康教育を行い、10か月児相談と1歳6か月児健康診査においてパンフレットを配布し普及・啓発しています。

急な病気やケガの際の相談先、救急医療を受診するための受診先についてのパンフレット（市健康政策課作成）を、出生届出の際や転入された人に対して配布し、説明しています。アンケート調査によると、かかりつけ医（内科、小児科）をもっていない人が1.8%いました。

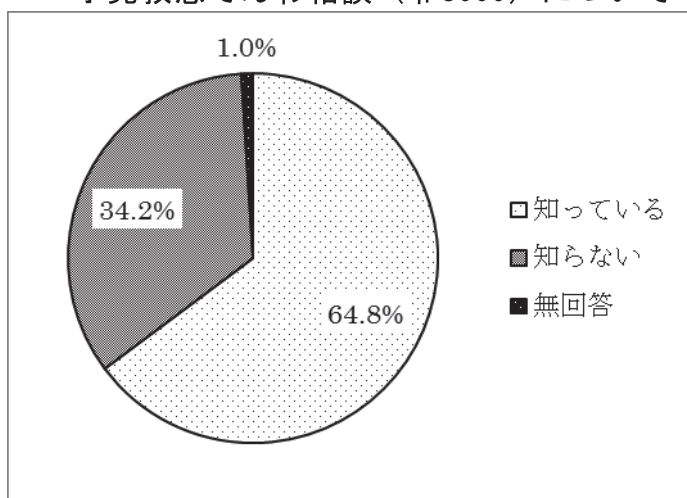
かかりつけ医（内科・小児科）の有無



（平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより）

また、小児救急でんわ相談（＃8000）について「知らない」と回答した人が34.2%いました。今後も、日常的に乳幼児の健康管理のサポートをしてくれるかかりつけ医をもつことや、小児救急でんわ相談（＃8000）等について周知徹底していく必要があります。

小児救急でんわ相談（＃8000）について



（平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより）

## 課題と施策

課題	施策
<b>母子保健事業の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康診査について、「今のままでよい」が44.5%。「時間がかかるが仕方がない」が45.1%。</li> <li>・乳幼児健康相談において、栄養に関する相談が半数以上(53.9%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康診査において、保護者のニーズを踏まえ、保護者の満足度が高くなるよう健康診査内容や体制を検討・工夫していきます。</li> <li>・子どもの成長・発達の支援のほか、育児支援につながる乳幼児健康診査を実施します。</li> <li>・離乳食教室や子どもの成長・発達に合わせた栄養に関する相談・指導について、内容を充実させていきます。</li> </ul>

## 評価指標

評価指標	ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健康診査 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健康診査 98.8% 2歳児歯科健康診査 95.5% 3歳児健康診査 97.1%	維持	維持
2. 子どものかかりつけ医をもつ親の割合	医師 97.5%	維持	維持
	歯科医師 49.4%	増加	増加
3. 小児救急でんわ相談(#8000)を知っている親の割合	64.8%	増加	増加

### 3 健康づくりの推進

#### 現状と課題

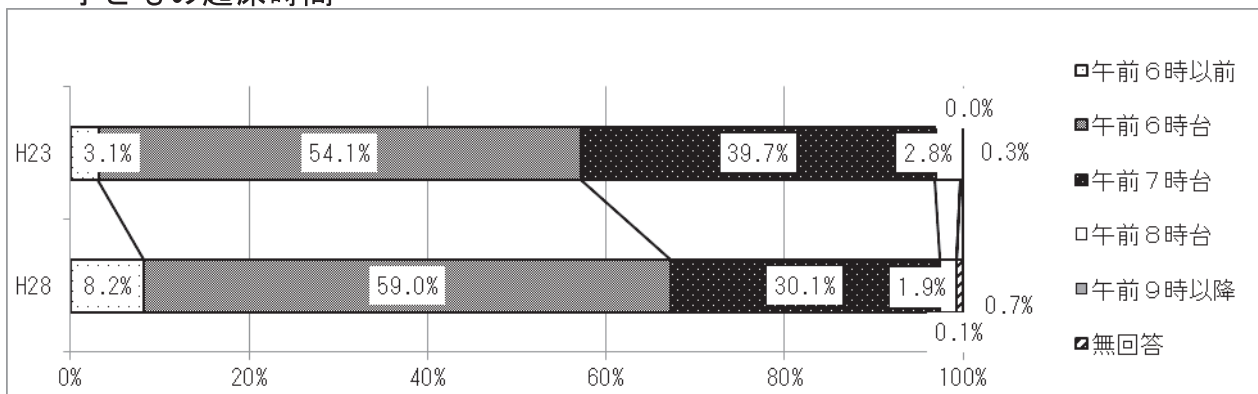
##### ① 生活リズム

乳幼児の生活リズムについて、平成23年度と平成28年度に実施したアンケートの結果を比較してみると、起床については7時前に起床する子どもが57.2%から67.2%に増え、改善していることがわかります。また、子どもが朝食を食べる割合は平成23年度が98.4%、平成27年度は97.4%とほとんど変化はありませんでしたが、「朝食を家族全員で食べる」割合は77.1%から79.8%に増加しています。

就寝については21時前に就寝する子どもが13.3%から31.2%に増え、全体的には改善傾向にあります。22時以降に就寝する子どもが15.2%います。親の就労形態の多様化により、子どもの生活時間への影響が考えられます。

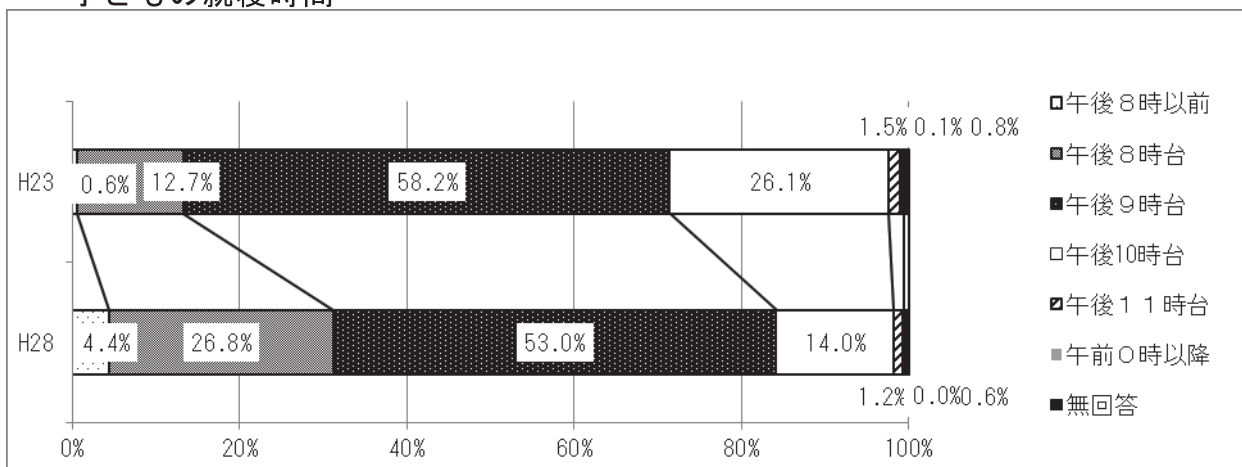
今後も生活リズムの重要性を乳幼児健康診査や育児教室等で普及・啓発していく必要があります。

子どもの起床時間



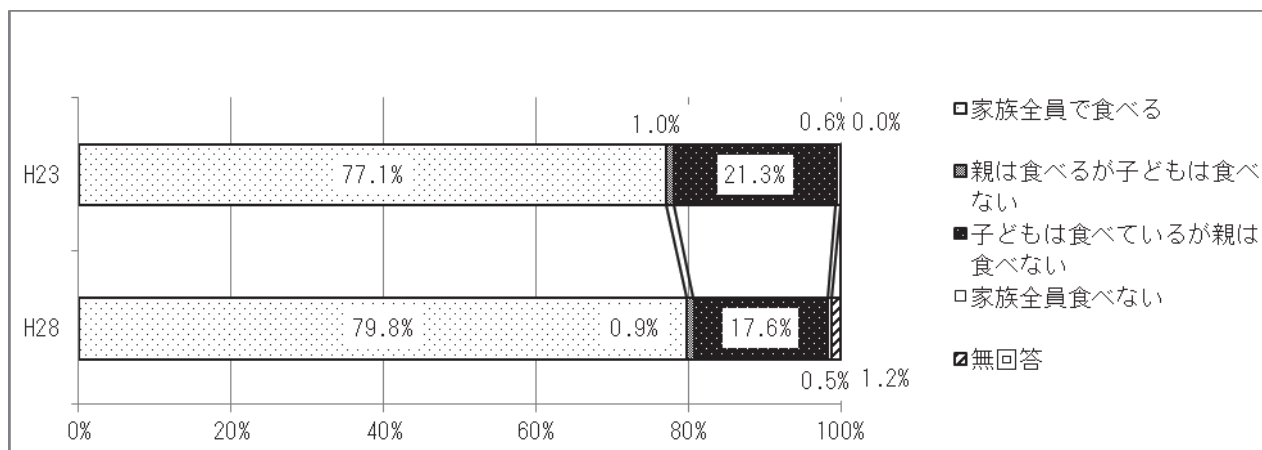
(平成23年度、平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)

子どもの就寝時間



(平成23年度、平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)

## 朝食について



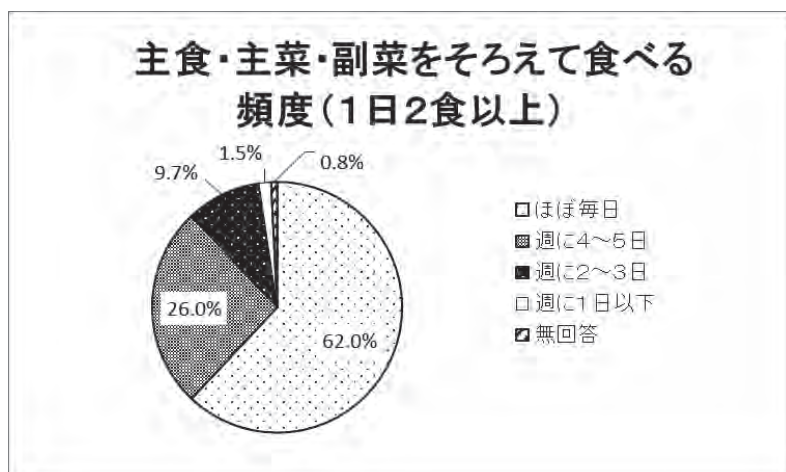
(平成23年度、平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)

## ② 食育の推進

生涯を通じた健康づくりの出発点として、食育教室や栄養指導を行っています。

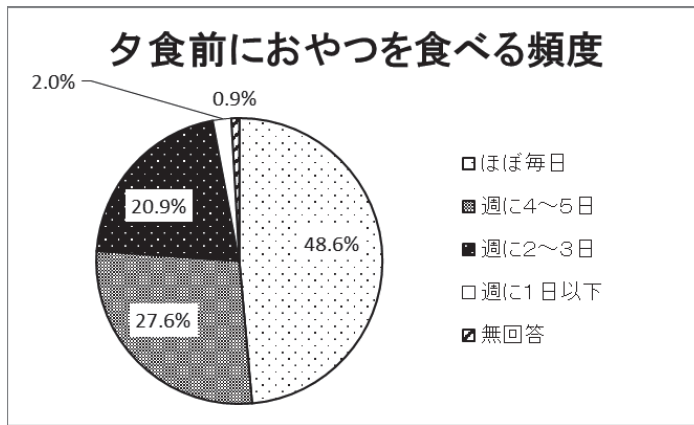
最近の相談内容から、子どもの発達への見通しとそれに合わせた食の進め方に不安を抱えている保護者が増えていることが課題となっています。乳幼児期の食事は、生涯の生活習慣病予防はもとより「子どもが自立を獲得していくプロセス」として、健全で正しい食習慣や選択力を身につける生活習慣確立の土台づくりという役割があります。

子どもの食習慣について、平成28年度に実施したアンケートによると、主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度（1日2食以上）が「ほぼ毎日」が62.0%でした。半数以上がバランス食を意識できているものの、頻度が週2～3日程度という回答も1割程度あり、バランス食の浸透にまだ課題がある現状です。

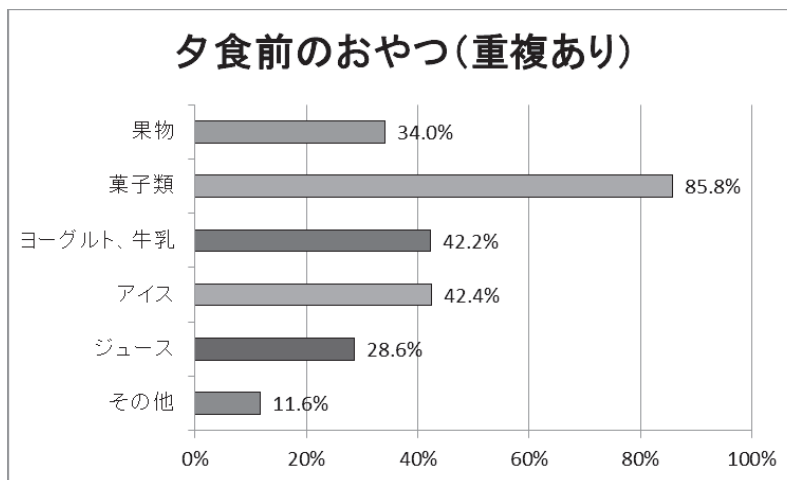


(平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)

幼児の間食についてのアンケートによると、園で間食をして、さらに夕食前に間食をしていると回答した方が76.2%いました。内容については「菓子類」が最も多く、85.8%という結果でした。夕食前の間食は、夕食時間が遅くなるなど生活リズムの乱れにもつながります。ライフスタイルとしてやむを得ない状況もあると思われませんが、幼児にとってのおやつ（間食）の意義について、保護者が考える力をつけられるよう支援していく必要があります。



(平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)



(平成28年度 親と子の健康と子育てに関するアンケートより)

朝食について、アンケートによると「子どもは食べているが親は食べない」「家族全員食べない」の合計が18.1%で、保護者自身の食生活にも課題がある現状がわかりました。保護者の食に対する考え方も多様化しており、支援のあり方にも工夫が求められています。保護者も含めた家族全体の食生活の見直しができるよう、集団や個別の栄養指導を充実させる必要があります。

今後も月齢や年齢にあわせた適切な指導を行い、相談体制の充実に努めていきます。また、食生活改善推進員等ボランティア団体とも連携しながら、地域における食育の推進にも努めていく必要があります。

### ③ 身体活動

文部科学省調査によると、約2割の子どもは3歳くらいまでの時期に積極的に体を動かす遊びをたくさんしていないことが報告されています。また、外遊びの時間が多い幼児ほど運動能力が高い傾向にありましたが、4割を超える幼児の外遊びの時間が1日1時間(60分)未満でした。このような現状を踏まえ、文部科学省は「幼児期運動指針」(平成24年3月)を策定し、その中で『幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切です!』と謳っています。

栃木県は全国に比べ、休み時間や下校後に運動をしない小学生の割合が高い傾向にあるとともに、「走る・跳ぶ・投げる」といった基礎的な運動能力が低い傾向にあります。県では「幼児期運動指針」に基づき、より具体的な方向性や実際の取組について小学校の低学年までを見据えて、運動習慣の基盤づくり

のための指導資料「体を動かすことが大好きな子どもを育てよう～幼児期から児童期に遊びや生活の中で大切にしたいことから」を作成し、身体活動の確保の重要性について普及・啓発しています。

幼児期に体を動かす遊びを中心とした身体活動を十分にすることは、基本的な動きを身につけるだけでなく、生涯にわたって健康を維持し、積極的にさまざまな活動に取り組み、豊かな人生を送るための基盤づくりになります。

また、発達を促す観点からも幼児期の運動は、身体諸機能が調和的に発達することにつながるため、とても重要です。

そのため、保育園、幼稚園、家庭において散歩やお手伝いを含め、楽しく体を動かす遊びを中心とした身体活動の時間を確保していくことが重要です。

特に、外遊びは、日中に太陽の光を浴びることで生活リズムが整いやすくなり、室内遊びでは得られない刺激も受けられるため、体力がつき、脳の発達や情緒の安定につながります。そのため、保育園・幼稚園と連携して「外遊び」を推進していく必要があります。

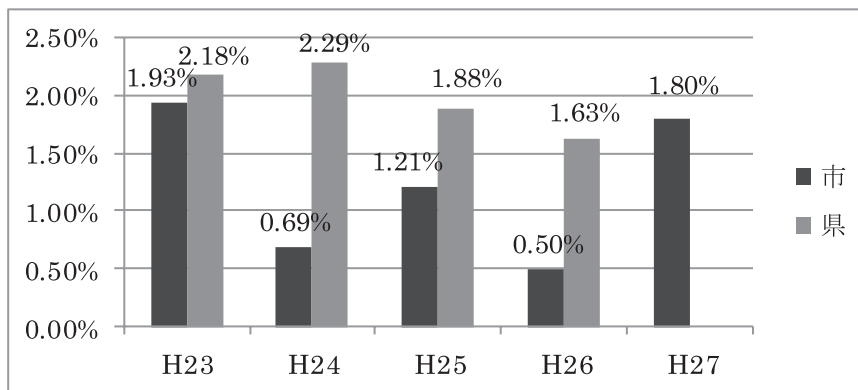
(参考：「体を動かすことが大好きな子どもを育てよう～幼児期から児童期に遊びや生活の中で大切にしたいこと～」栃木県総合教育センター幼児教育部 栃木県幼児教育センター)

#### ④ 歯の健康づくり

本市の乳幼児期のむし歯保有率は年々減少傾向でしたが、平成26年度と比較すると平成27年度は増加し、特に1歳6か月児健康診査でのむし歯保有率が増加しました。

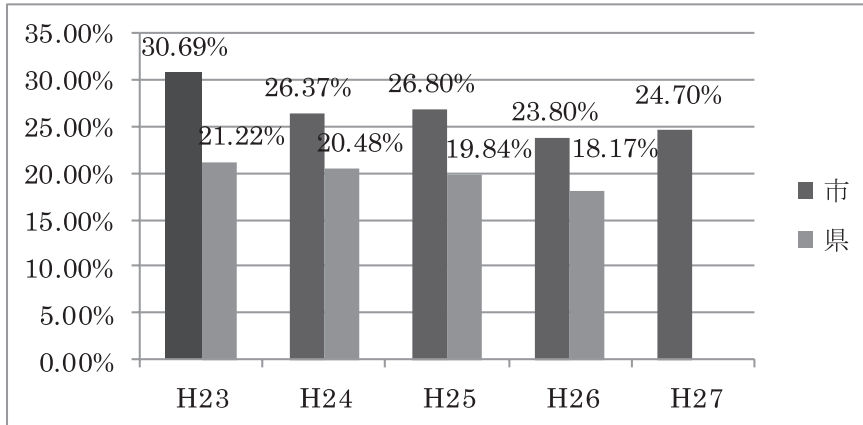
県と比較すると、平成25年度においては、1歳6か月児健康診査時のむし歯保有率は県平均よりも低い状況でしたが、3歳児健康診査では県平均を上回り、県内でも高い保有率になっています。本市では、1歳6か月児健康診査から3歳児健康診査の間に、むし歯が急増する傾向にあります。

1歳6か月児健康診査におけるむし歯保有率（未処置のむし歯のある子の率）



平成26年度 県内順位2位／26市町（県内ベスト2）

### 3歳児健康診査におけるむし歯保有率（未処置のむし歯のある子の率）



#### 平成26年度 県内順位19位/26市町（県内ワースト7）

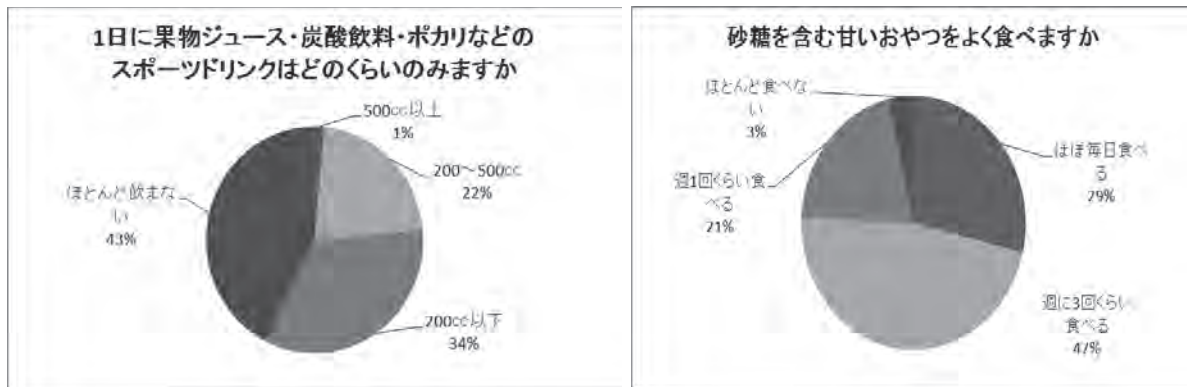
（平成27年度歯及び口腔の健康づくりに関する報告書、大田原市母子保健事業実績報告より）

3歳児健康診査における生活習慣アンケート結果から、むし歯の原因について考えてみると、3歳児健康診査における甘い飲み物については、約6割の子どもが毎日何かしら甘い飲み物を摂取している状況で、甘いおやつについては、約3割の子どもがほぼ毎日摂取している状況でした。

むし歯につながる生活習慣（甘い飲み物、おやつの内容、おやつをとる時間のリズム、食事のバランス）は、肥満等生活習慣病とのつながりも深いため、歯科医師、歯科衛生士等と連携し、むし歯予防の取り組みに力を入れていく必要があります。

#### 3歳児健康診査における生活習慣アンケート結果

（平成27年5月～平成28年2月分 集計数：395人）

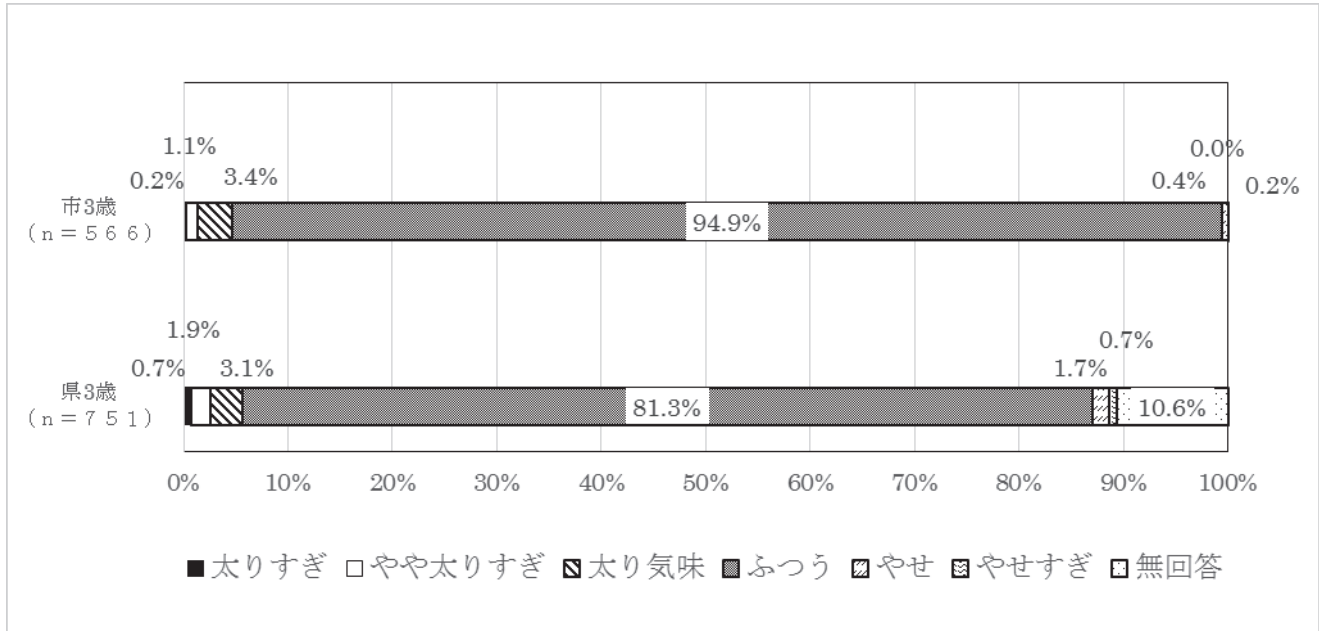


#### ⑤ 小児肥満の予防

3歳児における肥満度※を県と比較すると「ふつう」が94.9%と県（81.3%）より多い割合を占めており、「やせ」が0.4%（2人）と少なく、「やせすぎ」はいませんでした。「太りすぎ」「やや太りすぎ」も県と比較すると少ない状況ですが、1.3%（7人）いました。



## 肥満度（3歳児）



（市：平成27年度3歳児健康診査結果より）

（県：平成27年度子どもと家族の食生活等実態調査結果報告書より）

本市の小学5、6年生及び中学生に実施している小児生活習慣病予防健診の結果において、「肥満」が全国・県と比較すると特に小学5、6年生の肥満が多い状況であることから、肥満予防の早期介入として、平成25年度から一定の基準を設け、3歳児健康診査において小児肥満外来（那須赤十字病院）の紹介や肥満予防についての保健指導を実施しています。また、市内の小中学校や保育園・幼稚園等において、小児肥満予防講話会を実施し、小児肥満予防についての知識の普及・啓発を行っています。

今後も、将来の肥満や動脈硬化を予防するために、医療機関や学校保健等とも連携しながら小児肥満予防に取り組んでいく必要があります。

※肥満度：平成12年次の日本人小児の体位から算定した身長別標準体重を基準

肥満度（%）＝

$$\frac{[\text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)}]}{\text{身長別標準体重 (kg)}} \times 100 (\%)$$

（出典：平成12年乳幼児身体発育調査報告書（厚生労働省））

## ⑥ 感染症予防

伝染のおそれがある疾病の発生及びまん延を予防するため、予防接種法に基づく定期予防接種及び市が行政措置として行う法定外予防接種を実施し、感染症予防を推進しています。

子どもを対象とした定期予防接種は、ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎、破傷風、麻しん、風しん、日本脳炎、結核、Hib感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症、水痘、B型肝炎を対象疾病とし、接種費用の全額を助成し実施しています。

平成25年3月の予防接種法改正により予防接種制度についての幅広い見直しが行われ、Hib感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症が定期接種

に追加されました。さらに、平成 26 年 10 月に水痘、平成 28 年 10 月に B 型肝炎が定期接種に追加され、他の先進国とのワクチンギャップの解消が図られています。

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種については、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が特異的にみられたことから、国民に適切な情報提供ができるまでの間として、平成 25 年 6 月 14 日から積極的な接種勧奨を差し控えています。

また、法定外予防接種としては、ロタウイルス胃腸炎、おたふくかぜ、B 型肝炎、風しんを接種費用の半額を助成し実施しています。おたふくかぜ、B 型肝炎、水痘の予防接種は平成 24 年 10 月 1 日から実施しましたが、水痘予防接種は平成 26 年 10 月に定期接種化されたことから、平成 27 年 3 月 31 日で終了しました。また、風しんは平成 24 年からの流行による先天性風しん症候群の児の出生を予防するため、妊婦を風しんから守ることを目的に平成 25 年 5 月 10 日から助成を開始しました。

定期予防接種の接種率としては、積極的勧奨を差し控えているヒトパピローマウイルス感染症予防接種を除くと 95.9%（平成 27 年度実績）となっていますが、種類によっては接種率の低いものもあります。法定外予防接種のうち乳幼児対象のものについては、保護者に費用負担があっても 8 割以上の接種率であり予防意識の高さによるものと思われます。さらに、接種率の向上のため対象者への周知を徹底するほか、未接種者への再通知、乳幼児健康診査や就学時健診での接種勧奨、広報活動等の取り組みを行っています。今後も、より適切な時期での接種を推進するため、普及・啓発活動を行っていきます。

## 予防接種実施状況（平成27年度）

### ①定期接種

予防接種の種類	延べ対象者数 (人)	延べ実施者数 (人)	接種率 %
BCG	544	544	100.0
不活化ポリオ	54	54	100.0
DPT-IPV	2,180	2,120	97.2
DPT	1	1	100.0
ジフテリア 破傷風	1,309	642	49.0
麻しん風しん	1期	536	103.5
	2期	575	94.7
水痘	1,112	1,080	97.1
日本脳炎	2,422	2,687	110.9
Hib感染症	2,180	2,158	99.0
小児の肺炎球菌感染症	2,180	2,158	99.0
ヒトパピローマウイルス感染症	4,090	24	0.6
※定期接種全体の接種率（ヒトパピローマウイルス感染症除く）			95.9%

（平成27年度地域保健報告、平成27年度大田原市保健予防業実績報告より）

## ②行政措置による法定外予防接種

予防接種の種類	延べ実施者数 (人)	備考
ロタウイルス胃腸炎	982	接種率 85%
おたふくかぜ	682	1歳児の接種率 88.7%
B型肝炎	1,392	0歳児の接種率 80.0%
風しん	53	

(平成27年度大田原市保健予防事業実績報告より)

### 課題と施策

課 題	施 策
<p><b>乳幼児の規則正しい生活習慣づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 22時以降に寝る子どもが15.2%</li> <li>・ 朝食を食べない子どもが1.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期からの生活リズムの重要性や食習慣等、生活習慣に関する知識の普及・啓発を今後も継続して実施していきます。</li> </ul>
<p><b>乳幼児期における食習慣の基礎づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度がほぼ毎日」(1日2食以上)が62.0%</li> <li>・ 「夕食前におやつを食べる頻度がほぼ毎日」が48.6%(保育園・幼稚園に通う子ども)</li> <li>・ 「夕食前のおやつの内容が菓子類である」が85.8%(同上)</li> </ul> <p>※乳児期に多く見られる相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授乳、離乳食について</li> </ul> <p>※幼児期に多く見られる相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 好き嫌い(特に野菜)</li> <li>・ 食事のムラ</li> <li>・ おやつ(補食)について</li> <li>・ 食事の進め方</li> <li>・ 朝食について、「親が食べない」「子どもは食べているが親は食べない」と「家族全員食べない」の合計)が18.1%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳幼児期からの生活リズムの重要性や食習慣等、生活習慣に関する食支援を、離乳食をスタートとして、各健康診査・相談等において継続して取り組んでいきます。</li> <li>・ 子どもの食に関して、保護者が見通しを持てるような相談・指導を個別性を重視して行っていきます。</li> <li>・ 各教室や児の発達に合わせた食に関する相談・指導について、内容を充実させていきます。</li> <li>・ 食生活改善推進員等地域のボランティア団体とも連携し、多方面から生活リズムの重要性・バランス食・家族団欒等について普及・啓発していきます。特にバランス食において、主食、主菜、副菜をそろえて食べる習慣を乳幼児期から定着させていきます。</li> <li>・ 大人が子どもの食体験や食習慣を重視し、食のあり方に注意を払わなければならないと認識していけるよう啓発していきます。</li> </ul>

課 題	施 策
<p><b>学童期（小5、小6）の肥満が多い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児健康診査における肥満は県と比べて少ないが、小学5、6年生の肥満が全国・県と比べて多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児健康診査や講話会等において、小児肥満予防に関する知識の普及・啓発を行います。</li> <li>・乳幼児健康診査や小児生活習慣病予防健診の結果を分析、評価しながら、将来の肥満や動脈硬化を予防するために、医療機関や学校保健等と連携しながら、小児肥満予防に取り組んでいきます。</li> <li>・子ども自身が将来的に食に対する選択力がつくように、乳幼児期から保護者も含めた支援を行っていきます。</li> </ul>
<p><b>3歳児のむし歯有病率が高い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児健診において、約6割の子どもが毎日甘い飲み物を摂取している。また、約3割の子どもが甘いおやつをほぼ毎日摂取している。</li> <li>・おやつや甘い飲み物の頻度や量の多さ、だらだら飲み、だらだら食べが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものむし歯予防のスタートとして、妊娠届出の段階から口腔衛生の必要性を啓発し、妊娠中の歯科健診受診を勧奨していきます。</li> <li>・バランスのよい食事とおやつの内容やとり方、水分摂取の内容やとり方等について、普及・啓発していきます。</li> <li>・1日3回の食事と間食を規則正しくとることができるよう、子どもを持つ家庭だけでなく、地域全体にも普及・啓発していきます。</li> </ul>
<p><b>文部科学省調査によると、4割を超える幼児の外遊びの時間が1日1時間（60分）未満</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの時間が多いほど運動能力が高い傾向がある。</li> <li>・栃木県は全国に比べ、「走る・跳ぶ・投げる」といった基礎的な運動能力が低い傾向にある。</li> <li>・22時以降に寝る子どもが15.2%。（市アンケート調査結果より）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園と連携して「外遊び」を推進していきます。</li> <li>・乳幼児健康診査時や保育園・幼稚園にパンフレット（県作成）を配布する等、保育園・幼稚園と連携して、身体活動の確保の重要性について、保護者に普及・啓発していきます。</li> </ul>
<p><b>予防接種率の向上</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者への周知徹底を行います。</li> <li>・より適切な時期での接種を推進するため、未接種者への接種勧奨、広報活動等を、今後も普及・啓発していきます。</li> </ul>

評価指標

評価指標		ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 子どもの 生活リズム	7時までに起床 する児の割合	67.2%	増加	増加
	21時までに就 寝する児の割合	31.2%	増加	増加
2. 主食・主菜・副菜をそろえて 食べる頻度がほぼ毎日（1日 2食以上）		62.0%	増加	増加
3. 天気の良い日は、保育園・幼 稚園で1日60分以上外遊び する園の数 （3歳児以上の児）		平成28年度調査予定	増加	増加
4. むし歯のない3歳児の割合		75.3%	増加	増加
5. 仕上げ磨きをする親の割合		97.8%	維持	維持

## 基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた 保健対策

- 1 思春期の心と身体健康づくり
- 2 規則正しい生活習慣づくり
- 3 学童期の歯科保健

### 目標

子どもが主体的に取り組む健康づくりを支援し、次世代の健康を育む保健対策の充実を図る

## 基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

### 目 標

子どもが主体的に取り組む健康づくりを支援し、次世代の健康を育む保健対策の充実を図る

### 1 思春期の心と身体健康づくり

#### 現状と課題

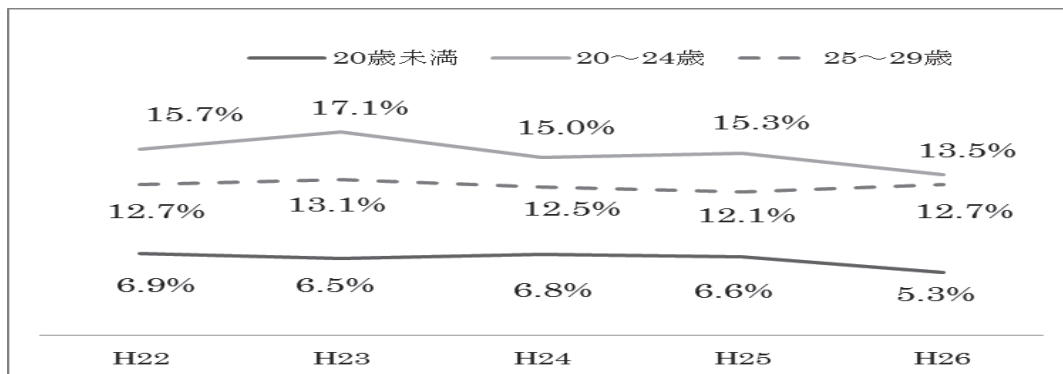
#### ① 人工妊娠中絶について

栃木県の20歳以下の人工妊娠中絶の割合は、平成22年に比べ20歳未満と20～24歳以下は減少傾向です。25～29歳以下においては、ほぼ横ばいであり、妊娠・出産適齢期でもある20～29歳の1割以上が人工妊娠中絶をしていることが問題です。

望まない妊娠を減らすためには、男女とも自分や相手の体のことを知るとともに、妊娠・出産の適齢期を知り、ライフステージの中で結婚や妊娠・出産を含めたライフプランを考える力が必要です。

また、子ども幸福課内に設置した「子育て世代包括支援センター」は、不妊や望まない妊娠等、ひとりで悩まないよう妊娠に関する様々な相談ができる窓口として幅広く周知していく必要があります。

#### 人工妊娠中絶率の推移



(平成26年度「衛生行政報告例」より)

#### ② 性の自認

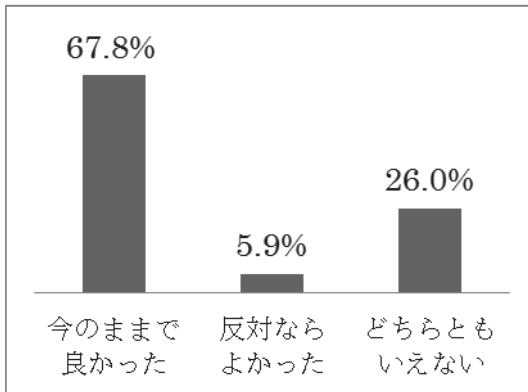
平成23年度の中학생に対する調査では自分の性を自認できている人は64.5%でしたが、平成28年度では67.8%と高くなっています。しかし、男子に比べ女子の方が自分の性を自認している生徒は少ないことがわかります。また、「反対ならよかった」と回答している女子は男子の約5倍になっています。女子は月経等、体の変化が大きく、月経痛等身体的ストレスも伴いやすい時期であるためと思われます。

また、LGBT\*のような性の多様化が認められつつある時代になってきているとはいえ、思春期においては悩みが深い問題と考えられます。

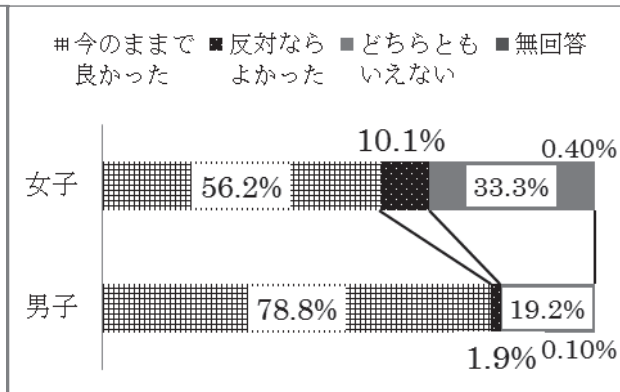
\*LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性

愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害等心と体の性が一致しない人)の頭文字に由来し、性的少数者を意味します。

### 性の自認



### 性の自認の男女差

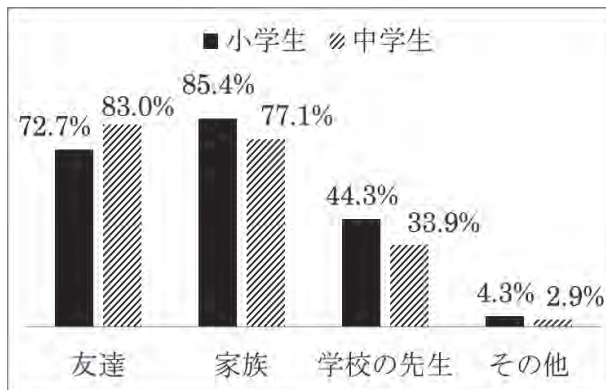


(平成28年度健康に関する調査結果より)

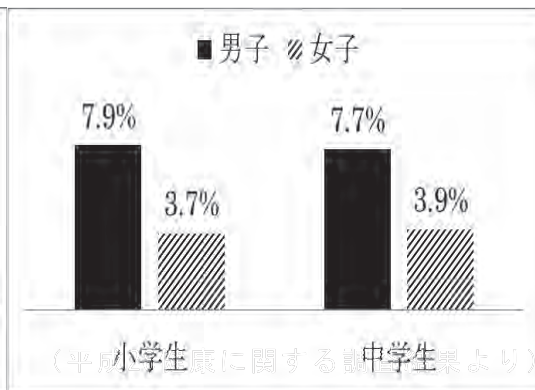
### ③ 困ったときの相談相手

「困ったときの相談相手がいる」と回答している人は小学生・中学生ともにほぼ同率で90%を超え高い状況でした。相談相手としては友達が多いほか、3割以上の生徒が「学校の先生」と回答しており、学校での丁寧な関わりがうかがえます。しかし、「相談相手がない」と回答している人も少数ですがおり、男女差がみられます。友達関係や親子関係、将来に向けての不安のほか、体や心の変化に悩むことも大きいこの時期は、誰かに打ち明けることのできる環境づくりが大切です。

### 相談相手(重複)



### 相談相手がない人の割合



(平成28年度健康に関する調査結果より)

また、10代の自殺は全国的な問題であり、どう予防していくかが課題となります。そのために小学校・中学校だけではなく、自己肯定感を高めるための土台づくりとして、乳幼児期からの母子関係の構築のための支援が必要と思われます。

### 10代の自殺死亡率(10万対)

	全国	栃木県
10歳～14歳	1.8	1.1
15歳～19歳	7.3	4.3



#### ④ 思春期健康教室

各小学校・中学校において、文部科学省の学習指導要領に基づき保健体育の授業、あるいは宿泊学習前の事前学習等を利用する等丁寧に行っているところですが、市としても外部の講師に委託して思春期健康教室を実施し、思春期保健に力を入れています。小学校6年生・中学生を対象に、系統立てて小学校では命の大切さを学び自分自身を大切にすること、中学校では思春期の心と体の変化、男女交際等について学び、将来の豊かな母性・父性の形成を培う内容で実施しており、大学や病院の現場の助産師が講師となることで子どもたちの反応もよく、興味を持って学びを深めることができています。

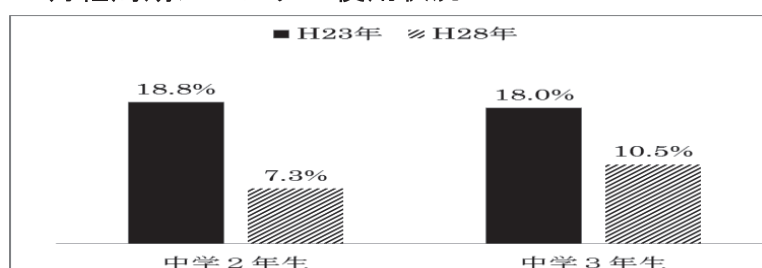
健康に関する調査結果や自殺予防の観点から、自分自身を大切にすることはもちろん、今後は、他者をも大切に、性の多様化を認め合うこと、また、悩んでいる小学生・中学生に相談窓口を紹介し一人で悩まない体制をつくること等、関係機関と連携し小学生・中学生たちの実態に即した内容や方法の検討が必要です。

平成27年度思春期健康教育実績

	受講人数	受講率
中学校全校実施	1,536人	96.2%
小学校全校実施	687人	98.3%

また、中学生の女子には自分自身の体の理解に役立てられるよう月経周期カレンダーを配布していますが、活用している割合は、平成28年度は平成23年度と比べ減少しています。手軽に体調・月経管理ができるアプリ等を利用しているとの声もありますが、10.7%は「月経周期カレンダーを知らない」と回答しています。今後も関係機関と連携し、自分の体の変化や健康状態を知るためだけでなく、妊孕性を考える上からも、ライフサイクルの視点を取り入れた効果的な学習内容や活用方法を検討していく必要があります。

月経周期カレンダー使用状況



(平成23年度思春期に関するアンケート、平成28年度健康に関する調査結果)

#### ⑤ 飲酒について

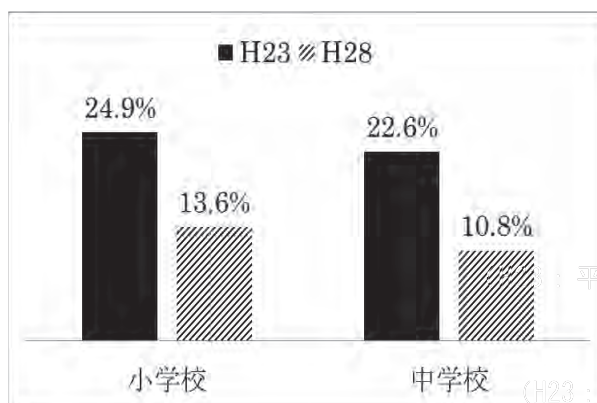
飲酒経験については、小学生・中学生とも平成23年度に比べ10%以上減少し、特に中学生では2分の1まで減少しています。また、「お酒を勧められた時に断れるか」という質問に対しては、前回の結果より「断れる」人がやや増加しています。

成人に比べ未成年者の飲酒は、臓器でのアルコールの分解能力が低く、急性アルコール中毒等の健康被害が起こりやすくなります。特に未成年期は、飲酒に対する自己規制が効かなくなりやすいため、危険性が高まります。また、飲

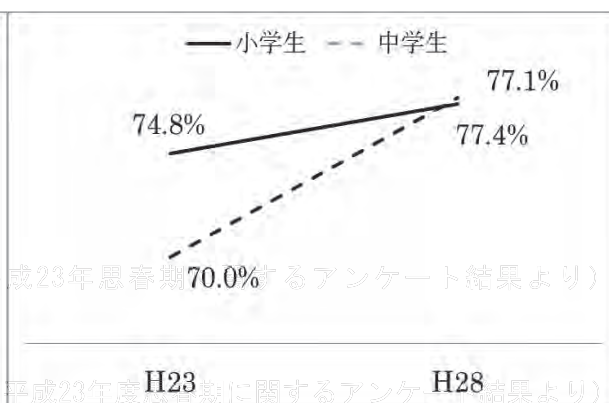
酒を継続していくと将来は肥満や生活習慣病といった問題も出てきます。調査結果から飲酒経験をしている小学生・中学生は、まだ10%を超えています。そして、「勧められても断れない人」あるいは「どちらともいえない」という小学生・中学生は約20%いました。

保護者や周りの大人が飲酒を勧めない環境が大切であるため、小学生・中学生への知識の普及・啓発とともに、保護者や周りの大人に対する知識の普及・啓発も必要です。

飲酒経験率の推移



飲酒を勧められたとき断れる割合



(H28: 平成28年度健康に関する調査結果より)

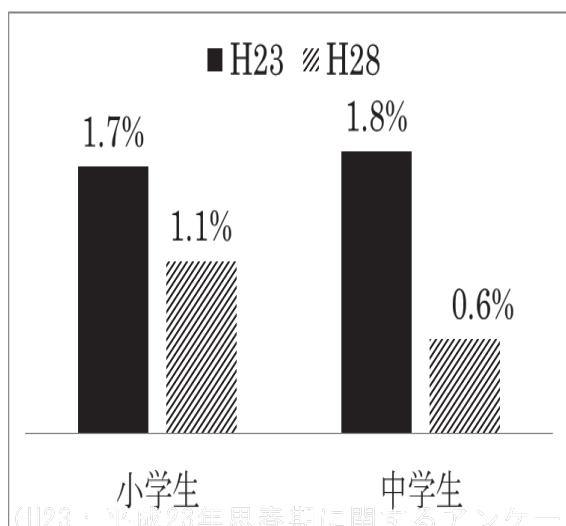
### ⑥ 喫煙について

調査結果によれば、平成23年度に比べ小学生・中学生ともに減少傾向です。特に、中学生では2分の1以下にまで減少しています。

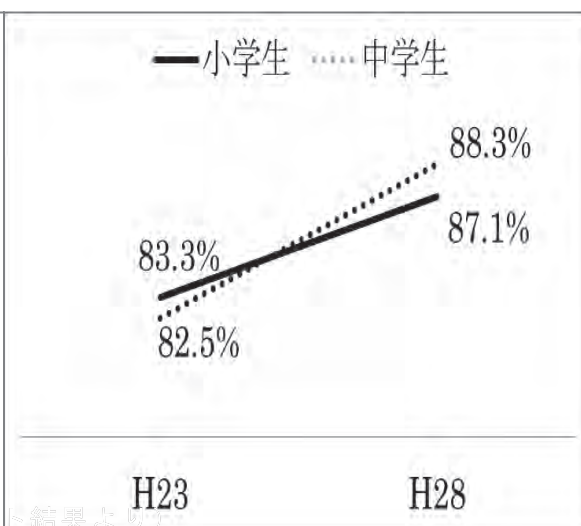
また、「たばこを吸っている人を見てどのように思うか」という質問に対して「かっこいい」あるいは「どんな味だか知りたい」とたばこを肯定的に捉えている小学生は4.5%、中学生では2.7%で、平成23年度調査と比べると減少しています(平成23年度結果 小学生7.3%、中学生4.0%)。

「たばこを勧められて断れるか」という質問に対しては、断れる人の割合が高くなっています。しかし、「断れない」あるいは「どちらともいえない」と回答している小学生・中学生が10%以上います。

喫煙経験率の推移



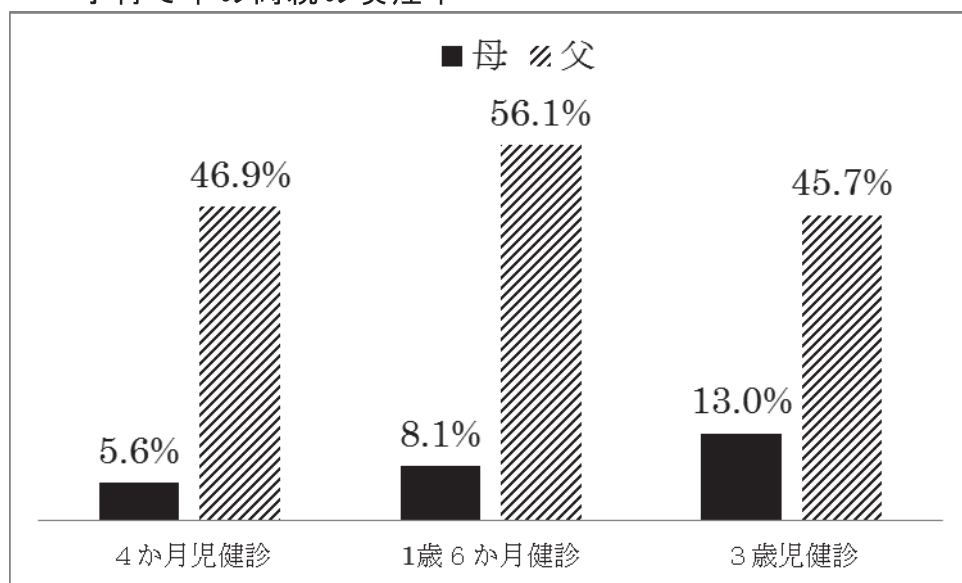
たばこを勧められて断れる割合



(H28: 平成28年健康に関する調査結果より)

また、子育て中の両親の喫煙については、約半数の父親が子育て中も喫煙しており、母親の喫煙率も子どもの年齢が上がるにつれて上昇していることがわかります。

子育て中の両親の喫煙率



(平成27年度すこやか親子アンケート結果より)

分煙・喫煙マナー等社会的環境整備のほか、学校教育等の取り組みにより正しい知識や情報から自ら決断できる小学生・中学生が増えてきていますが、家庭環境の影響も大きい時期であるため、今後も継続した喫煙防止の取り組みが必要です。

### 課題と施策

課題	施策
1. 妊婦の高齢化や、不妊治療費助成件数の増加がある一方で、妊娠適齢期にある20～29歳以下の人工妊娠中絶が1割を超える状況にある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・出産の適した時期について普及・啓発し、自分の人生設計を考える機会を作っていきます。</li> <li>・県や学校、医療機関等関係機関と連携し、妊孕性を理解し、ライフプランが考えられるように周知方法等を検討していきます。</li> <li>・子育て世代包括支援センターの周知を図っていきます。</li> </ul>
2. LGBTや性の自認を含め、自分の体や心の変化が大きな問題となる時期であるが、この時期に相談相手がない小学生・中学生がいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期健康教室でLGBT等の性の悩みの相談窓口を周知していくほか、性の多様性への理解や普及・啓発をしていきます。</li> </ul>

課 題	施 策
3. 未成年の飲酒・喫煙について、10%以上が飲酒経験者であり、約5%が喫煙経験者である。改善傾向にはあるが、子育て家庭の喫煙率が49.5%と子どもの頃から喫煙を身近に感じる環境にある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童健全育成のため、未成年の飲酒や喫煙の防止について、関係機関と連携し啓発していきます。</li> <li>・地域に対しては、未成年者の飲酒・喫煙への影響を周知し、大人が小学生・中学生へ勧めないことを啓発していきます。</li> </ul>

### 評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 10代の人工妊娠中絶率	平成26年 栃木県 5.3%	減少	減少
2. 10代の自殺死亡率 (人口10万対)	平成26年 栃木県 10～14歳 1.1 15～19歳 4.3	減少	減少
3. 小中学生の飲酒率	平成28年 小学生 13.6% 中学生 10.8%	減少	減少
4. 小中学生の喫煙率	平成28年 小学生 1.1% 中学生 0.6%	減少	減少

## 2 規則正しい生活習慣づくり

### 現状と課題

#### ① 小児生活習慣病予防健診

平成27年度の受診率は98.1%と高く、健診結果においては「異常なし」の割合が小学生は76.3%、中学生は82.3%となっています。項目別有所見割合は、すべての検査項目において平成24年からほぼ横ばいの状況となっていますが、平成27年度は「脂質異常」が19.9%と高く、次いで「高血圧」の13.4%、「肥満」の11.6%となっています。

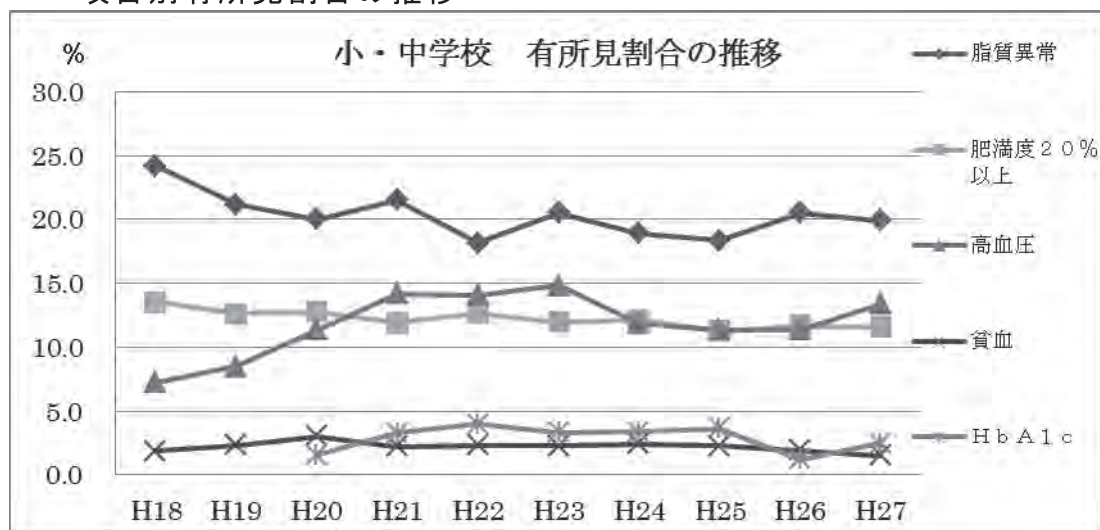
本市の特定健診においても、小児生活習慣病予防健診の結果同様に「脂質異常」「高血圧」「肥満」が問題となっています。

平成27年度 小児生活習慣病予防健診結果割合 (単位：%)

	受診率	小児生活習慣病予防健診 総合判定結果			検査項目別有所見結果 (要指導・要精密検査)				
		異常なし (N. IV)	要生活 指導(Ⅲ) 要経過 観察(Ⅱ)	要医学 的管理 (Ⅰ)	肥満度 20% 以上	高血圧	脂質 異常	貧血 検査	HbA1c
小学校	98.6	76.3	21.6	2.1	14.0	7.1	23.3	0.6	3.0
中学校	97.8	82.3	16.5	1.1	10.0	17.5	17.8	2.1	1.9
合計	98.1	80.0	18.5	1.5	11.6	13.4	19.9	1.5	2.4

小児生活習慣病予防健診においては、健診を開始した平成18年度からの推移をみると「脂質異常」と「肥満」は減少していることがわかります。

項目別有所見割合の推移



事後指導を実施した人のうち70%以上に肥満があり、面接の結果から、野菜不足や炭水化物過多、糖質の入った飲み物が多いという傾向がみられました。「平成28年健康に関する調査結果」をみても、約3割の小学生・中学生が「普段よく飲む

飲み物」は水や麦茶ではなく、「甘い飲み物」「スポーツドリンク」「炭酸飲料」と回答しています。

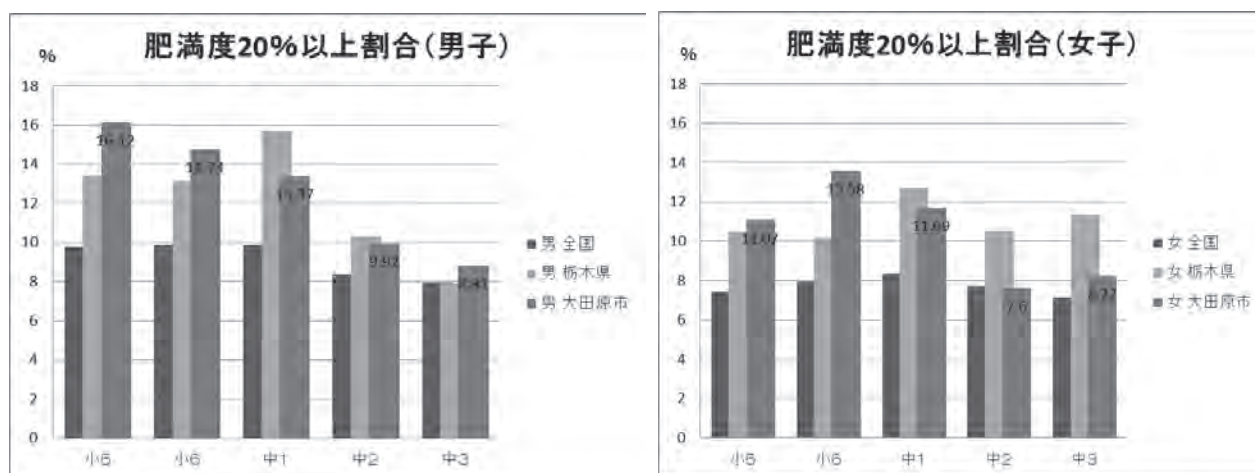
健診の有所見結果については、近年の生活習慣や食生活の変化、家庭環境や健康意識の変化等の要因が考えられます。このような状況を踏まえ、妊娠期から水分補給は糖分を含まない飲料を推奨し、離乳食の段階から野菜嫌いを防ぐコツ、おやつの選び方、食べ方等の知識の普及・啓発等にも取り組んでいます。

小児期から健康的な発育や生活習慣の形成をしていくために、今後も学校保健や医療機関等とも連携を図りながら、小児期からの生活習慣病予防に取り組んでいく必要があります。

## ア) 肥満

「肥満度20%以上」割合を全国・県と比較すると、本市は特に小学5、6年生の肥満が多いことがわかります。小児期の生活習慣病を予防するため、また、小児期の肥満は将来の肥満や生活習慣病に移行する可能性が明らかにされていることから、今後も、学校や医療機関等と連携、協力しながら小児肥満予防に取り組んでいく必要があります。

肥満の全国・県・市の比較

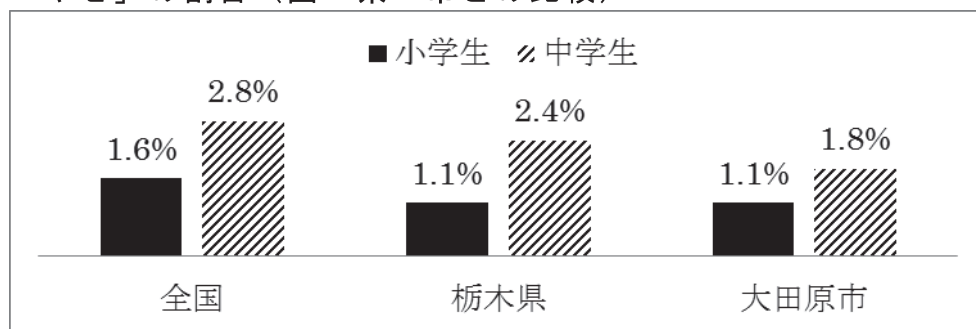


(全国・県：平成27年度学校保健統計より)  
(市：平成27年度小児生活習慣病予防健診より)

## イ) やせ

です。小児生活習慣病予防健診において肥満度-20%以下の「やせ」の割合は、全国と比較すると少ない状況です。

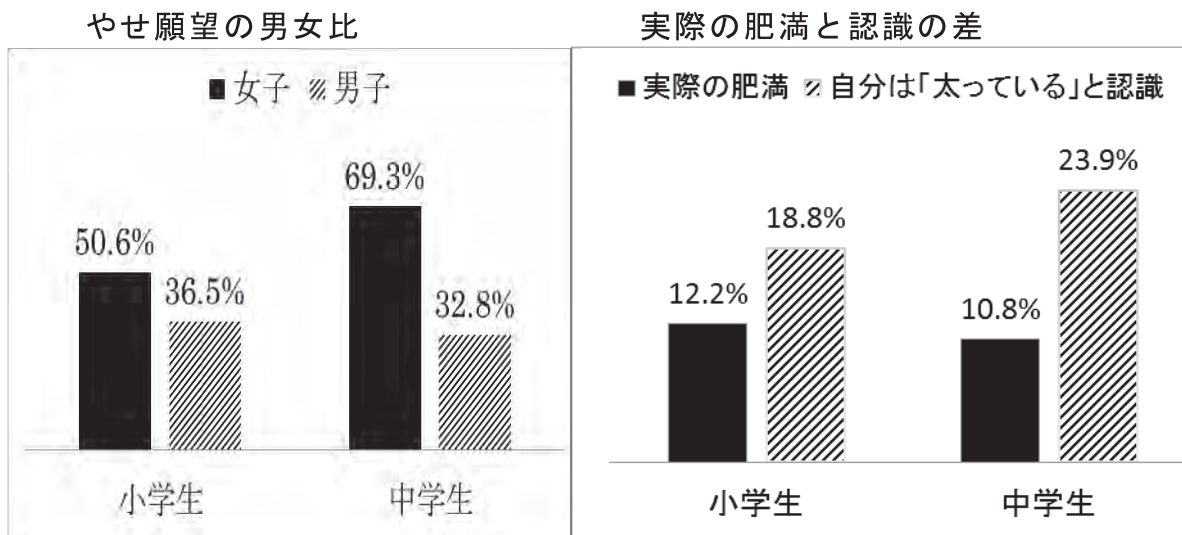
「やせ」の割合(国・県・市との比較)



(全国・県：平成28年度学校保健統計より)  
(市：平成28年度小児生活習慣病予防健診より)

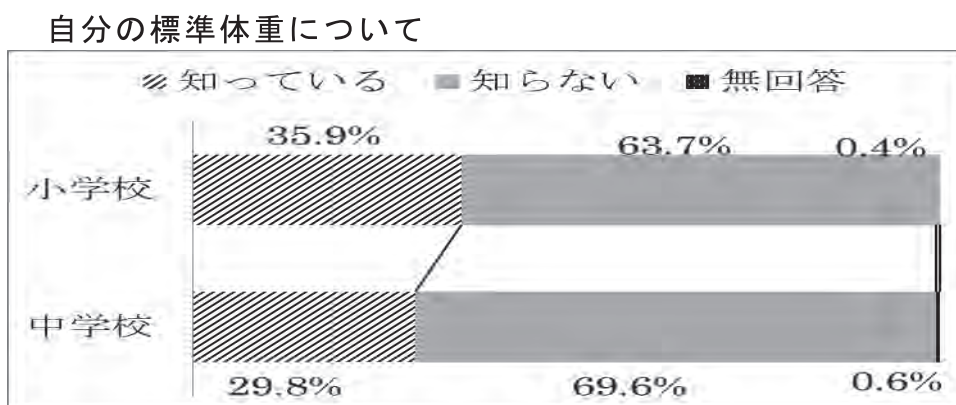
しかし、今以上にやせたいと思っている小学生・中学生が、特に女子に多く小学生の約半分、中学生では約70%（男子の2倍）という結果でした。

また、自分の体格が「太っている」と感じている人と、実際の肥満の割合とは異なっており、小学生では4.8ポイント、中学生では13.9ポイントの差が生じています。この認識の差もやせ願望につながっていると考えられます。



(H28年度小児生活習慣病予防健診結果より)  
(H28年健康に関する調査結果より)

「自分の標準体重を知っているか」については、「知っている」と回答したのは約30%でした。実際の体格と認識とに差がある、あるいはやせ願望等があると、自分の適正な食事量を考えることは難しくなります。標準体重を周知していくことは、妊娠・出産のほか、生活習慣病予防の観点からも大切であるため、標準体重を周知し、自分に見合った食事量やバランスを考えて選んで食べることの大切さを子ども自身が理解していく必要があります。



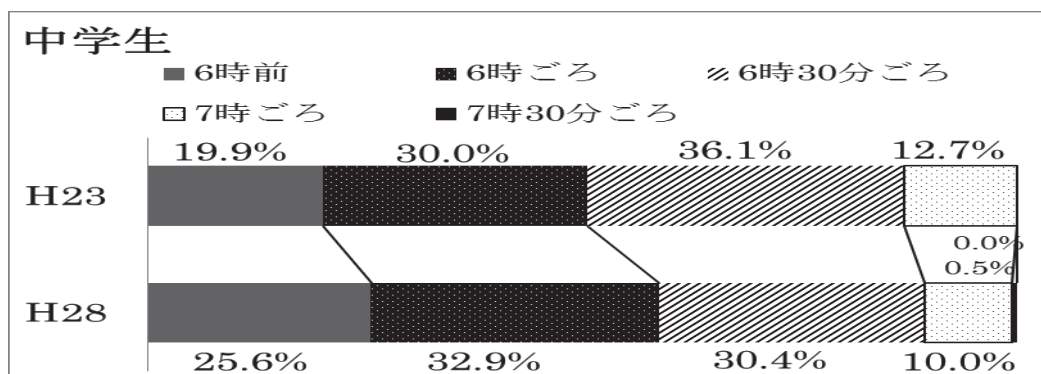
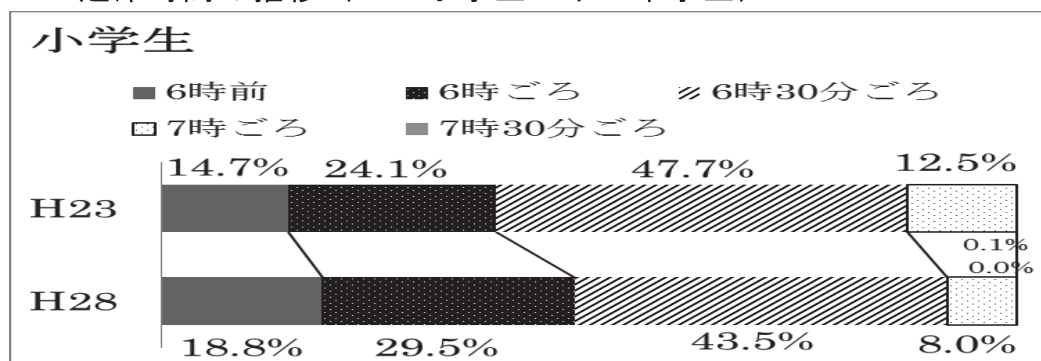
(平成28年健康に関する調査結果より)

## ② 生活リズムについて

起床時間、就寝時間を平成28年度と平成23年度を比べると、全体的に早起き早寝になっており、生活リズムがやや改善していることがわかります。今年度の結果から、中学生になると夜11時以降に寝ている生徒は37.5%であり、小学生の7%に比べ約5倍以上に増加しています。睡眠不足は血圧に影響を及ぼしますが、平成27年度小児生活習慣病予防健診において、中学生の高血圧が17.5%、小学生が7.1%と中学生に高血圧が多くなっており、睡眠時間の影響が考えられます。このように中学生は全体的に遅寝、早起きであり、生活リズムが乱れやすく、体にも影響が出やすくなります。部活動や勉強、塾等で遅く寝る傾向にあり、朝の部活動等で小学生よりも早起きしなければならない環境もあるようですが、夜間のスマートフォンやタブレット等の電子機器の利用も1つの要因として考えられます。

成長期は成長ホルモンや性ホルモンの分泌が活発になり、将来に向けての体づくりにとって大切な時期であるため、規則正しい生活リズムの大切さを普及・啓発することが必要です。

起床時間の推移（上：小学生 下：中学生）

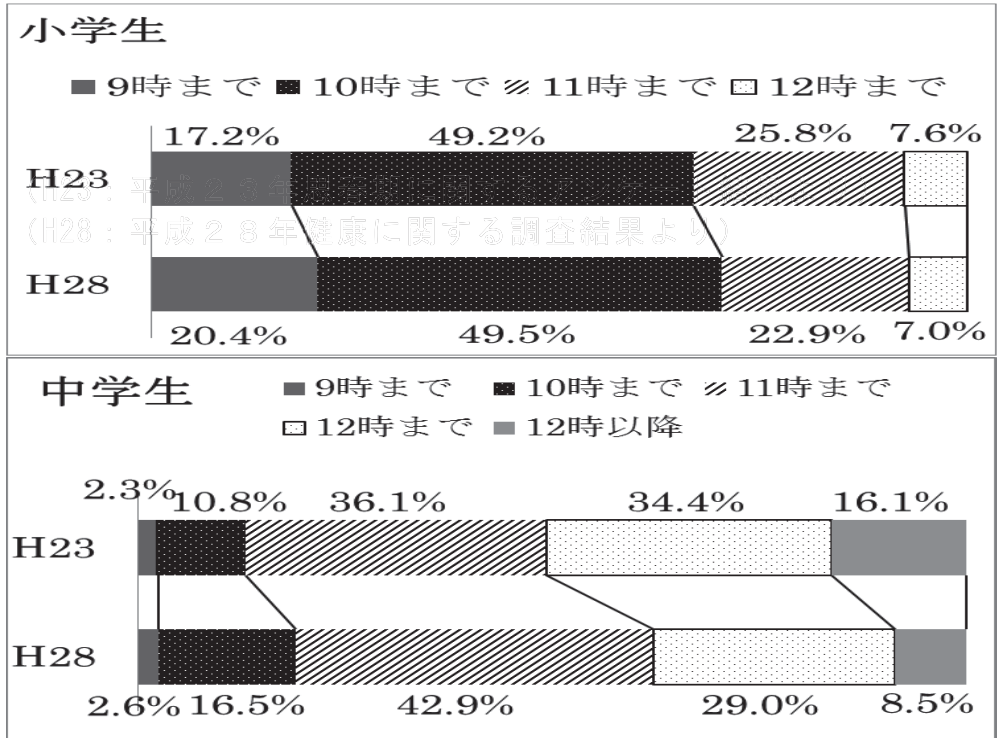


(H23：平成23年思春期に関するアンケート結果より)

(H28：平成28年健康に関する調査結果より)



就寝時間の推移（上：小学生 下：中学生）



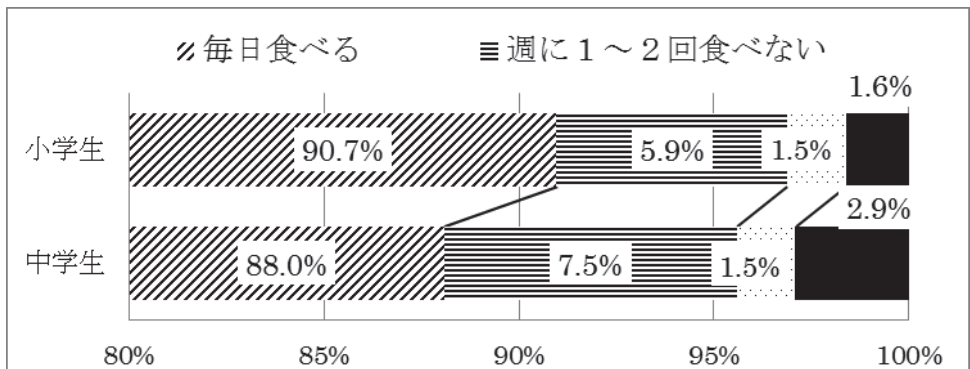
（H23：平成23年思春期に関するアンケート結果より）  
 （H28：平成28年健康に関する調査結果より）

③ 食事について

ア) 朝食について

小学生では約9割以上が毎日朝食をとっていますが、中学生になると2.7ポイント減少しています。また、「ほとんど食べない」が中学生は小学生の約2倍と増加しています。生活リズムの乱れから、「朝起きられない」あるいは「食欲がない」等で欠食している可能性が考えられます。朝の欠食がどのような影響があるのか、幼少期から食事や生活リズムの重要性を連続的に普及・啓発する必要があります。

朝食の欠食状況



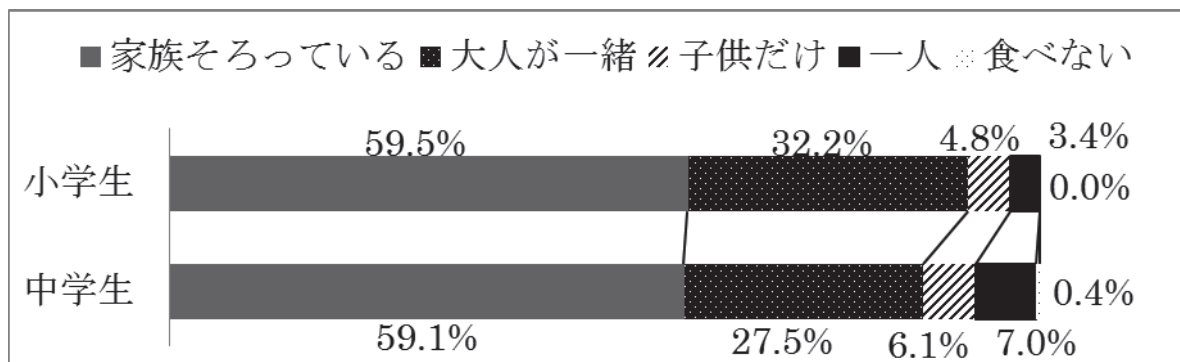
（平成28年健康に関する調査結果より）

イ) 夕食の状況

小学生・中学生とも約60%が家族そろって食べています。一方で、「一人で食べる」が中学生は小学生の約2倍います。また、「食べない」は中学生で0.4%いました。中学生は体をつくる大切な時期であるため、「食べさせる」という

家庭の習慣が大切になってきます。そのためには、子ども自身が体づくり、健康づくりのためによい生活習慣を身につけなければならないことを知り、実践できるよう家庭や学校の場で伝えていくことが必要です。また、欠食や孤食は貧困等の家庭環境に起因することが大きいと考えられます。学校や福祉等関係機関と連携し、家庭環境の安定を図ることも大切です。

### 夕食の食事形態



(平成28年健康に関する調査結果より)

### 課題と施策

課 題	施 策
<p><b>健康的な生活習慣を形成し、将来の生活習慣病を予防する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度の健診の結果「脂質異常」が19.9%、高血圧が13.4%</li> <li>小学5、6年生の肥満が全国・県と比較して多い。</li> <li>自分の標準体重を知っている児童・生徒は約30%程度であり、実際の体格と自分の認識とに差がある。やせ願望がある。</li> <li>中学生は夜11時以降に寝ている生徒は37.5%、全体的に遅寝、早起きであり生活リズムが乱れやすく、体にも影響が出やすい。</li> <li>小・中学生の小児生活習慣病予防健診事後指導の面接から、食生活の問題として、野菜不足・炭水化物の過多・糖質の入った飲み物の過多という傾向がある。</li> <li>「平成28年度健康に関するアンケート結果」をみても約30%が「甘い飲み物」「スポーツドリンク」「炭酸飲料」を普段よく飲むと回答している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児生活習慣病予防健診の結果や地域の特性、生活背景等を総合的に把握し、小中学校の養護教諭と課題の共有を行います。</li> <li>健診の結果から、指導が必要な小中学生に対し、学校と市が連携協力し、相談・指導を行います。</li> <li>小・中学校と連携し、保護者も含めて生活習慣の正しい知識(普段の飲み物・バランス食・標準体重・生活リズムの乱れの影響・欠食・孤食の影響等)の普及・啓発を行います。</li> <li>欠食や孤食の問題は、背景に貧困の問題も考えられるため、学校や教育委員会、福祉等関係機関と連携し、家庭環境の安定に向けた支援を行います。</li> </ul>

課 題	施 策
・中学生は朝食を「ほとんど食べない」が小学生の約2倍と多い。また、夕食を「一人で食べる」が小学生の約2倍。「食べない」は0.4%いる。さらに、欠食、孤食の問題もある。	

評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 小学生・中学生における脂質異常の割合	平成28年 小学校 23.0% 中学校 17.6%	減少	減少
2. 小学生・中学生における高血圧の割合	平成28年 小学校 8.0% 中学校 16.4%	減少	減少
3. 小学生・中学生における肥満傾向児の割合	平成28年 小学校 12.2% 中学校 10.8%	減少	減少
4. 小学生・中学生における痩身傾向児の割合	平成28年 小学校 1.1% 中学校 1.8%	減少	減少
5. 小学生・中学生における朝食の欠食状況	平成28年 小学生 9.0% 中学生 11.9%	減少	減少

### 3 学童期の歯科保健

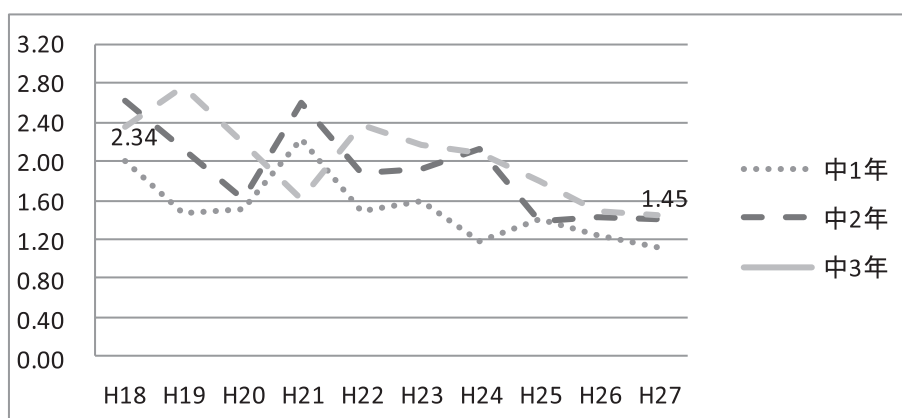
#### 現状と課題

#### ① 1人あたりむし歯本数

平成18年度から小・中学校の全児童・生徒を対象に、むし歯予防効果が高く、国においても推奨されているフッ化物洗口※を開始しました。また、フッ化物洗口と併せ、むし歯予防講話を実施し、口腔衛生の知識の普及・啓発に努めています。

フッ化物洗口を開始した平成18年度からの1人当たりのむし歯本数をみると、中学3年生において年々減少傾向にあることがわかります。

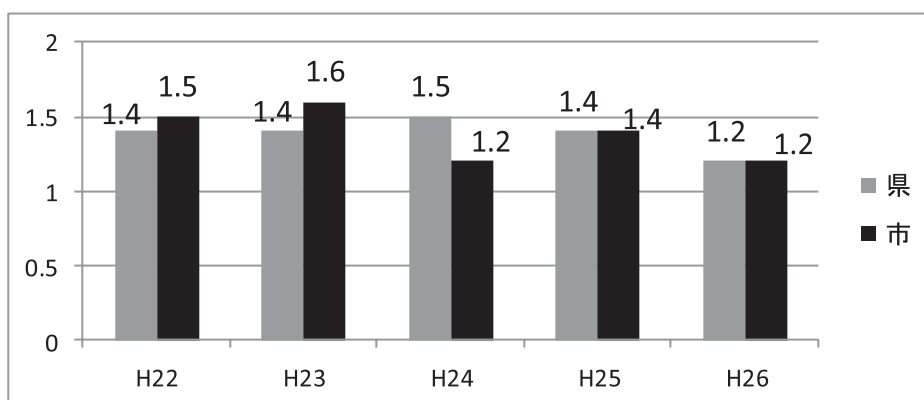
中学生における一人当たり平均むし歯本数経年結果（単位：本）



（大田原市母子保健事業実績報告より）

12歳（中学1年生）永久歯の一人当たり平均むし歯数を県と比較すると、これまでは県よりもむし歯が多い状況でしたが、平成26年度は県と同様の結果となりました。

12歳（中学1年生）永久歯の一人当たり平均むし歯数（県と市との比較）（単位：本）



（平成27年度歯および口腔の健康づくりに関する報告より）

#### ② むし歯及び歯肉炎等歯周病の予防

##### ア) 歯磨きについて

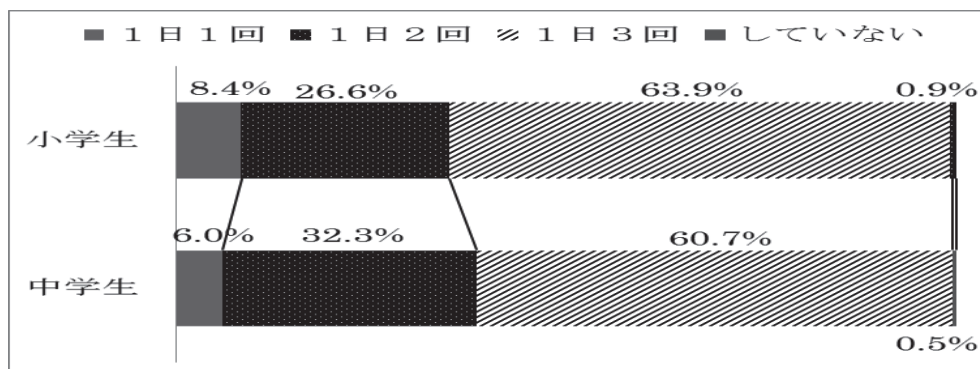
1日2回以上歯磨きをする人は、小学生で90.5%、中学生では93%と中学生の

方が2.5ポイント高くなっています。しかし、1人当たり平均むし歯本数では、中学3年生が一番高い状況です（P47）。

このように学年が上がるにつれてむし歯の本数が多くなっており、フッ化物洗口により歯の質はよくなりましたが、むし歯予防・歯周病予防の観点から、歯磨きは必要です。

今後もむし歯予防講話で啓発していくほか、歯磨きの習慣化のためには乳幼児期からの家庭での取り組みが重要であるため、家庭を含め地域全体で取り組めるような知識の普及・啓発が必要です。

### 歯磨きの回数割合



（平成28年健康に関するアンケート結果より）

### イ) 普段の飲み物について

普段の飲み物では、小・中学生とも約6割が水や麦茶等甘くない飲み物でしたが、約3割がジュース類、スポーツドリンク、炭酸飲料等甘い飲み物を普段よく飲んでいるとの回答がありました。特に中学生になると炭酸飲料を飲む人が増加しています。水分摂取の方法や内容等については、乳幼児期からの課題でもあるため、地域全体の課題として、甘い飲み物や食べ物の健康に及ぼす影響についての知識の普及・啓発が必要です。

### 普段の飲み物（甘い物）の割合



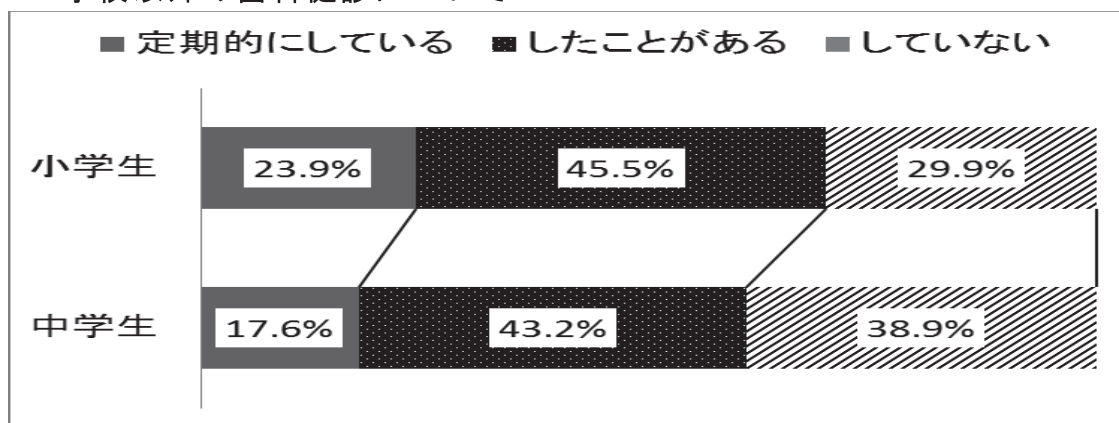
（平成28年健康に関するアンケート結果より）

### ウ) 歯科健診について

小学生では約70%が学校以外で歯科健診を実施したことがあるのに対し、中学生では約60%と小学生より少ない傾向にあります。最近の乳幼児健康診査においては、子どもの歯に関心がある家庭が増加し、乳幼児期からかかりつけ歯科医を持って、定期的に健診を受診することが定着しつつあることがわかります。しかし、小学生において定期的に歯科健診を受診しているのは24%と全体の4分の1程度という状況です。乳歯が生え変わる時期だからこそ、一生使う永久歯に関心を持ち、定期的に歯科健診を受診できるよう、保護者の意識づけを

含め、啓発していく必要があります。

### 学校以外の歯科健診について



(平成28年健康に関するアンケート結果より)

### 課題・施策

課題	施策
<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生・中学生の約3割がジュース類、スポーツドリンク、炭酸飲料等甘い飲み物を普段よく飲んでいると回答。</li> <li>小学生において定期的に歯科健診を受診しているのは24%と全体の4分の1程度という状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フッ化物洗口やむし歯予防講話を継続していきます。また、歯磨き等の生活習慣や水分摂取の方法・内容等の食習慣や歯科健診については、今後も学校や歯科医師等関係機関と連携し、家庭や地域全体で取り組めるような知識の普及・啓発をします。</li> <li>歯科健診の定期的な受診の必要性について啓発していきます。</li> </ul>

### 評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 12歳(中学1年生)の永久歯の1人当たり平均むし歯数	平成26年 1.2本	減少	減少
2. 歯肉に炎症のある生徒の割合	平成23年 25.7%	減少	減少

**基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む  
地域づくり**

**目標**

**妊産婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない  
地域づくりを推進する**

## 基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

### 目標

妊産婦や子どもの成長を見守り、親子を孤立させない地域づくりを推進する

### 現状と課題

#### 1 妊娠中の就労について

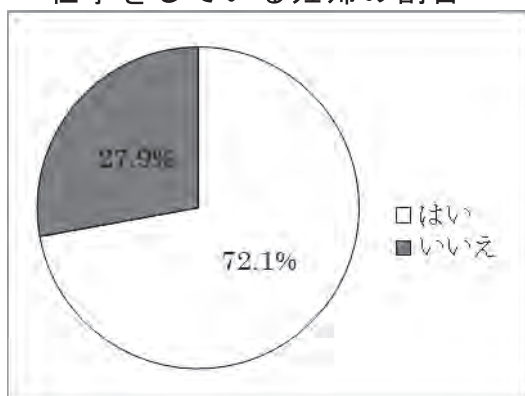
親と子の健康に関するアンケートによると、約7割の女性が妊娠中も就労していました。

「妊娠中に職場から配慮があったか」については、「配慮あり」は87.2%とほぼ9割に近い妊婦が配慮を得られていました。

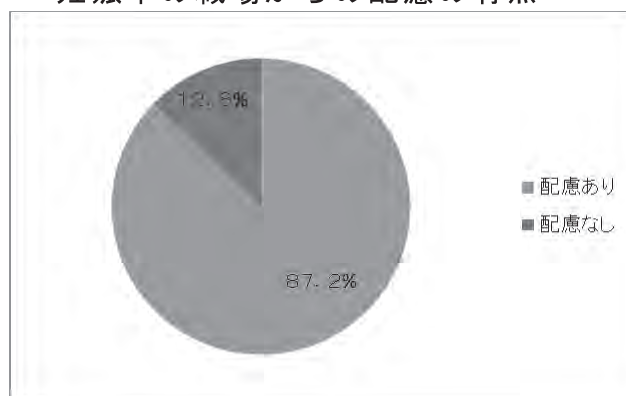
その一方で、12.8%の妊婦は配慮が得られず、仕事の軽減が図られず、妊娠中も非妊娠時と変わらない勤務条件であったことがわかります。少子高齢化の中で、女性の労働力は貴重なものになっています。仕事をしながら妊娠・出産・子育てする女性が増加していることから、子育て期間中は勤務時間を短縮することができる等、妊婦健診や親が子どもと過ごす時間が確保できるような、妊婦や子育てにやさしい地域づくりが必要です。

職場における子育て環境の整備については庁内担当部署と連携するとともに、市単独の取り組みでは効果が見込めないことから、国、県、事業所との連携による取り組みを推進していきます。

仕事をしている妊婦の割合



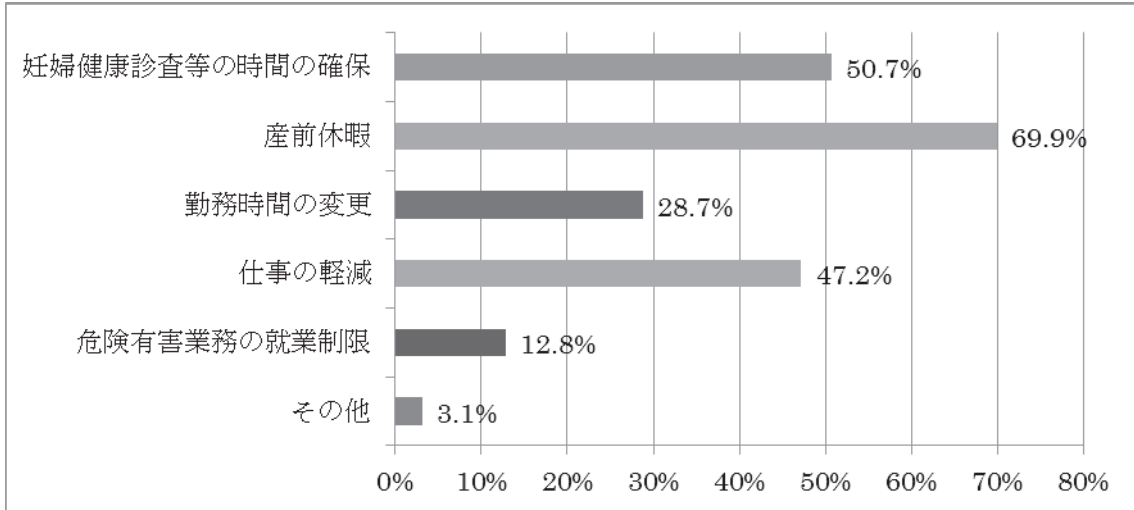
妊娠中の職場からの配慮の有無



(平成28年 親と子の健康に関するアンケートより)

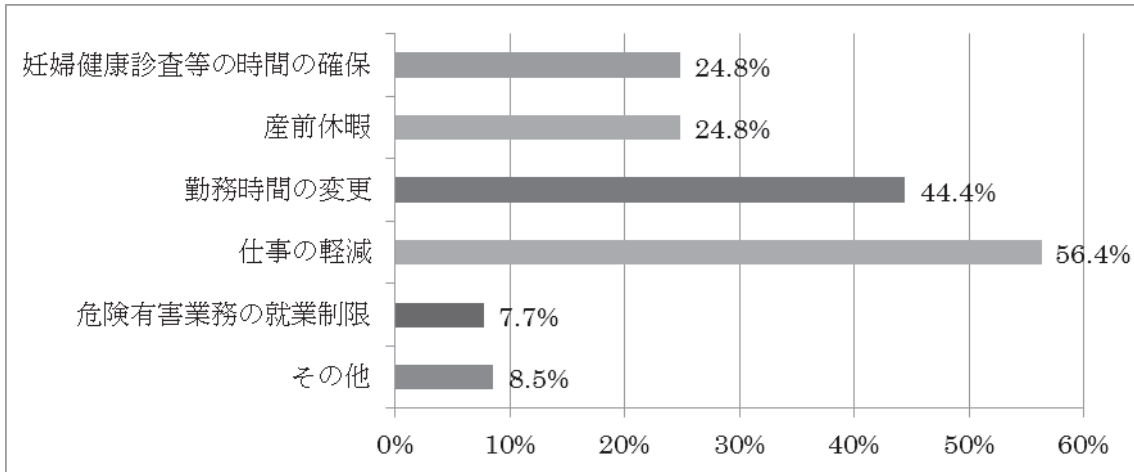


## 妊娠中の職場での配慮（重複あり）



（平成28年 親と子の健康に関するアンケートより）

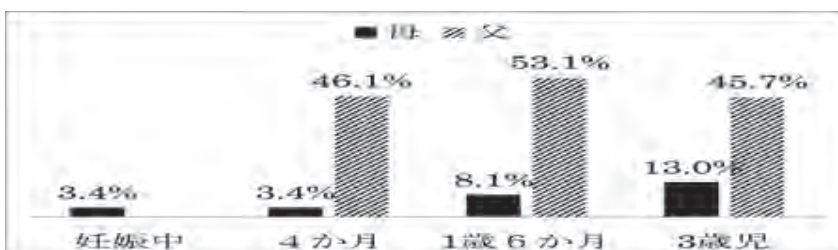
## どのような配慮があると良かったか（重複あり）



（平成28年 親と子の健康に関するアンケートより）

## 2 子育て中の両親の喫煙

妊娠中から喫煙している母が 3.4%おり、子どもの年齢が上がるにつれて母親の喫煙率も上昇しています。そして、約半数の父親が子育て中も喫煙していることがわかります。低年齢からの受動喫煙によるぜんそく・中耳炎・肺がん等の健康被害についても知られているところです。大人の努力によって子どもたちに安全な環境を保障していくことは重要なことです。そのため、喫煙を開始する 20 代から自分の健康被害のみならず受動喫煙の周囲に対する影響を周知していく必要があることから、学校や企業と連携していくことが必要です。また、妊婦のみならず父親や家族に対しても胎児や子どもに対する受動喫煙の影響について周知する必要があることから、産科医療機関等と連携して取り組んでいきます。



### 3 身近な育児の支援者

本市では、子どもの健康・発達や育児に関して、乳幼児健康診査をはじめ乳幼児健康相談・発達相談等を開催し、個別の相談を行うとともに、母子健康手帳発行の際や出産後の赤ちゃん訪問案内の際に各種相談窓口等について情報提供を行っています。

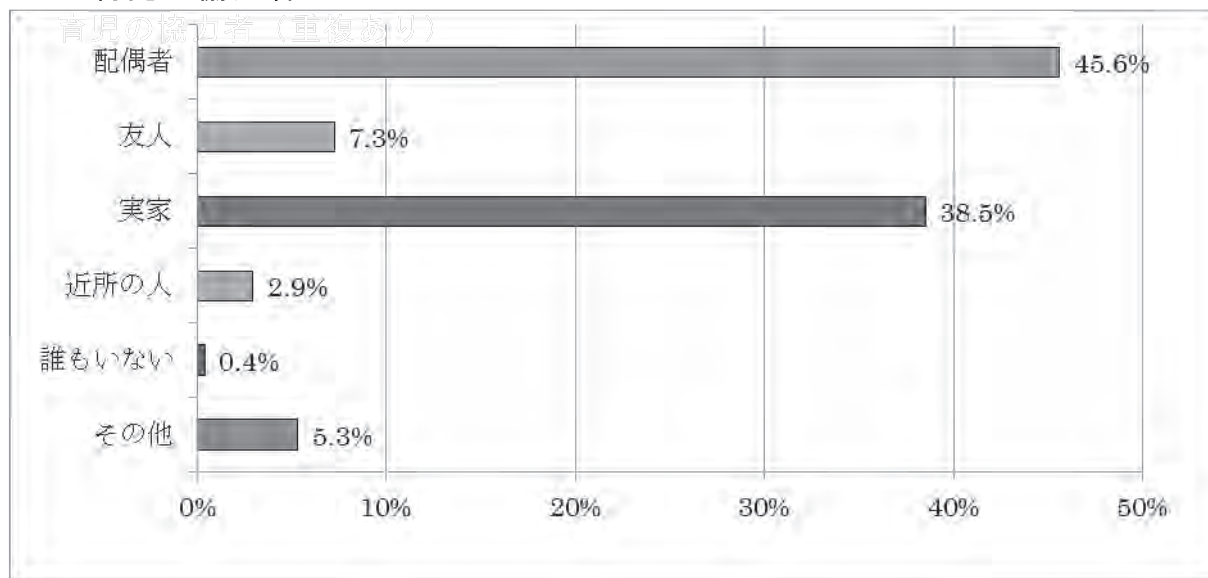
平成27年度の2歳児歯科健康診査で実施した育児アンケートによると、「あなたが悩んでいるときに相談にのってくれる人はいますか？」（複数回答可）の問いに対して「配偶者」が76.1%、「実家」が75.8%と同程度であり、「友人」が62.6%という結果でした。「誰もいない」は0%でした。

また、保育園・幼稚園の保護者に実施したアンケート調査によると、育児の協力者について94.3%は「育児協力者がいる」と答えています。しかし、「誰もいない」も0.4%（10人）います。育児協力者についても相談相手と同様で、「配偶者」が一番多く、次いで「実家」となっています。その他としては、「祖父母」や「姉妹」等がありました。家族構成をみると、「核家族」が61.1%を占めており、「一人親家庭」が3.4%でした。

親が子育てに対して不安を抱え孤立しないように、今後も妊娠届出や出生届出等、あらゆる機会をとらえて積極的に相談窓口の周知や育児サービスについて情報提供をしていく必要があります。

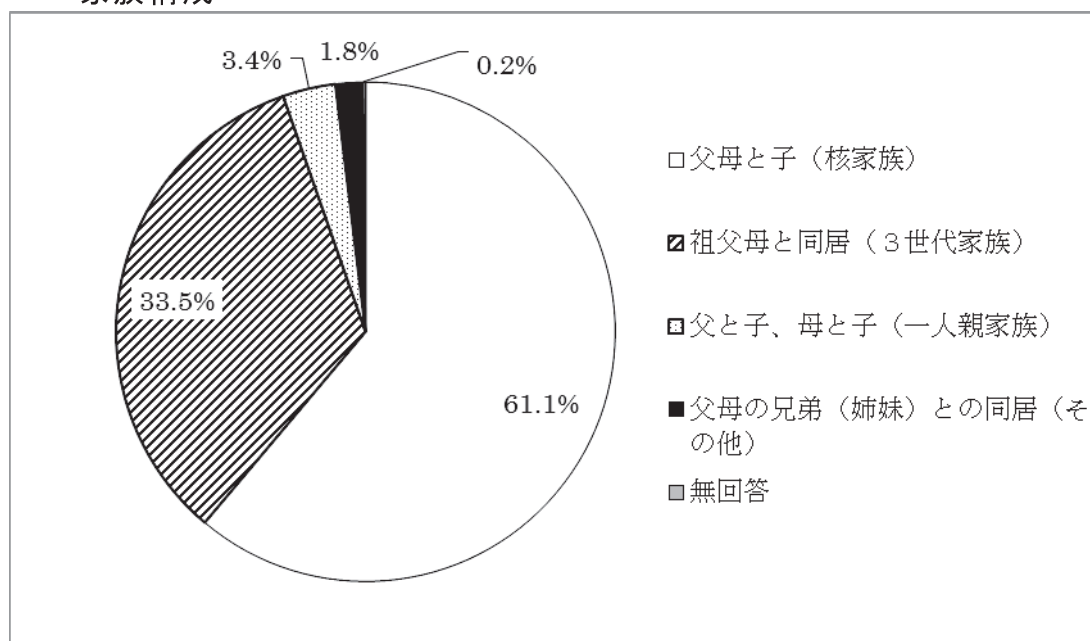
また、身近な育児の支援者である配偶者や実家の祖父母に対して、子どもの発達や育児について知ってもらうことが、親に寄り添う支援につながることから、地域全体に子どもの発達や育児について周知していくことが必要になってきます。

育児の協力者について



（平成28年 親と子の健康と子育てに関するアンケートより）

## 家族構成



（平成28年 親と子の健康と子育てに関するアンケートより）

## 4 地域の子育て支援

本市では地域の子育て支援の拠点として、市内各地区に「子育て支援センター」「つどいの広場」「子育てサロン」を設置し、また「一時保育」「一時預かり」「ファミリーサポートセンター」による、家庭における育児支援を行っています。これらのサービスについては、子育て世代包括支援センター、赤ちゃん訪問、乳幼児健康診査・相談、また市ホームページ等でお知らせしています。

育児の孤立化の防止や育児支援のために、今後もサービス内容の充実が必要です。また、乳幼児健康診査や育児教室等では、ボランティア組織による託児等の支援を受けていますが、今後も支援していただくことが必要です。

### ①子育て支援の場

名称	設置数	実施内容
子育て支援センター	4か所	遊び場の提供、親子交流、仲間づくり、情報交換や相談、季節の行事等
つどいの広場	2か所	
子育てサロン	3か所	

## ②地域における子育て支援に関する団体及び事業

団体または事業		内 容
ファミリーサポートセンター		子どもを預けたい人と、預かって支援したい人による会員組織で、地域で会員同士が相互に助け合う活動。
一時保育センター		一時保育センターにおいて、乳幼児を一時預かりする。
一時預かり事業		家庭において保育されている子どもが、保護者が冠婚葬祭や、通院等で一時的にみることができなくなった時に、保育園において一時的にお預かりする事業。
一時保育事業		上記「一時預かり」とほぼ同じ事業だが、市内在住の要件がある。
休日保育		日曜日・祝日等に保護者のいずれもが常に就労しているため、家庭で保育できない乳幼児を預かる。 実施園：国際医療福祉大学 金丸こども園
病児病後児保育事業	病児保育事業	市内に居住し、病気の「回復期に至らない場合」であり、当面の症状の急変が認められない場合に、子どもを保育園に併設した専用のスペースで一時的にお預かりする。利用する場合は事前の利用申請が必要。平成29年度から開始。
	実施園	国際医療福祉大学 金丸こども園
	病後児保育事業	市内に居住し、病気の「回復期」にあり、医療機関による治療の必要はないが、安静の必要がある子どもを保育園に併設した専用の施設で一時的に預かる。事前に利用申請が必要。
	実施園	保育園ベビーエンゼル
	体調不良児対応型事業	実施保育園に通園している子どもが、保育中に発熱等で体調不良となった場合に、保護者のお迎え到着までの時間について、看護師等による保健的な対応を実施する。
実施園	保育園チャイルド・おおたわら保育園 国際医療福祉大学 金丸こども園	
健康づくりリーダー連絡協議会		会員の健康に関する知識を深め、資質向上を図り、生活習慣病予防及び母子保健活動等の実践活動を通して、地域住民の健康づくりに寄与している。乳幼児健康診査・教室等における託児を実施。
保育ボランティア		育児教室における託児を実施。
食生活改善推進員連絡協議会		地域での食生活改善や食育活動、3歳児健康診査への協力。
民生児童委員		地域の身近な相談・支援者としての福祉活動。

## 5 子どもの貧困対策

貧困の問題は実態が見えにくく、自らSOSを出すことができず社会的孤立に陥り、深刻化することも考えられます。早い段階でそのシグナルをキャッチし、必要な支援につなぐことで問題解決を図ることが重要です。そのためには妊娠届出の段階から貧困状況にある家庭に目を向け、支援が開始できるよう関係機関と連携を図っていくことが必要です。

母子保健においては妊娠届出、赤ちゃん訪問、乳幼児健康診査・相談、家庭訪問等、子どものいる家庭に対して連続性を持ったかかわりをしています。その中で貧困問題に気づくこともあるため、福祉課や社会福祉協議会等関係機関の相談窓口を紹介する等、問題解決のために支援していくことが必要です。

## 6 災害時の対応

平成23年3月の東日本大震災等、昨今はこれまで想像しなかったような地震や豪雨等による大災害が発生しています。このような災害時には、妊婦や子どもも要援護者として支援する必要があります。

本市には「地域防災計画」が整備されているため、市の計画に基づき、国・県等の行政機関や医療機関との連携を図りながら、迅速な対応を図っていくことが必要です。

### 課題と施策

課 題	施 策
<ul style="list-style-type: none"> <li>「妊娠中に職場から配慮があったか」については、12.8%の妊婦は配慮が得られず、仕事の軽減が図られず、妊娠中も非妊娠時と変わらない勤務条件であった。</li> <li>子育て中に喫煙している両親は、子どもの年齢の上昇とともに増加する傾向にある。</li> <li>子育て世代の家族構成をみると、核家族が61.1%、ひとり親家庭が3.4%という現状である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事をしながら妊娠・出産・子育てができるような、妊婦や子どもにやさしい地域づくりのために「おおたわら男女共同参画プラン(第3次大田原市男女共同参画行動計画)」と連動しながら啓発していきます。</li> <li>職場における子育て環境の整備については庁内担当部署と連携するとともに、市単独の取り組みでは効果が見込めないことから、国、県、事業所との連携による取り組みを推進していきます。</li> <li>大人の努力によって、子どもたちにたばこのない安全な環境を保障していくことが大切であることを、地域に啓発します。</li> <li>学校や企業と連携して、20代から受動喫煙の周囲に対する影響を周知します。</li> <li>妊婦のみならず父親や家族に対しても胎児や子どもに対する受動喫煙の影響について周知することから、産科医療機関等と連携して取り組んでいきます。</li> <li>子育て世代包括支援センターを核とした、相談支援体制を充実させていきます。</li> <li>子育て支援制度の活用を促進するために、広く市民に周知していきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て家庭の6割は核家族で、育児の支援者や相談相手は配偶者が一番多く次が実家。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な育児の支援者である配偶者や実家の祖父母に対して子どもの発達や育児について知ってもらうことが、親に寄り添う支援につながることから、地域全体に子どもの発達や育児についての知識、相談窓口について周知していきます。</li> </ul>

課 題	施 策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの貧困対策</li> <li>・ 災害時の妊婦や子どもに対する支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの貧困問題を認知した時は、福祉課や社会福祉協議会、教育委員会等、関係機関の相談窓口を紹介する等、問題解決のために支援していきます。</li> <li>・ 市には「地域防災計画」が整備されているため、市の計画に基づき、国・県等の行政機関や医療機関との連携を図りながら、迅速な対応に努めます。</li> </ul>

評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 妊娠・出産について満足しているものの割合	4 か月児健康診査 81.5%	増加	増加
2. この地域で子育てをしたいと思う親の割合	4 か月児健康診査 97.4% 1 歳 6 か月児健診 96.6% 3 歳児健康診査 97.0%	維持	維持
3. 主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合	4 か月児健康診査 93.4%	維持	維持
4. 育児期間中の両親の喫煙率		母	父
	4 か月児健康診査	5.6%	46.9%
	1 歳 6 か月児健康診査	8.1%	56.1%
	3 歳児健康診査	13.0%	45.7%
		減少	減少

**重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み**

**目標**

**親子の愛着を育むことで、子どもの虐待を予防する**

## 重点課題① 妊娠期からの児童虐待予防への取り組み

### 目 標

親子の愛着を育むことで、子どもの虐待を予防する

### 現状と課題

#### 1 子育て世代包括支援センター

本市では安心して妊娠・出産・子育てができるよう、平成28年度から「子育て世代包括支援センター」を設置しました。妊娠届出時に妊婦アンケートを行い、その中で支援が必要と思われる妊婦に対し、家庭訪問や相談等を実施し、必要に応じて産後も継続した支援を行っています。

平成26、27年度の妊婦アンケートから「過去に、気持ちやメンタル的な問題があった」と回答した妊婦は、全体の約3%とほぼ横ばいでしたが、産科医療機関等から「養育支援連絡票」が届くなど、支援が必要な妊婦は、平成26年度に比べ平成27年度は約2倍に増加しています。

妊婦の孤立を防ぎ、多様化する悩みや不安、問題に応じた支援を行うためには、医療機関や福祉関係等の関係機関と連携を図ることが必要です。また、妊娠期から子育て期まで継続したかわりの必要な家庭が増加しているため、職員の資質の向上も必要です。

養育支援連絡票の受理状況（単位：件）

市町 届出票	平成26年度	平成27年度
養育支援依頼書 (別紙様式12の2) ※	13	21
養育支援依頼書 (別紙様式12の3) ※	22	37

※養育支援依頼書（別紙様式12の2）：妊娠・出産・育児期の養育支援依頼書（こども用）

※養育支援依頼書（別紙様式12の3）：妊娠・出産・育児期の養育支援依頼書（保護者用）

#### 2 乳児家庭全戸訪問（赤ちゃん訪問）における

##### 「エジンバラ産後うつ質問診」

赤ちゃん訪問において、産後の不安定な精神状態を把握し、早期に対応するために「エジンバラ産後うつ質問診」を実施しています。

精神面での不安定さを持つ母親が増加傾向にあり、安定した育児をしていくためには育児指導、実際に育児を代わってくれる支援者、精神的に疲労しているときに育児を代行してもらい、休養することができること等、昨今の母親の状況を見ると、これ



までにはなかった育児支援のサービスが必要になってきています。

#### エジンバラ産後うつ質問診実施状況

点 数		26年度	27年度
8点以下	問題なし	502人 (92.8%)	484人 (88.8%)
9～12点	「産後うつ」の 危険性あり	24人 (4.4%)	39人 (7.2%)
13点以上		15人 (2.8%)	22人 (4.0%)
合計		541人 (100%)	545人 (100%)

(H26・27産婦・新生児訪問報告書の初回訪問より抽出)

### 3 母親支援による虐待予防（親子の絆づくりプログラム「BPプログラム」）

0歳児を初めて育てる母親のための仲間づくり及び育児の基礎知識の学習を目的とした、親子の絆づくりのための教室です。2か月～5か月の第1子の赤ちゃんを育てている母親が対象です。

参加者の感想から、育児の孤立感や不安感の解消、仲間づくりのために良い効果を発揮していることがわかります。

### 4 健やか親子21のアンケート「子どもを虐待していると思われる親の数」

年齢が上がってくると、子どもの自我が芽生えてくることや、しつけをする時期でもあり、親のイライラ感が増えてくることが伺えます。

「8. いずれも該当しない」をみると、年齢が上昇するにつれてあてはまる親の数が減少し、反対に「5. 感情的な言葉で怒鳴った」にあてはまる数の増加が大きいことがわかります。「1. しつけのし過ぎがあった」「2. 感情的にたたいた」の項目についても、年齢が上がると増加しています。

平成29年4月1日からの児童福祉法の改正の中でも、「しつけを名目とした児童虐待の防止」が謳われているため、このことを健康診査・相談等で広く啓発していくことが重要です。また、子どもの育てにくさから「怒鳴る」「たたく」等の行動につながることもあるため、子どもの成長に見通しを持てるような、親に寄り添う相談等支援方法の検討が必要です。

### 子どもを虐待していると思われる親の数

設 問	回答項目	4か月児 健康診査	1歳6か月 児健康診査	3歳児 健康診査
この数ヶ月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか。あてはまるものすべてに○をつけて下さい。	1. しつけのし過ぎがあった	7	11	45
	2. 感情的にたたいた	6	21	63
	3. 乳幼児だけを家に残して外出した	7	3	1
	4. 長時間食事を与えなかった	2	0	0
	5. 感情的な言葉で怒鳴った	36	74	195
	6. 子どもの口をふさいだ	4	6	
	7. 子どもを激しく揺さぶった	1		
	8. いずれも該当しない	460	377	299
	無回答者数	6	25	17
全回答者数		523	470	527
いずれか1つでも当てはまった人の数（割合）		63 (12.0%)	93 (19.8%)	228 (43.3%)

（健やか親子 21 アンケート結果より）

### 課題と施策

課 題	施 策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援が必要な妊婦は平成 26 年度と 27 年度を比較すると、2 倍に増加している。</li> <li>・ 妊娠期から子育て期まで継続した支援が必要な家庭が増加している。</li> <li>・ 産後に、精神面での不安定さを持つ母親が増加傾向にあり、育児不安につながるものが懸念される。また、育児指導、育児の代行支援等のサービスが求められている。</li> </ul>	<p>子育て世代包括支援センターの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠期から子育て期まで、妊婦や母親の孤立を防ぎ、多様化する悩みや不安、問題に応じた支援を行うために、支援者と妊婦のよい関係づくり、医療機関や福祉等の関係機関と連携を図る等、支援の体制整備に努めます。</li> <li>① 妊娠届出時面接の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接の実施により、妊婦の持つ不安等の問題を早期に把握し、妊娠期から妊婦を孤立させない関係づくりに努めます。</li> </ul> </li> <li>② 産科等医療機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産科等医療機関と連携し、問題を抱える妊産婦を早期に把握し、安全な出産、安定した育児ができるよう支援していきます。</li> </ul> </li> <li>③ 安心して子育てができるような体制整備を充実させていきます（平成 29 年度開始） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産前産後サポート事業</li> <li>・ 養育支援ホームヘルプ事業</li> <li>・ 産後ケア事業</li> </ul> </li> <li>④ 支援の必要な家庭の増加に対応するため、職員の確保と、資質の向上に努めます。</li> </ul>

課 題	施 策
<p>・すこやか親子 21 のアンケートで、「感情的な言葉で怒鳴った」「しつけのし過ぎがあった」「感情的にたたいた」について、「あてはまる」と回答した親の数は、乳児期よりも幼児期の方が増加している。</p>	<p>・初めて母親になった人の教室「BPプログラム」は、育児の孤立感や不安の解消、仲間づくりのための良い効果を発揮しているため、今後も親が育児について学習し、仲間づくりをする場の確保に努めます。</p> <p>・「しつけを名目とした児童虐待の防止」について、乳幼児健康診査・相談等で広く啓発していきます。</p> <p>・親が子どもの発達を知り、対応することができるよう、子どもの発達について周知していきます。</p> <p>・子どもの発達・育児について不安や心配を抱える親に対して、相談支援していける体制づくりに努めます。</p>

評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. 子どもを虐待していると思う親の割合 (いずれか1つでも当てはまった人の割合)	4か月児健康診査 12.0% 1歳6か月児健康診査 19.8% 3歳児健康診査 43.3%	減少	減少
2. 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健康診査 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健康診査 98.8% 2歳児歯科健康診査 95.5% 3歳児健康診査 97.1%	維持	維持
3. 乳幼児揺さぶられ症候群を知っている親の割合	98.9%	維持	維持
4. 産後ケアの実施	未実施	実施	委託医療機関の増加

**重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援**

**目標**

**親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を  
支援する**

## 重点課題② 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

### 目 標

親や子どもの多様性を尊重し、育てにくさを感じる親を支援する

### 現状と課題

#### ① 親が感じている「育てにくさ」について

子育てをする中で、親が「育てにくさ」を感じる場合があります。乳幼児健康診査時の「すこやか親子21アンケート」によると、約2～3割の親が「子どもを育てにくいといつも感じる」または「時々感じる」と答えており、子どもの年齢が上がるほど育てにくさを感じる親が多くなっています。

#### すこやか親子21アンケート結果

質問内容	4か月児 健康診査	1歳6か月児 健康診査	3歳児 健康診査
子どもに対して、育てにくさを感じているか 「いつも感じる」「時々感じる」	18.8%	26.8%	35.4%
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っているか 「いいえ」	13.1%	17.7%	15.6%
子どもの社会性の発達過程を知っている	90.1%	93.2%	84.9%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	97.4%	74.1%	70%

(平成27年度 乳幼児健康診査より)

また、「育てにくさを感じる」と回答した人に対して、「育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決方法を知っていますか」との問いでは、約2割の親が「いいえ」と答えています。

子どもの年齢が上がるにつれ、精神、運動、情緒の発達が著しくなり、それに伴い育児の悩みも増加すると考えられます。「育てにくさ」の要因には、発達障害等子どもの要因だけでなく、親の経験不足や育児支援の不足、心身状態の不調、親子を取り巻く環境等様々な要因があります。

親が感じている「育てにくさ」は様々であり、親の気持ちに気付き、寄り添う姿勢で支援していくことが必要です。また、親が育てにくさを感じ悩んだ時に、気軽に相談することができるよう、相談窓口や子育て支援体制の周知を図っていきます。

また、アンケート結果によると、「子どもの社会性の発達過程について知っている」と答えた人は、子どもの年齢が上がるにつれて減少していました。同

じように、「ゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか」という問いでも、年齢が上がるほど減少する傾向がみられます。

「歩く」「話す」等の発達に比べると、社会性の発達はあまり知られていませんが、子どもの発達の特徴を理解する一歩となることから、社会性の発達に関する知識の普及を図ることが必要です。親が子どもの発達を理解し、見通しが持てるように、育児に関する知識や情報を提供していくことが必要です。

また、親子が安心して過ごせるような地域づくりを目指し、地域の人が育てにくさを感じている親や育てにくさを持つ子どもについて理解できるように関係機関と連携して取り組んでいきます。

## ② 相談体制の充実

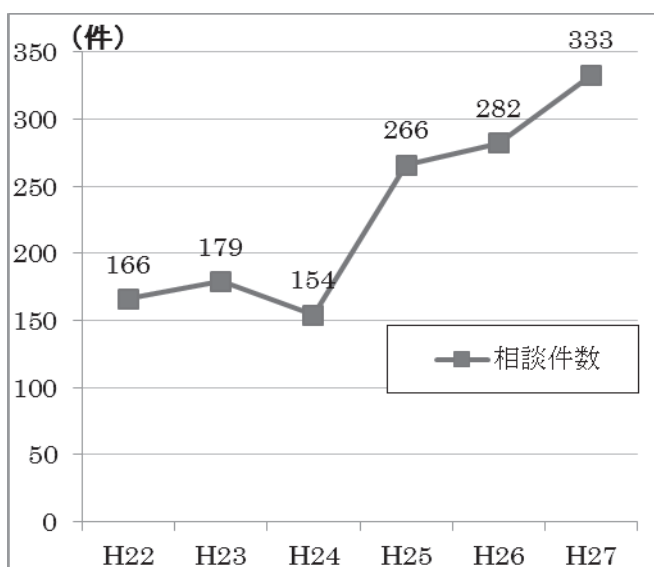
乳幼児健康診査で経過観察となった子どもや、子育てに不安を感じている人の相談の場として、すこやか相談を実施しています。

相談件数の増加に伴い、平成25年度からは相談日を増やす等の対応をしています。相談の内容も多様化しており、子どもの発達と発育についての相談が増えています。問題の内容に応じて相談が受けられるように、市の保健師・管理栄養士・心理相談員のほか、作業療法士、言語聴覚士等の相談日を設けています。

また、精密検査や療育の必要な子どもには、県北健康福祉センターの乳幼児二次健康診査や専門医療機関等の紹介を行っています。

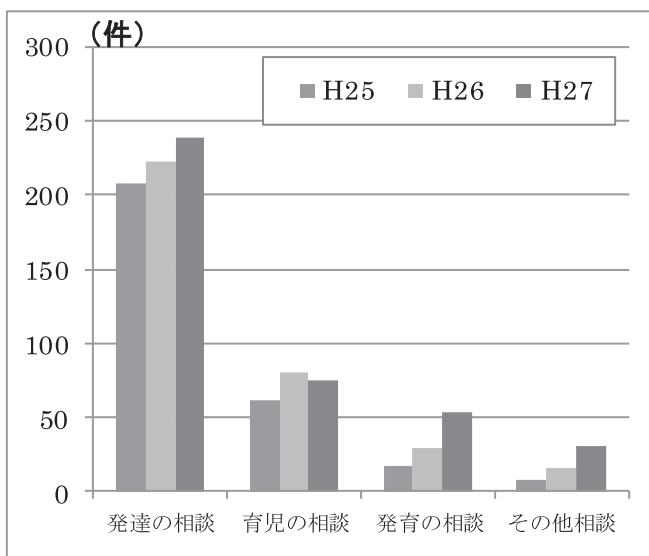
親が育てにくさを感じた時に専門家に相談できる体制を充実させていくことが必要です。

すこやか相談の推移



(大田原市政年報より)

すこやか相談の内容



(大田原市政年報より)

## ③ 5歳児健康診査

5歳児健康診査は、集団生活場面での行動・発達の問題を発見し、スムーズな就学につなげることを目的として、関係機関と連携して実施しています。

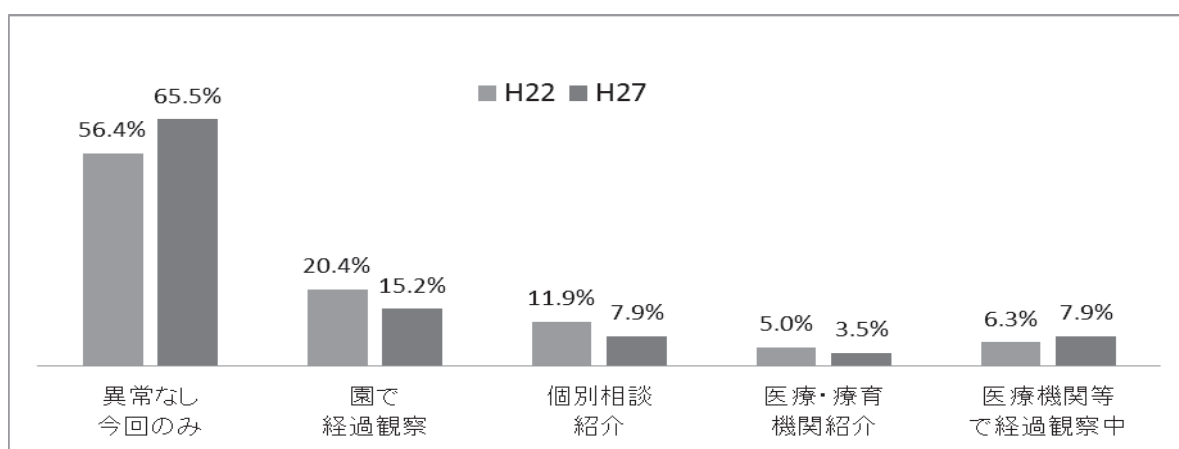
乳幼児健康診査やかかりつけ医、各園等から専門医療機関を紹介され、5歳児健康診査時点ですでに医療・療育機関を受診しているケースが多くなっており、適切な時期に医療・療育機関につながっていることが伺えます。

平成27年度の5歳児健康診査の結果では、平成22年度に比べ、「異常なし」「今回のみ」が1割近く増えています。これは保育園・幼稚園で、きめ細かな対応ができる体制が整ってきたためと考えられます。

子どもたちにとって1日の大半を過ごす園での支援が重要であるため、保育士・教諭の力量形成を図るために、実践の場面で子どもたちの対応について研修できるような体制を工夫しています。

5歳児健康診査実施後おおむね半年後に事後確認、年長児において市教育委員会による年長児巡回相談を実施し、経過観察になった子どもの状況を確認し、必要な支援につなげています。また、その子に合った適切な配慮や支援が受けられるように、就学先の学校への引き継ぎ方法を検討しています。これにより、就学に向け一貫した支援体制が整いつつあります。

5歳児健康診査の結果の比較（平成22年度・平成27年度）



（平成22年度、平成27年度 大田原市母子保健事業実績報告より）

#### ④ 途切れない支援

発達支援のための療育については、国際医療福祉リハビリテーションセンター、国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター、那須特別支援学校「ことり教室」等、市内・近隣の医療・療育機関に恵まれていることから、適切な時期に療育指導が受けられるようになってきました。児童発達支援として利用できる事業所も増えてきています。また、家庭・園・医療機関・市の連携についても整いつつあります。

就学後、卒業後も途切れない支援を目的に、平成27年度から「障害児支援連携事業」を実施しています。療育手帳取得時の面接、福祉サービス利用時のモニタリングに保健師が同行する等、子どもの特性や親の思い、家庭環境等を把握し、必要に応じて学校・医療・福祉等と情報を共有し、支援していくことを目指しています。

## 課題と施策

課 題	施 策
<p>乳幼児期において約2～3割の親が、子どもに対して育てにくさを感じている。そのうちの約2割の親は相談先等を知らない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の感じている「育てにくさ」の要因は様々であり、健康診査では育児アンケート等を活用して親の悩みや問題を把握し、寄り添う姿勢で相談等の支援をしていきます。</li> <li>・親が子育てで悩んだ時に、気軽に相談できるよう育児に関する相談窓口の周知を行います。</li> </ul>
<p>「子どもの社会性の発達過程について知っている」「ゆったりした気分で過ごせている」親は、子どもの年齢が上がるにつれて減少している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が子どもの発達を理解し見通しが持てるように社会性の発達全般に関する知識の普及・啓発を行います。</li> <li>・親子が安心して過ごせるように、子育て支援サービスに関する情報提供を行います。</li> <li>・地域の人が、育てにくさを持つ子どもについて理解できるよう、関係機関と連携して取り組んでいきます。</li> </ul>
<p>子どもたちにとって、1日の大半を過ごす保育園・幼稚園での支援が重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園における発達支援の充実のため、保育士・教諭の力量形成のための研修会等を実施します。</li> <li>・地域において本人の特性と成長に応じた支援が受けられるように、家庭・園・市・医療機関等の連携を強化していきます。</li> </ul>
<p>発達支援に係る関係機関との連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途切れない一貫した支援が受けられるように、子どもの状態や、療育内容等支援の情報を関係機関で共有できるシステムを構築していきます。</li> </ul>
<p>就学後、卒業後の途切れない支援と、自立に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人や保護者に相談窓口を周知するとともに、各関係機関が連携体制を強化し、自立に向けた途切れない支援を目指します。</li> </ul>



評価指標

評価指標	策定時 (ベースライン)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標
1. ゆったりとした気分で 子どもと過ごせる時間 がある母親の割合	4か月児健康診査 82.4% 1歳6か月児健康診査 75.1% 3歳児健康診査 70%	増加	増加
2. 育てにくさを感じてい る親の割合	4か月児健康診査 19% 1歳6か月児健康診査 26.8% 3歳児健康診査 35.4%	減少	減少
3. 育てにくさを感じた時 に対処できる親の割合	4か月児健康診査 86.9% 1歳6か月児健康診査 82.3% 3歳児健康診査 84.4%	増加	増加
4. 子どもの社会性の発達 過程を知っている親の 割合	4か月児健康診査 90.1% 1歳6か月児健康診査 93.2% 3歳児健康診査 84.9%	増加	増加

## 第5章 計画の推進体制

### 1 推進体制の充実

本計画の基本理念である「みどり豊かな自然の中で、安心して妊娠・出産・子育てできるまち おおたわら」を実現するためには、行政及び関係機関・団体等が相互に連携・協力し、各種事業を総合的かつ効果的に推進していく必要があります。

大田原市母子保健連絡協議会において、地域課題を分析・共有し、定期的に協議する場を設け、市民の母子保健の向上のために、本計画を推進してまいります。

### 2 「愛あいプラン」にかかわる意識啓発、情報提供の推進

本計画の推進にあたっては、関係機関のみならず、広く市民に計画の内容を周知、普及することによって、親子をとりまく現状と課題を共有し、それぞれが担うべき役割について認識を深めていただく必要があります。

また、「愛あいプラン」にかかわる情報をタイムリーにわかりやすく発信することが必要です。そのため、市の広報誌「広報おおたわら」および市ホームページ、母子保健事業を活用してのPR等、計画の普及啓発、情報提供を推進します。

### 3 子育てにやさしいまち、おおたわらの推進

子育て家庭の6割は核家族という現状です。また、産前から生活環境や心身の健康等の不安定さを抱える方が増加し、母と子が孤立しやすい状況があります。本市のすべての子どもが健やかに育つよう、子育てにかかわる関係者のみならず、地域の人たちが見守り、声を掛け合う中で子育てができる体制の整備を推進します。

### 4 地域ぐるみの生活習慣病予防

本市はすべてのライフステージにおいて、生活習慣病が課題になっています。

すべての子どもが健康に生き生き育つこと、そのためには地域全体の生活習慣や健康に関する考え方が大きくかかわってきます。親や祖父母が健康で生き生き活動できることが子どもたちの未来を保障していきます。母子保健の向上を目指して、地域ぐるみの健康づくりを推進します。

### 5 進捗管理

母子保健連絡協議会において、年度ごとに母子保健事業の実績等の地域課題を分析・共有し、計画の推進に努めていきます。

## 第6章 評価指標一覧

指標名		ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインの データソース	
基盤課題 A	1 全出生数中の低出生体重児の割合	10.4%	減少	減少	大田原市保健事業実績報告書	
	2 妊娠中の妊婦の喫煙率	3.4%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問②)	
	3 育児期間中の両親の喫煙率	<母> 4か月児健診 4.6% 1歳6か月児健診 8.1% 3歳児健診 13.0% <父> 4か月児健診 46.9% 1歳6か月児健診 13.0% 3歳児健診 45.7%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月、1歳6か月、3歳)	
	4 妊娠中の妊婦の飲酒率	1.10%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)	
	5 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健診 98.8% 2歳児歯科健診 95.5% 3歳児健診 97.1%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告書	
	6 子どものかかりつけ医を持つ親の割合	医師 97.5% 歯科医師 49.3%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	7 #8000番を知っている親の割合	64.8%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	8 子どもの生活リズム	7時までに起床する児の割合	67.2%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)
		21時までに就寝する児の割合	31.2%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)
	9 主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度	62.0%	増加	増加	親と子の健康と子育てに関するアンケート(幼稚園・保育園通園児の保護者対象 市独自調査)	
	10 天気の良い日は、保育園・幼稚園で1日60分以上外遊びする児の割合	28年度調査予定	増加	増加	今後調査予定	
	11 虫歯のない3歳児の割合	75.26%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告書	
12 仕上げ磨きをする親の割合	97.80%	増加	増加	2歳児歯科健診票集計		
基盤課題 B	1 10代の人工妊娠中絶率	H26年栃木県 5.3%	減少	減少	栃木の母子保健	
	2 10代の自殺死亡率(人口10万対)	H26年栃木県 10歳から14歳 1.1 15歳から19歳 4.3	減少	減少	人口動態統計	
	3 小中学生の飲酒率	H28年 小学生 13.6% 中学生 10.8%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	4 小中学生の喫煙率	H28年 小学生 1.1% 中学生 0.6%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	5 児童・生徒における肥満傾向児の割合	H28年 小学校 12.2% 中学校 10.8%	減少	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	6 児童・生徒における痩身傾向児の割合	H28年 小学校 1.1% 中学校 1.8%	減少	減少	小児生活習慣病予防健診結果	
	7 朝食の欠食状況	H28年 小学生 9.0% 中学生 11.9%	減少	減少	健康に関する調査(小中学生に対する大田原市独自調査)	
	8 12歳(中学1年生)の永久歯の1人当たり平均虫歯数	H26年 1.2本	減少	減少	大田原市フッ化物洗口事業報告	
	9 歯肉に炎症のある生徒の割合	H23年 25.7%	減少	減少	健やか親子21(第2次)	

指標名		ベースライン (現状)	中間評価 (5年後) 目標	最終評価 (10年後) 目標	ベースラインの調査
基盤課題 C	1 妊娠・出産について満足しているものの割合	4か月児健診 81.5%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑤)
	2 この地域で子育てをしたいと思う親の割合	4か月児健診 97.4% 1歳6か月児健診 96.6% 3歳児健診 97.0%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	3 主体的に育児にかかわっていると感じている父親の割合	4か月児健診 93.4%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診:質問⑧)
	4 育児期間中の両親の喫煙率	<母> 4か月児健診 5.6% 1歳6か月児健診 8.1% 3歳児健診 13.0% <父> 4か月児健診 46.9% 1歳6か月児健診 56.1% 3歳児健診 45.7%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
重点課題 ①	1 子どもを虐待していると思う親の割合 (いずれか1つでも当てはまった人の数)	4か月児健診 12.0% 1歳6か月児健診 19.8% 3歳児健診 43.3%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	2 乳幼児健康診査の受診率	4か月児健診 99.1% 10か月児相談 96.7% 1歳6か月児健診 98.8% 2歳児歯科健診 95.5% 3歳児健診 97.1%	増加	増加	大田原市保健事業実績報告
	3 乳幼児揺さぶられ症候群を知っている親の割合	98.90%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(4か月児健診問診票から)
	4 産後ケアの実施	未実施	実施	委託医療機関の増加	大田原市保健事業実績報告
重点課題 ②	1 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	4か月児健診 82.4% 1歳6か月児健診 75.1% 3歳児健診 70.0%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	2 育てにくさを感じている親の割合	4か月児健診 19.0% 1歳6か月児健診 26.8% 3歳児健診 35.4%	減少	減少	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	3 育てにくさを感じた時に対処できる親の割合	4か月児健診 86.9% 1歳6か月児健診 82.3% 3歳児健診 84.4%	増加	増加	すこやか親子21アンケート(健診問診票から)
	4 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	4か月児健診 90.1% 1歳6か月児健診 93.2% 3歳児健診 84.9%	増加	増加	すこやか親子アンケート(健診問診票から)

## 参 考 资 料

# 1 健康に関するアンケート調査〔調査結果報告〕

## ●調査の概要

### 1. アンケート調査の目的

大田原市母子保健計画の見直し策定にあたり、学童期・思春期の健康に関する現状把握のために市内の小学校5・6年生、中学校1・2・3年生にアンケート調査を実施しました。

### 2. 調査対象

平成28年6月に市内の小学校5・6学年、中学校1・2・3学年に在籍の全児童・生徒です。

### 3. 調査方法

平成28年6月に市内各小中学校に依頼し、学校の休み時間等を利用して、学校内でアンケート用紙を各児童・生徒に配布し実施しました。

### 4. アンケート調査結果

#### (1) 小学校

学年	対象人数	回収人数	回収率
小学校5年生	641人	626人	97.7%
小学校6年生	615人	600人	97.6%
計	1256人	1226人	97.6%

#### (2) 中学校

学年	対象人数	回収人数	回収率
中学校1年生	652人	638人	97.8%
中学校2年生	642人	619人	96.4%
中学校3年生	705人	667人	94.6%
計	1999人	1924人	96.2%

#### ※アンケート集計結果について

掲載されている集計結果は無回答があったため、内訳合計が総数に合わないことがあります。

## \*健康に関する調査\*

小学生用

大田原市の親と子の健康づくりに役立てるため、小学校5・6年生のみなさんを対象に調査を行います。

全部で15問です。あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

### 問1 あなたの学年と性別を<sup>えら</sup>んでください。

- (1) 5年男子 (2) 5年女子 (3) 6年男子 (4) 6年女子

### 問2 朝、何時ごろ起きますか。

- (1) 6時前に起きる (2) 6時ごろ起きる (3) 6時30分ごろ起きる  
(4) 7時ごろ起きる (5) 7時30分ごろ起きる

### 問3 夜、何時ごろに<sup>ね</sup>寝ますか。

- (1) 9時までになる (2) 10時までになる (3) 11時までになる  
(4) 11時過ぎになる

### 問4 あなたは朝食を食べますか。

- (1) <sup>かなら</sup>必ず毎日食べる (2) 1週間に2～3日食べないことがある  
(3) 1週間に4～5日食べないことがある (4) ほとんど食べない

### 問5 夕食はだれと食べますか。

- (1) 家族そろって食べることが多い  
(2) 大人の家族のだれかと、<sup>いっしょ</sup>一緒に食べる人が多い  
(3) 子どもだけで食べる人が多い  
(4) 一人で食べる人が多い  
(5) 食べないことが多い

### 問6 <sup>い</sup>普段の飲み物は、何を飲むことが一番多いですか。

- (1) 麦茶やお茶、水など甘くない飲み物 <sup>あま</sup> (2) 牛乳  
(3) スポーツドリンク (4) 炭酸飲料 (5) 野菜ジュース  
(6) ジュースなど甘<sup>あま</sup>い飲み物 (7) その他 ( )

### 問7 食事の後に歯みがきはしていますか。

- (1) 1日1回は歯みがきしている (2) 1日2回は歯みがきしている  
(3) 1日3回は歯みがきしている (4) 歯みがきはしていない

うしろにつづきます。

**問8** 学校以外で歯科健診(おし歯などがあるかどうかのチェック)は定期的<sup>ていきてき</sup>に  
していますか。

- (1) 定期的<sup>ていきてき</sup>にしている (2) 定期的<sup>ていきてき</sup>ではないが、したことはある  
(3) していない

**問9** 自分の身長に対してちょうどいい体重(標準<sup>ひょうじゅん</sup>体重)を知っていますか。

- (1) 知っている (2) 知らない

**問10** 自分の体格<sup>たいかく</sup>は次のうちのどれだと思いますか。

- (1) やせている (2) ふつう (3) 太っている

**問11** 今よりもやせたいと思いますか。

- (1) 思う (2) 思わない

**問12** たばこについて

**1.** たばこを吸<sup>す</sup>ったことがありますか。

- (1) ある (2) ない

**2.** たばこを吸<sup>す</sup>っている人を見てどう思いますか。

- (1) カッコいい (2) やめてほしい (3) なんとも思わない  
(4) どんな味だか知りたい (5) 体に悪い (6) その他( )

**3.** たばこをすすめられた時に、ことわれますか。

- (1) ことわれる (2) どちらともいえない (3) ことわれない

**問13** お酒について

**1.** お酒を飲んだことがありますか。

- (1) ある (2) ない

**2.** お酒を飲むようにすすめられたときに、ことわれますか。

- (1) ことわれる (2) どちらともいえない (3) ことわれない

**問14** あなたがこまったときに相談<sup>そうだん</sup>できる人がいますか。

- (1) いる (2) いない

**問15** 問14で(1)の方にお聞きします。

相談<sup>そうだん</sup>できる人すべてに○をつけてください。

- (1) 友達 (2) 家族 (3) 学校の先生 (4) そのほか( )

ご協力<sup>きょうりょく</sup>ありがとうございました。

大田原市子ども幸福課母子健康係



健康に関する調査結果(小学生)

問1 学年・性別	男子				男子全体		女子				女子全体		全学年	
	5年生		6年生		631	%	5年生		6年生		595	%	1226	%
	307	%	324	%			319	%	276	%				
問2 起床時間														
(1)6時前に起きる	72	23.5%	78	24.1%	150	23.8%	44	13.8%	36	13.1%	80	13.4%	230	18.8%
(2)6時ごろ起きる	91	29.6%	77	23.8%	168	26.5%	107	33.5%	87	31.5%	194	32.6%	362	29.5%
(3)6時30分ごろ起きる	125	40.7%	135	41.6%	260	41.3%	143	44.8%	130	47.1%	273	45.9%	533	43.5%
(4)7時ごろ起きる	19	6.2%	31	9.6%	50	7.9%	25	7.8%	23	8.3%	48	8.1%	98	8.0%
(5)7時30分ごろ起きる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	3	0.9%	3	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%
問3 就寝時間														
(1)9時までになる	81	26.4%	52	16.0%	133	21.1%	76	23.8%	41	14.9%	117	19.7%	250	20.4%
(2)10時までになる	147	47.8%	156	48.2%	303	48.0%	179	56.1%	124	44.9%	303	50.9%	606	49.5%
(3)11時までになる	61	19.9%	89	27.5%	150	23.8%	44	13.8%	87	31.5%	131	22.0%	281	22.9%
(4)11時過ぎになる	18	5.9%	27	8.3%	45	7.1%	20	6.3%	21	7.6%	41	6.9%	86	7.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	3	0.5%	3	0.2%
問4 朝食を食べるか														
(1)必ず毎日食べる	277	90.2%	290	89.4%	567	89.8%	298	93.4%	247	89.5%	545	91.6%	1112	90.7%
(2)1週間に2～3日食べないことがある	19	6.2%	18	5.6%	37	5.8%	11	3.4%	24	8.7%	35	5.9%	72	5.9%
(3)1週間に4～5日食べないことがある	6	2.0%	7	2.2%	13	2.1%	4	1.3%	1	0.4%	5	0.8%	18	1.5%
(4)ほとんど食べない	5	1.6%	8	2.5%	13	2.1%	5	1.6%	2	0.7%	7	1.2%	20	1.6%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	2	0.7%	3	0.5%	4	0.3%
問5 夕食はだれと食べるか														
(1)家族そろって食べるが多い	178	58.0%	181	55.9%	359	56.9%	195	61.1%	174	63.0%	369	62.1%	728	59.4%
(2)大人の家族のだけかと、一緒に食べるが多い	99	32.2%	111	34.3%	210	33.3%	108	33.9%	77	27.9%	185	31.1%	395	32.2%
(3)子どもだけで食べるが多い	19	6.2%	16	4.9%	35	5.5%	9	2.8%	15	5.4%	24	4.0%	59	4.8%
(4)一人で食べるが多い	11	3.6%	16	4.9%	27	4.3%	6	1.9%	9	3.3%	15	2.5%	42	3.4%
(5)食べないことが多い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.4%	2	0.3%	2	0.2%
問6 普段の飲み物は、何が一番多いか														
(1)麦茶やお茶、水など甘くない飲み物	163	53.1%	184	56.8%	347	55.0%	209	65.5%	204	73.8%	413	69.4%	760	62.1%
(2)牛乳	59	19.2%	47	14.5%	106	16.8%	29	9.1%	16	5.8%	45	7.6%	151	12.3%
(3)スポーツドリンク	28	9.1%	31	9.6%	59	9.4%	15	4.7%	22	8.0%	37	6.2%	96	7.8%
(4)炭酸飲料	23	7.5%	23	7.1%	46	7.3%	16	5.0%	8	2.9%	24	4.0%	70	5.7%
(5)野菜ジュース	7	2.3%	2	0.6%	9	1.4%	7	2.2%	3	1.1%	10	1.7%	19	1.5%
(6)ジュースなど甘い飲み物	25	8.1%	35	10.8%	60	9.5%	41	12.9%	17	6.2%	58	9.7%	118	9.6%
(7)その他	2	0.7%	2	0.6%	4	0.6%	2	0.6%	5	1.8%	7	1.2%	11	0.9%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.2%	1	0.1%
問7 食後の歯みがきはしているか														
(1)1日1回は歯みがきしている	43	14.0%	34	10.5%	77	12.2%	19	6.0%	7	2.5%	26	4.4%	103	8.4%
(2)1日2回は歯みがきしている	95	30.9%	100	30.9%	195	30.9%	82	25.7%	50	18.1%	132	22.2%	327	26.6%
(3)1日3回は歯みがきしている	164	53.5%	184	56.8%	348	55.1%	217	68.0%	218	79.0%	435	73.0%	783	63.9%
(4)歯みがきはしていない	5	1.6%	5	1.5%	10	1.6%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	11	0.9%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.2%	2	0.2%
問8 学校以外で歯科健診しているか														
(1)定期的に行っている	75	24.4%	63	19.4%	138	21.9%	83	26.0%	72	26.1%	155	26.1%	293	23.9%
(2)定期的ではないが、したことはある	146	47.5%	162	50.1%	308	48.8%	127	39.8%	124	44.9%	251	42.1%	559	45.5%
(3)していない	84	27.4%	96	29.6%	180	28.5%	108	33.9%	78	28.3%	186	31.3%	366	29.9%
無回答	2	0.7%	3	0.9%	5	0.8%	1	0.3%	2	0.7%	3	0.5%	8	0.7%
問9 標準体重を知っているか														
(1)知っている	71	23.1%	110	34.0%	181	28.7%	89	27.9%	95	34.4%	184	30.9%	365	29.8%
(2)知らない	233	75.9%	213	65.7%	446	70.7%	230	72.1%	178	64.5%	408	68.6%	854	69.6%
無回答	3	1.0%	1	0.3%	4	0.6%	0	0.0%	3	1.1%	3	0.5%	7	0.6%
問10 自分の体格はどれだと思うか														
(1)やせている	72	23.5%	61	18.8%	133	21.1%	31	9.7%	27	9.8%	58	9.7%	191	15.6%
(2)ふつう	182	59.2%	183	56.5%	365	57.8%	235	73.7%	201	72.8%	436	73.3%	801	65.3%
(3)太っている	53	17.3%	79	24.4%	132	20.9%	52	16.3%	46	16.7%	98	16.5%	230	18.8%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	2	0.7%	3	0.5%	4	0.3%

健康に関する調査結果(小学生)

問1 学年・性別	男子				男子全体		女子				女子全体		全学年	
	5年生		6年生		631	%	5年生		6年生		595	%	1226	%
	307	%	324	%			319	%	276	%				
問11 今よりもやせたいと思うか														
(1)思う	106	34.5%	124	38.3%	230	36.5%	161	50.5%	140	50.7%	301	50.6%	531	43.3%
(2)思わない	198	64.5%	197	60.8%	395	62.5%	157	49.2%	134	48.6%	291	48.9%	686	56.0%
無回答	3	1.0%	3	0.9%	6	1.0%	1	0.3%	2	0.7%	3	0.5%	9	0.7%
問12 たばこについて														
1. たばこを吸ったことがあるか														
(1)ある	6	2.0%	4	1.2%	10	1.6%	0	0.0%	3	1.1%	3	0.5%	13	1.1%
(2)ない	301	98.0%	319	98.5%	620	98.2%	317	99.4%	272	98.5%	589	99.0%	1209	98.6%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	2	0.6%	1	0.4%	3	0.5%	4	0.3%
2. たばこを吸っている人を見てどう思うか														
(1)カッコいい	8	2.6%	4	1.2%	12	1.9%	1	0.3%	3	1.1%	4	0.7%	16	1.3%
(2)やめてほしい	147	48.0%	138	42.6%	285	45.2%	157	49.2%	141	51.1%	298	50.1%	583	47.6%
(3)なんとも思わない	47	15.3%	53	16.4%	100	15.8%	25	7.8%	26	9.4%	51	8.6%	151	12.3%
(4)どんな味だか知りたい	20	6.5%	13	4.0%	33	5.2%	4	1.3%	2	0.7%	6	1.0%	39	3.2%
(5)体に悪い	75	24.4%	104	32.1%	179	28.4%	123	38.6%	98	35.5%	221	37.1%	400	32.6%
(6)その他	9	2.9%	11	3.4%	20	3.2%	8	2.5%	5	1.8%	13	2.2%	33	2.7%
無回答	1	0.3%	1	0.3%	2	0.3%	1	0.3%	1	0.4%	2	0.3%	4	0.3%
3. たばこをすすめられた時に断れるか														
(1)ことわれる	254	82.8%	271	83.6%	525	83.2%	290	90.8%	252	91.3%	542	91.1%	1067	87.1%
(2)どちらともいえない	43	14.0%	37	11.4%	80	12.7%	21	6.6%	17	6.2%	38	6.4%	118	9.6%
(3)ことわれない	5	1.6%	10	3.1%	15	2.4%	4	1.3%	3	1.1%	7	1.2%	22	1.8%
無回答	5	1.6%	6	1.9%	11	1.7%	4	1.3%	4	1.4%	8	1.3%	19	1.5%
問13 お酒について														
1. お酒を飲んだことがあるか														
(1)ある	59	19.2%	50	15.4%	109	17.3%	32	10.0%	26	9.4%	58	9.7%	167	13.6%
(2)ない	248	80.8%	273	84.3%	521	82.5%	286	89.7%	249	90.2%	535	90.0%	1056	86.2%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	1	0.4%	2	0.3%	3	0.2%
2. お酒を飲むように勧められたときに断れるか														
(1)ことわれる	224	73.0%	238	73.5%	462	73.2%	255	79.9%	228	82.6%	483	81.3%	945	77.1%
(2)どちらともいえない	68	22.1%	69	21.3%	137	21.7%	58	18.2%	41	14.8%	99	16.6%	236	19.2%
(3)ことわれない	15	4.9%	14	4.3%	29	4.6%	5	1.6%	6	2.2%	11	1.8%	40	3.3%
無回答	0	0.0%	3	0.9%	3	0.5%	1	0.3%	1	0.4%	2	0.3%	5	0.4%
問14 困ったときに相談できる人がいるか														
(1)いる	280	91.2%	300	92.6%	580	91.9%	309	96.9%	261	94.6%	570	95.8%	1150	93.8%
(2)いない	27	8.8%	23	7.1%	50	7.9%	9	2.8%	13	4.7%	22	3.7%	72	5.9%
無回答	0	0.0%	1	0.3%	1	0.2%	1	0.3%	2	0.7%	3	0.5%	4	0.3%
問15 相談できる人はだれか(問14「いる」回答者)重複回答														
(1)友達	169	60.4%	220	73.3%	389	67.1%	237	76.7%	210	80.5%	447	78.4%	836	72.7%
(2)家族	244	87.1%	253	84.3%	497	85.7%	260	84.1%	225	86.2%	485	85.1%	982	85.4%
(3)学校の先生	120	42.9%	149	49.7%	269	46.4%	127	41.1%	114	43.7%	241	42.3%	510	44.3%
(4)その他	15	5.4%	8	2.7%	23	4.0%	15	4.9%	12	4.6%	27	4.7%	50	4.3%
無回答	2	0.7%	1	0.3%	3	0.5%	1	0.3%	3	1.1%	4	0.7%	7	0.6%

問6 その他の回答

ミルミル ヤクルト ジョア OS1 コーヒー牛乳 紅茶 あまり甘くないジュース

問14 その他の回答

親戚 近所の人 部活のお母さん達 相談員の先生 友達のお母さん 祖父母 ペット スクールカウンセラー 医者 仏 他校の先生  
習い事の先生 近所の人 親の友達

## \*健康に関する調査\*

中学生用

大田原市の親と子の健康づくりに役立てるため、中学生を対象に調査を行います。全部で16問(2・3年生の女子は17問)です。

あてはまる番号に1つ〇をつけてください。

### 問1 あなたの学年と性別を選んでください。

- (1) 1年男子 (2) 1年女子 (3) 2年男子 (4) 2年女子  
(5) 3年男子 (6) 3年女子

### 問2 あなたは、自分が男又は女に生まれたことをどう思っていますか。

- (1) よかったと思っている (2) 反対ならよかったと思っている  
(3) どちらともいえない

### 問3 あなたが困ったときに相談できる人はいますか。

- (1) いない (2) いる

### 問4 問3で(2)の方にお聞きします。

相談できる人すべてに〇をつけてください。

- (1) 友達 (2) 家族 (3) 学校の先生 (4) そのほか( )

### 問5 朝、何時ごろ起きますか。

- (1) 6時前に起きる (2) 6時ごろ起きる (3) 6時30分ごろ起きる  
(4) 7時ごろ起きる (5) 7時30分ごろ起きる

### 問6 夜、何時ごろに寝ますか。

- (1) 9時までに寝る (2) 10時までに寝る (3) 11時までに寝る  
(4) 12時までに寝る (3) 12時以降に寝る

### 問7 あなたは朝食を食べますか。

- (1) 必ず毎日食べる (2) 1週間に2~3日食べないことがある  
(3) 1週間に4~5日食べないことがある (4) ほとんど食べない

### 問8 夕食は誰と食べますか。

- (1) 家族そろって食べることが多い  
(2) 大人の家族のだれかと、一緒に食べる人が多い  
(3) 子どもだけで食べる人が多い  
(4) 一人で食べる人が多い  
(5) 食べないことが多い

### 問9 普段の飲み物は、何を飲むことが一番多いですか。

- (1) 麦茶やお茶、水など甘くない飲み物 (2) 牛乳  
(3) スポーツドリンク (4) 炭酸飲料 (5) 野菜ジュース  
(6) ジュースなど甘い飲み物 (7) その他( )

裏面へ

**問10 食事の後に、歯みがきはしていますか。**

- (1) 1日1回は歯みがきしている (2) 1日2回は歯みがきしている  
(3) 1日3回は歯みがきしている (4) 歯みがきはしていない

**問11 学校以外で歯科健診（むし歯などがあるかどうかのチェック）は定期的にしていますか。**

- (1) 定期的にしている (2) 定期的ではないが、したことはある  
(3) していない

**問12 自分の身長に対してちょうどいい体重（標準体重）を知っていますか。**

- (1) 知っている (2) 知らない

**問13 自分の体格は次のうちのどれだと思いますか。**

- (1) やせている (2) ふつう (3) 太っている

**問14 今よりもやせたいと思いますか。**

- (1) 思う (2) 思わない

**問15 たばこについて**

**1. たばこを吸ったことがありますか。**

- (1) ある (2) ない

**2. たばこを吸っている人を見てどう思いますか。**

- (1) かっこいい (2) やめてほしい (3) なんとも思わない  
(4) どんな味だか知りたい (5) 体に悪い (6) その他( )

**3. たばこを勧められた時に、断れますか。**

- (1) 断れる (2) どちらともいえない (3) 断れない

**問16 お酒について**

**1. お酒を飲んだことがありますか。**

- (1) ある (2) ない

**2. お酒を飲むように勧められたときに、断れますか。**

- (1) 断れる (2) どちらともいえない (3) 断れない

\* 2・3年生の女子にお聞きします \*

**問17 昨年、学校から配布された「からだカレンダー」(生理周期カレンダー)を使っていますか。**

- (1) 使っている (2) 知っているが、使っていない  
(3) 知らないなので、使っていない

ご協力ありがとうございました。

大田原市子ども幸福課母子健康係

健康に関する調査結果(中学生)

問1 性別・学年							男子全体								女子全体		全学年	
	1学年		2学年		3学年		996	%	1学年		2学年		3学年		928	%	1924	%
	334	%	318	%	344	%			304	%	301	%	323	%				
問2 性別感想																		
(1)よかったと思っている	277	82.9%	243	76.4%	265	77.1%	785	78.8%	189	62.2%	154	51.2%	178	55.1%	521	56.2%	1306	67.8%
(2)反対ならよかったと思っている	7	2.1%	6	1.9%	6	1.7%	19	1.9%	21	6.9%	38	12.6%	35	10.8%	94	10.1%	113	5.9%
(3)どちらともいえない	50	15.0%	69	21.7%	72	20.9%	191	19.2%	92	30.3%	107	35.5%	110	34.1%	309	33.3%	500	26.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.1%	2	0.7%	2	0.7%	0	0.0%	4	0.4%	5	0.3%
問3 困ったときに相談できる相手がいるか																		
(1)いない	31	9.3%	21	6.6%	25	7.3%	77	7.7%	10	3.3%	13	4.3%	13	4.0%	36	3.9%	113	5.9%
(2)いる	303	90.7%	297	93.4%	319	92.7%	919	92.3%	294	96.7%	288	95.7%	310	96.0%	892	96.1%	1811	94.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問4 相談できる人は誰か(問3で「いる」と回答)重複回答																		
(1)友達	219	72.3%	235	79.1%	269	84.3%	723	78.7%	250	85.0%	255	88.5%	276	89.0%	781	87.6%	1504	83.0%
(2)家族	254	83.8%	215	72.4%	223	69.9%	692	75.3%	238	81.0%	210	72.9%	257	82.9%	705	79.0%	1397	77.1%
(3)学校の先生	120	39.6%	98	33.0%	113	35.4%	331	36.0%	91	31.0%	76	26.4%	116	37.4%	283	31.7%	614	33.9%
(4)そのほか	7	2.3%	11	3.7%	8	2.5%	26	2.8%	7	2.4%	9	3.1%	10	3.2%	26	2.9%	52	2.9%
無回答	2	0.7%	2	0.7%	2	0.6%	6	0.7%	2	0.7%	4	1.4%	3	1.0%	9	1.0%	15	0.8%
問5 起床時間																		
(1)6時前に起きる	120	36.0%	83	26.1%	59	17.2%	262	26.3%	88	28.9%	65	21.6%	77	23.8%	230	24.8%	492	25.6%
(2)6時ごろ起きる	104	31.1%	94	29.6%	102	29.7%	300	30.2%	118	38.8%	108	35.9%	108	33.5%	334	36.1%	634	32.9%
(3)6時30分ごろ起きる	86	25.7%	103	32.4%	107	31.0%	296	29.7%	78	25.7%	109	36.2%	101	31.3%	288	31.0%	584	30.4%
(4)7時ごろ起きる	21	6.3%	33	10.4%	70	20.3%	124	12.4%	17	5.6%	17	5.6%	35	10.8%	69	7.4%	193	10.0%
(5)7時30分ごろ起きる	1	0.3%	3	0.9%	3	0.9%	7	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	2	0.6%	3	0.3%	10	0.5%
無回答	2	0.6%	2	0.6%	3	0.9%	7	0.7%	2	0.7%	2	0.7%	0	0.0%	4	0.4%	11	0.6%
問6 就寝時間																		
(1)9時までに寝る	18	5.4%	15	4.7%	3	0.9%	36	3.6%	12	3.9%	0	0.0%	2	0.6%	14	1.5%	50	2.6%
(2)10時までに寝る	97	29.0%	58	18.2%	32	9.3%	187	18.8%	61	20.1%	35	11.6%	35	10.8%	131	14.1%	318	16.5%
(3)11時までに寝る	140	41.9%	137	43.2%	145	42.1%	422	42.4%	149	49.1%	132	43.9%	122	37.8%	403	43.5%	825	42.9%
(4)12時までに寝る	66	19.8%	83	26.1%	112	32.5%	261	26.2%	70	23.0%	97	32.2%	130	40.3%	297	32.0%	558	29.0%
(5)12時以降に寝る	12	3.6%	22	6.9%	48	14.0%	82	8.2%	12	3.9%	36	12.0%	34	10.5%	82	8.8%	164	8.5%
無回答	1	0.3%	3	0.9%	4	1.2%	8	0.8%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%	9	0.5%
問7 朝食の状況																		
(1)必ず毎日食べる	297	88.9%	275	86.5%	301	87.5%	873	87.7%	276	90.8%	260	86.3%	286	88.5%	822	88.6%	1695	88.0%
(2)1週間に2~3日食べないことがある	24	7.2%	26	8.2%	27	7.8%	77	7.7%	18	5.9%	27	9.0%	22	6.8%	67	7.2%	144	7.5%
(3)1週間に4~5日食べないことがある	5	1.5%	3	0.9%	5	1.5%	13	1.3%	4	1.3%	3	1.0%	8	2.5%	15	1.6%	28	1.5%
(4)ほとんど食べない	7	2.1%	14	4.4%	11	3.2%	32	3.2%	6	2.0%	11	3.7%	7	2.2%	24	2.6%	56	2.9%
無回答	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
問8 夕食の状況																		
(1)家族そろって食べるが多い	225	67.3%	184	57.8%	192	55.8%	601	60.4%	185	60.9%	178	59.2%	173	53.6%	536	57.8%	1137	59.1%
(2)大人の家族の誰かと、一緒に食べるが多い	73	21.9%	87	27.4%	100	29.1%	260	26.1%	86	28.3%	87	28.9%	96	29.7%	269	29.0%	529	27.5%
(3)子どもだけで食べるが多い	10	3.0%	22	6.9%	19	5.5%	51	5.1%	18	5.9%	18	6.0%	29	9.0%	65	7.0%	116	6.0%
(4)一人で食べるが多い	25	7.5%	25	7.9%	32	9.3%	82	8.2%	14	4.6%	17	5.6%	22	6.8%	53	5.7%	135	7.0%
(5)食べないことが多い	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.2%	1	0.3%	1	0.3%	3	0.9%	5	0.5%	7	0.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
問9 普段の飲み物で一番多いもの																		
(1)麦茶やお茶、水など甘くない飲み物	188	56.4%	181	56.9%	167	48.4%	536	53.9%	221	72.7%	190	63.2%	219	67.7%	630	67.8%	1166	60.6%
(2)牛乳	45	13.6%	41	12.9%	53	15.4%	139	14.0%	15	4.9%	16	5.3%	18	5.6%	49	5.3%	188	9.8%
(3)スポーツドリンク	30	9.0%	22	6.9%	26	7.6%	78	7.8%	20	6.6%	16	5.3%	25	7.7%	61	6.6%	139	7.2%
(4)炭酸飲料	32	9.6%	33	10.4%	59	17.2%	124	12.4%	20	6.6%	25	8.3%	18	5.6%	63	6.8%	187	9.7%
(5)野菜ジュース	2	0.6%	5	1.6%	5	1.5%	12	1.2%	7	2.3%	5	1.7%	6	1.9%	18	1.9%	30	1.6%
(6)ジュースなど甘い飲み物	32	9.6%	31	9.7%	29	8.4%	92	9.2%	21	6.9%	47	15.6%	30	9.3%	98	10.6%	190	9.9%
(7)その他	4	1.2%	5	1.6%	4	1.2%	13	1.3%	0	0.0%	1	0.3%	6	1.9%	7	0.8%	20	1.0%
無回答	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.2%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	2	0.2%	4	0.2%
問10 食後の歯みがき																		
(1)1日1回は歯みがきしている	30	9.0%	23	7.2%	31	9.0%	84	8.4%	15	4.9%	9	3.0%	8	2.5%	32	3.4%	116	6.0%
(2)1日2回は歯みがきしている	113	33.8%	133	41.8%	117	34.0%	363	36.4%	68	22.4%	111	36.9%	80	24.8%	259	27.9%	622	32.3%
(3)1日3回は歯みがきしている	188	56.3%	158	49.8%	191	55.5%	537	54.0%	218	71.7%	177	58.8%	234	72.4%	629	67.9%	1166	60.7%
(4)歯みがきはしていない	0	0.0%	2	0.6%	3	0.9%	5	0.5%	2	0.7%	3	1.0%	0	0.0%	5	0.5%	10	0.5%
無回答	3	0.9%	2	0.6%	2	0.6%	7	0.7%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%	3	0.3%	10	0.5%
問11 学校以外で歯科健診																		

健康に関する調査結果(中学生)

問1 性別・学年							男子全体						女子全体						全学年	
	1学年		2学年		3学年				1学年		2学年		3学年							
	334	%	318	%	344	%	996	%	304	%	301	%	323	%	928	%	1924	%		
(1) 定期的にしている	87	26.0%	46	14.5%	59	17.2%	192	19.3%	57	18.8%	33	11.0%	57	17.6%	147	15.8%	339	17.6%		
(2) 定期的ではないが、したことはある	139	41.7%	129	40.6%	133	38.6%	401	40.2%	142	46.7%	135	44.8%	153	47.4%	430	46.4%	831	43.2%		
(3) していない	107	32.0%	140	44.0%	152	44.2%	399	40.1%	105	34.5%	131	43.5%	113	35.0%	349	37.6%	748	38.9%		
無回答	1	0.3%	3	0.9%	0	0.0%	4	0.4%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%	2	0.2%	6	0.3%		
問12 標準体重を知っているか																				
(1) 知っている	128	38.3%	102	32.1%	130	37.8%	360	36.1%	105	34.5%	90	29.9%	136	42.1%	331	35.7%	691	35.9%		
(2) 知らない	205	61.4%	214	67.3%	213	61.9%	632	63.5%	198	65.2%	208	69.1%	187	57.9%	593	63.9%	1225	63.7%		
無回答	1	0.3%	2	0.6%	1	0.3%	4	0.4%	1	0.3%	3	1.0%	0	0.0%	4	0.4%	8	0.4%		
問13 自分の体格																				
(1) やせている	80	24.0%	76	23.9%	81	23.5%	237	23.8%	22	7.2%	13	4.3%	17	5.3%	52	5.6%	289	15.0%		
(2) ふつう	182	54.4%	191	60.1%	215	62.5%	588	59.0%	210	69.1%	174	57.8%	198	61.3%	582	62.7%	1170	60.8%		
(3) 太っている	72	21.6%	50	15.7%	48	14.0%	170	17.1%	71	23.4%	112	37.2%	107	33.1%	290	31.3%	460	23.9%		
無回答	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%	1	0.3%	2	0.7%	1	0.3%	4	0.4%	5	0.3%		
問14 今よりもやせたいと思うか																				
(1) 思う	127	38.0%	93	29.2%	107	31.1%	327	32.8%	174	57.2%	223	74.1%	246	76.2%	643	69.3%	970	50.4%		
(2) 思わない	207	62.0%	221	69.5%	237	68.9%	665	66.8%	129	42.4%	77	25.6%	76	23.5%	282	30.4%	947	49.2%		
無回答	0	0.0%	4	1.3%	0	0.0%	4	0.4%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%	3	0.3%	7	0.4%		
問15 たばこについて																				
1. たばこを吸ったことがあるか																				
(1) ある	2	0.6%	5	1.6%	1	0.3%	8	0.8%	2	0.7%	1	0.3%	1	0.3%	4	0.4%	12	0.6%		
(2) ない	331	99.1%	310	97.5%	341	99.1%	982	98.6%	302	99.3%	299	99.4%	320	99.1%	921	99.3%	1903	98.9%		
無回答	1	0.3%	3	0.9%	2	0.6%	6	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%	3	0.3%	9	0.5%		
2. たばこを吸っている人を見てどう思うか																				
(1) カッコいい	6	1.8%	6	1.9%	2	0.6%	14	1.4%	0	0.0%	3	1.0%	1	0.3%	4	0.4%	18	0.9%		
(2) やめてほしい	169	50.6%	125	39.3%	139	40.5%	433	43.5%	154	50.7%	148	49.2%	169	52.3%	471	50.9%	904	46.9%		
(3) なんとも思わない	46	13.8%	69	21.7%	82	23.8%	197	19.8%	28	9.2%	40	13.3%	25	7.7%	93	10.0%	290	15.1%		
(4) どんな味だか知りたい	5	1.5%	12	3.8%	11	3.2%	28	2.8%	2	0.7%	4	1.3%	0	0.0%	6	0.6%	34	1.8%		
(5) 体に悪い	95	28.4%	95	29.9%	92	26.7%	282	28.3%	112	36.8%	95	31.6%	120	37.2%	327	35.2%	609	31.7%		
(6) その他	12	3.6%	9	2.8%	18	5.2%	39	3.9%	8	2.6%	10	3.3%	7	2.2%	25	2.7%	64	3.3%		
無回答	1	0.3%	2	0.6%	0	0.0%	3	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	2	0.2%	5	0.3%		
3. たばこを勧められた時に、断れるか																				
(1) 断れる	296	88.6%	264	83.0%	288	83.6%	848	85.2%	271	89.2%	278	92.3%	303	93.8%	852	91.8%	1700	88.3%		
(2) どちらともいえない	28	8.4%	38	12.0%	48	14.0%	114	11.4%	22	7.2%	15	5.0%	16	5.0%	53	5.7%	167	8.7%		
(3) 断れない	5	1.5%	9	2.8%	3	0.9%	17	1.7%	5	1.6%	3	1.0%	1	0.3%	9	1.0%	26	1.4%		
無回答	5	1.5%	7	2.2%	5	1.5%	17	1.7%	6	2.0%	5	1.7%	3	0.9%	14	1.5%	31	1.6%		
問16 お酒について																				
1. お酒を飲んだことがあるか																				
(1) ある	39	11.7%	50	15.7%	38	11.0%	127	12.8%	20	6.6%	35	11.6%	25	7.7%	80	8.6%	207	10.8%		
(2) ない	294	88.0%	266	83.7%	304	88.4%	864	86.7%	284	93.4%	265	88.1%	297	92.0%	846	91.2%	1710	88.8%		
無回答	1	0.3%	2	0.6%	2	0.6%	5	0.5%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	2	0.2%	7	0.4%		
2. お酒を飲むように勧められたときに、断れるか																				
(1) 断れる	269	80.5%	221	69.5%	244	70.9%	734	73.7%	250	82.2%	232	77.1%	273	84.5%	755	81.4%	1489	77.4%		
(2) どちらともいえない	52	15.6%	74	23.3%	86	25.0%	212	21.3%	44	14.5%	58	19.3%	46	14.3%	148	15.9%	360	18.7%		
(3) 断れない	13	3.9%	20	6.3%	10	2.9%	43	4.3%	10	3.3%	10	3.3%	3	0.9%	23	2.5%	66	3.4%		
無回答	0	0.0%	3	0.9%	4	1.2%	7	0.7%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	2	0.2%	9	0.5%		
問17 生理周期カレンダーの使用(中2年生女子対象)																				
(1) 使っている																				
(2) 知っているが、使っていない																				
(3) 知らないなので、使っていない																				
無回答																				

問4 その他の回答

祖父母 いとこ スクールカウンセラー 教育相談の先生 先輩 後輩 ベット 塾の先生 サッカーの監督 友達の家族 ぬいぐるみ 地域の人々 彼女 習い事の先生 友達の親

問9 その他の回答

果物の飲み物 カフェオレ カフェラテ 炭酸水 プロテイン 豆乳 コーヒー 紅茶 ココア 飲むヨーグルト

## 2 親と子の健康と子育てに関するアンケート調査【調査結果報告】

### ●調査の概要

#### 1 アンケート調査の目的

大田原市母子保健計画の見直し策定にあたり、妊娠中の母体の健康管理や出産後の子育て等について、市民の声を広く聞くため、市内保育園・幼稚園通園者の保護者に対しアンケート調査を実施し、安心して妊娠・出産、子育てができるよう効果的な施策を展開し、本市母子保健の向上を図ることを目的として、アンケート調査を実施しました。

#### 2 調査対象

市内 15 か所の保育園・幼稚園通園児の保護者 1,594 名を調査対象としました。  
(同じ園に 2 人以上のお子さんが通園している場合には、年齢が上のお子さんについての回答を依頼し、各家庭に 1 部配布。)

#### 3 調査方法

平成 28 年 6 月 13 日からアンケート調査用紙を各園を通じて保護者に配布し、6 月 30 日までの期限をもって、回収を行いました。

#### 4 実施状況

保護者 1,594 名のうち回答のあったものは 1,287 人であり、回答率は 80.7%でした。

## 親と子の健康と子育てに関するアンケートについて（お願い）

- ◎ このアンケートは、市民の皆様の意見を広く聞き、より安心して妊娠・出産・子育てができるよう、本市母子保健の向上に役立てていきたいと考えております。なお、アンケートの集計結果につきましては、平成 29 年 3 月策定「大田原市母子保健計画（平成 29 年～平成 33 年）」に掲載いたします。  
☆ご協力をお願いいたします。

大田原市子ども幸福課母子健康係

### 【 ご記入にあたってのお願い 】

- 1 同じ園に 2 人以上のお子さんが通園されている場合には、年齢が上のお子さんについて 回答をお願いいたします。
- 2 ご回答は、選択肢の番号に○をつけるか、( ) 内に数字等をご記入ください。  
「その他」に○をつけていただいた場合には、( ) 内に具体的な内容をご記入ください。
- 3 設問によってご回答いただく方が限られる場合があります。注意書きや矢印にしたがってご回答ください。

◎ **回答者のあなた** にお伺いします。

Q 1. お住まいの地区は次のうちどちらですか？（1つに○）

選 択 肢	お住まいの行政区
(1)大田原東部	山の手、城山、元町、新富町、中央 1 丁目、若松町、富士見、若草
(2)大田原西部①	中央 2 丁目、住吉町、紫塚、本町
(3)大田原西部②	末広、美原、浅香、加治屋
(4)金田地区	中田原、町島、荒井、岡、今泉、戸野内、富池、市野沢、練貫、羽田、乙連沢、小滝、北金丸、南金丸、上奥沢、奥沢、鹿畑、倉骨、赤瀬、北大和久
(5)親園・佐久山地区	親園、実取、滝沢、滝岡、花園、宇田川、荻野目、佐久山、藤沢、大神、福原
(6)野崎地区	上石上、下石上、薄葉、平沢、野崎
(7)湯津上地区	狭原、小船渡、湯津上、佐良土、蛭畑、蛭田、新宿、片府田
(8)黒羽地区	黒羽田町、前田、堀之内、北野上、八塩、北滝、片田、亀久、矢倉、黒羽向町、大豆田、余瀬、蜂巢、桧木沢、寒井、中野内、河原、両郷、寺宿、木佐美、大久保、久野又、大輪、川田、須佐木、須賀川、雲岩寺、川上、南方

Q 2. 家族構成は次のどれにあたりますか？

- (1) 父母と子 (核 家 族) (2) 祖父母と同居 (3 世代家族)  
(3) 父と子・母と子 (一人親家族) (4) 父母の兄弟(姉妹)と同居 (そ の 他)

Q 3. あなたは、お子さんから見て、次のどれにあたりますか？

- (1) 父 親 (2) 母 親  
(3) その他( )





《お子さんの生活リズムについて、お聞きします。》

Q11. 起床時間は次のどの時間帯ですか？

- (1) 午前 6 時 00 分前
- (2) 午前 6 時 00 分～
- (3) 午前 7 時 00 分～
- (4) 午前 8 時 00 分～
- (5) 午前 9 時 00 分以降

Q12. 就寝時間は次のどの時間帯ですか？

- (1) 午後 8 時 00 分前
- (2) 午後 8 時 00 分～
- (3) 午後 9 時 00 分～
- (4) 午後 10 時 00 分～
- (5) 午後 11 時 00 分～
- (6) 午前 0 時 00 分以降

《食事について、お聞きします。》

Q13. 朝食は、食べていますか？

- (1) 家族全員で食べている ( ⇒ Q14. へ )
- (2) 親は食べているが、子どもは食べない
- (3) 子どもは食べているが、親は食べない
- (4) 家族全員食べない

Q13-1. (Q13 で (2) (3) (4) に○をつけた方のみお答えください。)

○をつけた理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 食事を作ったり、食べたりにする時間がない
- ② 以前から、朝食は食べない
- ③ 食事を用意するのが面倒
- ④ 子どもの食欲がない
- ⑤ 親の食欲がない
- ⑥ その他 ( )

Q14. 夕食は、どのように食べていますか？

- (1) 家族そろって食べている
- (2) 子どもだけ先に食べさせている
- (3) 家族それぞれに食べている

Q15. 夕食時間は次のどの時間帯ですか？

- (1) 午後 5 時 00 分前
- (2) 午後 6 時 00 分～
- (3) 午後 7 時 00 分～
- (4) 午後 8 時 00 分～
- (5) 午後 9 時 00 分以降

Q16. 1 週間のうちで主食・主菜・副菜のそろった食事が 1 日 2 回以上の日はどのくらいありますか？

※主食…ご飯、パン、めん類など  
※主菜…魚、肉、卵、大豆製品などが中心のおかず  
※副菜…野菜、海藻類が中心のおかず

- (1) ほぼ毎日 (6~7 日)
- (2) 週に 4~5 日
- (3) 週に 2~3 日
- (4) 週に 1 日以下

《おやつについて、お聞きします。》

Q17. 家庭で夕食前に、おやつを食べていますか？

(なお、夕食前のおやつとは園でのおやつは含みません。)

- (1) 食べている ( ⇒ Q17-1. へ )
- (2) 食べていない ( ⇒ Q18. へ )

Q17-1. (Q17 で「食べている」に○をつけた方のみお答えください。)

1 週間のうちで、夕食前におやつを食べる日はどのくらいありますか？

- (1) ほぼ毎日 (6~7 日)
- (2) 週に 4~5 日
- (3) 週に 2~3 日
- (4) 週に 1 日以下

Q17-2. (Q17で「食べている」に○をつけた方のみ。)

どんな物を食べていますか？(複数回答可)

- (1) 果物 (2) 菓子類(スナック菓子、あめ、ガム、グミ、せんべいなど)  
(3) ヨーグルト、牛乳 (4) アイス  
(5) ジュース (6) その他( )

Q18. 夕食後に、おやつを食べていますか？

- (1) 食べている(⇒Q18-1. へ) (2) 食べていない(⇒Q19. へ)

Q18-1. (Q18で「食べている」に○をつけた方のみお答えください。)

1週間のうちで、夕食後におやつを食べる日はどのくらいありますか？

- (1) ほぼ毎日(6~7日) (2) 週に4~5日  
(3) 週に2~3日 (4) 週に1日以下

Q18-2. (Q18で「食べている」に○をつけた方のみ。)

どんな物を食べていますか？(複数回答可)

- (1) 果物 (2) 菓子類(スナック菓子、あめ、ガム、グミ、せんべいなど)  
(3) ヨーグルト、牛乳 (4) アイス  
(5) ジュース (6) その他( )

≪医療や健診について、お聞きします。≫

Q19. お子さんの、かかりつけ医(小児科・内科)がありますか？

- (1) ある (2) ない

Q20. お子さんの、かかりつけの歯科医がありますか？

- (1) ある (2) ない

Q21. お子さんは、歯科医で定期的に歯科検診を受けていますか？

- (1) 受けている (2) 受けていない

Q22. #8000(小児救急でんわ相談)を知っていますか？

※ 急な病気やケガで心配なときに、家庭での対処法を看護師がアドバイス

- (1) 知っている (2) 知らない

Q23. 保健センターで実施している乳幼児の健康診査について、お聞きします。

- (1) 今のままでよい (2) 時間がかかるが、必要なので仕方がない  
(3) その他( )

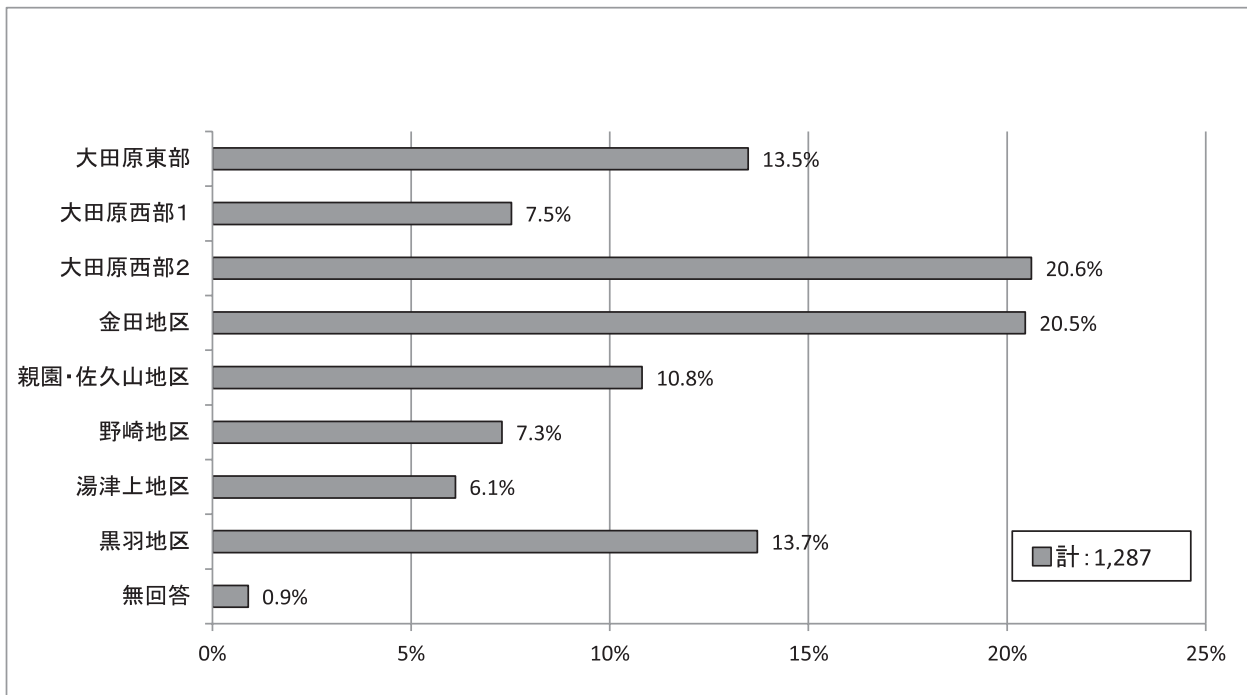
Q24. 大田原市の母子保健事業(妊娠、出産、乳幼児健診、育児教室等)に関して、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

☆ご協力ありがとうございました。

◎ このアンケートは、6月30日(木)までに保育園・幼稚園へご提出ください。

## ●アンケート調査票の集計結果

Q1. お住まいの地区は次のうちどちらですか？(1つに○)



選 択 肢	行 政 区
(1)大田原東部	山の手、城山、元町、新富町、中央1丁目、若松町、富士見、若草
(2)大田原西部①	中央2丁目、住吉町、紫塚、本町
(3)大田原西部②	末広、美原、浅香、加治屋
(4)金田地区	中田原、町島、荒井、岡、今泉、戸野内、富池、市野沢、練貴、羽田、乙連沢、小滝、北金丸、南金丸、上奥沢、奥沢、鹿畑、倉骨、赤瀬、北大和久
(5)親園・佐久山地区	親園、実取、滝沢、滝岡、花園、宇田川、萩野目、佐久山、藤沢、大神、福原
(6)野崎地区	上石上、下石上、薄葉、平沢、野崎
(7)湯津上地区	狭原、小船渡、湯津上、佐良土、蛭畑、蛭田、新宿、片府田
(8)黒羽地区	黒羽田町、前田、堀之内、北野上、八塩、北滝、片田、亀久、矢倉、黒羽向町、大豆田、余瀬、蜂巢、桧木沢、寒井、中野内、河原、両郷、寺宿、木佐美、大久保、久野又、大輪、川田、須佐木、須賀川、雲岩寺、川上、南方

	回答者数 (人)	割合 (%)
<b>Q2. 家族構成は次のどれにあたりますか？</b>		
(1) 父母と子(核 家 族)	787	61.1
(2) 祖父母と同居(3世代家族)	431	33.5
(3) 父と子・母と子(一人親家族)	44	3.4
(4) 父母の兄弟(姉妹)と同居 (その他)	23	1.8
無回答	11	0.2
合計	1287	100
<b>Q3. あなたは、お子さんから見て、次のどれにあたりますか？</b>		
(1) 父 親	33	2.6
(2) 母 親	1253	97.3
(3) その他	0	0
無回答	1	0.1
合計	1287	100
<b>Q4. 育児の協力者はいますか？ (複数回答可)</b>		
(1) 配偶者	1119	45.6
(2) 友人	178	7.3
(3) 実家	945	38.5
(4) 近所の人	72	2.9
(5) 誰もいない	10	0.4
(6) その他	130	5.3
<b>Q5. マタニティマークを知っていますか？</b>		
(1) は い	1251	97.2
(2) いいえ	26	2
無回答	10	0.8
合計	1287	100
<b>Q6. 妊娠中、マタニティマークを使用したことがありますか？</b>		
(1) は い	738	57.3
(2) いいえ	539	41.9
無回答	10	0.8
合計	1287	100
<b>Q7. 妊娠中、仕事をしていましたか？</b>		
(1) は い	922	71.6
(2) いいえ	356	27.7
無回答	9	0.7
合計	1287	100
<b>Q8. (Q7で「はい」に○をつけた方のみ)</b>		
妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮が得られましたか？		
(1) は い	797	86.4
(2) いいえ	117	12.7
無回答	8	0.9
合計	922	100
<b>Q8-1. (Q8で「はい」に○をつけた方のみ)</b>		
職場からどのような配慮が得られましたか？(複数回答可)		
(1) 妊婦健康診査、保健指導を受ける時間の確保	404	50.7
(2) 産前休暇	557	69.9
(3) 勤務時間の変更(時間外労働、休日労働、深夜業の制限等)	229	28.7
(4) 仕事の軽減(軽易業務転換等)	376	47.2
(5) 危険有害業務の就業制限	102	12.8
(6) その他	25	3.1

Q8-2. (Q8で「いいえ」に○をつけた方のみ)		
職場からどのような配慮があるとよかったですか？(複数回答可)		
(1) 妊婦健康診査、保健指導を受ける時間の確保	29	24.8
(2) 産前休暇	29	24.8
(3) 勤務時間の変更(時間外労働、休日労働、深夜業の制限等)	52	44.4
(4) 仕事の軽減(軽易業務転換等)	66	56.4
(5) 危険有害業務の就業制限	9	7.7
(6) その他	10	8.5
Q9. あなたのお子さんの年齢は、次のどれにあたりますか？		
(1) 0歳	17	1.3
(2) 1歳	86	6.7
(3) 2歳	152	11.8
(4) 年少(3歳児)	296	23
(5) 年中(4歳児)	366	28.4
(6) 年長(5歳児)	369	28.7
無回答	1	0.1
合計	1287	100
Q11. 起床時間は次のどの時間帯ですか？		
(1) 午前6時00分前	106	8.2
(2) 午前6時00分～	759	59
(3) 午前7時00分～	388	30.1
(4) 午前8時00分～	24	1.9
(5) 午前9時00分以降	1	0.1
無回答	9	0.7
合計	1287	100
Q12. 就寝時間は次のどの時間帯ですか？		
(1) 午後8時00分前	56	4.4
(2) 午後8時00分～	345	26.8
(3) 午後9時00分～	682	53
(4) 午後10時00分～	180	14
(5) 午後11時00分～	16	1.2
(6) 午前0時00分以降	0	0
無回答	8	0.6
合計	1287	100
Q13. 朝食は、食べていますか？		
(1) 家族全員で食べている(⇒Q14. へ)	1027	79.8
(2) 親は食べているが、子どもは食べない	11	0.9
(3) 子どもは食べているが、親は食べない	227	17.6
(4) 家族全員食べない	7	0.5
無回答	15	1.2
合計	1287	100
Q13-1. (Q13で(2)(3)(4)に○をつけた方のみ)		
○をつけた理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。		
① 食事を作ったり、食べたりする時間がない	75	30.6
② 以前から、朝食は食べない	64	26.1
③ 食事を用意するのが面倒	10	4.1
④ 子どもの食欲がない	12	4.9
⑤ 親の食欲がない	61	24.9
⑥ その他	66	26.9

Q14. 夕食は、どのように食べていますか？		
(1) 家族そろって食べている	926	72
(2) 子どもだけ先に食べさせている	167	13
(3) 家族それぞれに食べている	177	13.8
無回答	17	1.2
合計	1287	100
Q15. 夕食時間は次のどの時間帯ですか？		
(1) 午後5時00分前	44	3.4
(2) 午後6時00分～	674	52.4
(3) 午後7時00分～	524	40.7
(4) 午後8時00分～	35	2.7
(5) 午後9時00分以降	1	0.1
無回答	9	0.7
合計	1287	100
Q16. 1週間のうちで主食・主菜・副菜のそろった食事が1日2回以上の日はどのくらいありますか？		
(1) ほぼ毎日(6～7日)	798	62
(2) 週に4～5日	334	26
(3) 週に2～3日	125	9.7
(4) 週に1日以下	20	1.5
無回答	10	0.8
合計	1287	100
Q17. 家庭で夕食前に、おやつを食べていますか？ (なお、夕食前のおやつとは園でのおやつは含みません。)		
(1) 食べている	979	76.1
(2) 食べていない	301	23.4
無回答	6	0.5
合計	1287	100
Q17-1. (Q17で「食べている」に○をつけた方のみ) 1週間のうちで、夕食前におやつを食べる日はどのくらいありますか？		
(1) ほぼ毎日(6～7日)	476	48.6
(2) 週に4～5日	270	27.6
(3) 週に2～3日	205	20.9
(4) 週に1日以下	20	2
無回答	8	0.9
合計	979	100
Q17-2. (Q17で「食べている」に○をつけた方のみ。) どんな物を食べていますか？(複数回答可)		
(1) 果物	333	34
(2) 菓子類(スナック菓子、あめ、ガム、グミ、せんべいなど)	840	85.8
(3) ヨーグルト、牛乳	413	42.2
(4) アイス	415	42.4
(5) ジュース	280	28.6
(6) その他	114	11.6
Q18. 夕食後に、おやつを食べていますか？		
(1) 食べている	457	35.7
(2) 食べていない	801	62.5
無回答	29	2.3
合計	1287	100

Q18-1. (Q18で「食べている」に○をつけた方のみ)		
1週間のうちで、夕食後におやつを食べる日はどのくらいありますか？		
(1) ほぼ毎日(6~7日)	96	21
(2) 週に4~5日	100	21.9
(3) 週に2~3日	193	42.2
(4) 週に1日以下	59	12.9
無回答	9	2
合計	457	100
Q18-2. (Q18で「食べている」に○をつけた方のみ。)		
どんな物を食べていますか？(複数回答可)		
(1) 果物	290	63.5
(2) 菓子類(スナック菓子、あめ、ガム、グミ、せんべいなど)	137	30
(3) ヨーグルト、牛乳	193	42.2
(4) アイス	236	51.6
(5) ジュース	80	17.5
(6) その他	21	4.6
Q19. お子さんの、かかりつけ医(小児科・内科)がありますか？		
(1) ある	1254	97.4
(2) ない	23	1.8
無回答	10	0.8
合計	1287	100
Q20. お子さんの、かかりつけの歯科医がありますか？		
(1) ある	635	49.3
(2) ない	641	49.8
無回答	11	0.9
合計	1287	100
Q21. お子さんは、歯科医で定期的に歯科検診を受けていますか？		
(1) 受けている	457	35.5
(2) 受けていない	817	63.5
無回答	13	1
合計	1287	100
Q22. #8000(小児救急でんわ相談)を知っていますか？		
(1) 知っている	834	64.8
(2) 知らない	440	34.2
無回答	13	1
合計	1287	100
Q23. 保健センターで実施している乳幼児の健康診査について、お聞きします。		
(1) 今のままでよい	573	44.5
(2) 時間がかかるが、必要なので仕方がない	581	45.2
(3) その他	106	8.2
無回答	27	2.1
合計	1287	100

※ここに掲載してある集計結果の割合は、端数調整をしています。



Q24. 大田原市の保健事業(妊娠、出産、乳幼児健診、育児教室等)に関して、ご意見がありましたらお聞かせください。

※項目別の状況は次のとおりでした。なお、( )内は意見をいただいた件数です。

## 1. 安心して妊娠、出産できる環境の確保

### (1) 妊婦健康診査

- ・助成額を増やしてほしい。(2)
- ・妊婦健診を無料にしてほしい。(1)
- ・妊婦健診を土日も受診できるようにしてほしい。(1)
- ・妊婦健診受診券が余った場合、産褥健診にも使えるようにしてほしい。(1)

### (2) 保健指導・母親学級

- ・産後ケアセンター、産後ケア事業があると良い。(4)
- ・市でも妊婦教室をやってほしい。(3)
- ・出産前に、母親学級や父親学級などがあると良かった。(2)
- ・妊娠している女性の不安を取り除けるつどいや、相談場所、マタニティヨガがあると良い。(1)

## 2. 子どもの健やかな成長、発達への支援

### (1) 乳幼児健康診査

[内容]

- ・健診を午前中にしてほしい。(17)
- ・時間がかかる。(14)
- ・健診の待ち時間が長い。(11)
- ・休日に健診をやってほしい。(7)
- ・時間帯変更を希望する。(5)
- ・受付時間をもっと長くしてほしい。(1)
- ・もっとスムーズに進むようにしてほしい。(4)
- ・番号札があることでスムーズにかかれた。(1)
- ・受付時間、整理券配布、健診開始時間を案内資料に明記してほしい。(1)
- ・早く受付をしてもなかなか見てもらえないのであれば、番号札は不要と思う。(1)
- ・番号札は正午からではなく、正午前から来た順で配布してほしい。(1)
- ・二人目以降は、健診の中での話を省けると良い。(4)
- ・健診のお知らせを一か月以上前にほしい(仕事の調整のため)。(3)
- ・健診の回数を増やしてほしい。(4)
- ・健診の回数を減らしてほしい。(1)
- ・3歳児健診を園でやってほしい。(2)
- ・5歳児健診は集団で一度に行うが、月齢によって差があるので、どうなのかと思う。(1)
- ・3歳児健診、1歳6か月児健診がその月齢ではないので、その月に行ってほしい。(1)
- ・黒羽での健診は毎月やってほしい。(3)
- ・幼稚園に行っているのに、健診はなくてもよい。(1)
- ・問診票の裏面のアンケートや生活・食事内容は必要性を感じない。(1)
- ・健診内で発達の説明や育児のコツの話があると役に立つと思う。(1)
- ・健診内容が濃くて良かった。(1)
- ・健診で、周囲がうるさいこともあり、大きな声で質問されてしまった。(1)
- ・健診の時期が分からないので、幼児期になってからの健診予定表がほしい。(1)

#### [施設・設備]

- ・保健センターのトイレを洋式に広くしてほしい。(5)
- ・保健センターの建物、設備が古い。(4)
- ・健診はトコトコでやってほしい。(2)
- ・2階に行かなくても良い会場がいい。(1)
- ・待ち時間に遊べるスペースやおもちゃを増やしてほしい。(6)
- ・健診時に兄弟を見てもらえるスペースがほしい。(1)
- ・ベビーベットの改善。(1)
- ・駐車場が足りない。(1)
- ・健診の時の絵カードが古いので時代に合ったものにしてほしい。(1)
- ・周りがうるさくて大きな声で話さなければいけないため、相談場所の配慮をしてほしい。(1)

#### (3) 保健指導

- ・育児教室を休日にも行い、参加しやすくしてほしい。(4)
- ・料理教室をやってほしい。(2)
- ・祖父母向けの教室をやってほしい。(1)
- ・離乳食教室が参考になった。(1)
- ・布おむつ講座をやってほしい。(1)
- ・体操教室のような身体能力のサポートをする事業があると良い。(1)
- ・就学前の教室をやってほしい。(1)
- ・1歳までの育児教室をもっと充実させてほしい。(1)
- ・育児教室について、回覧板が回ってこない家庭はあまり知らないと思う。(1)
- ・育児教室での言語の先生の回に出て、睡眠の大切さを痛感した。広報で周知してほしい。(1)
- ・育児教室に参加したが、すでに仲良しグループがいて溶け込めなかった。(1)
- ・赤ちゃん訪問は、病院まで出向くには大変なので、話を聞いてもらうだけでも助かる。(1)
- ・赤ちゃん訪問は希望者だけで良いと思う。(1)
- ・有料でも良いので、イベントがあると良い。(1)

#### (4) 医療費助成

- ・小学3年生まで医療費助成してほしい。(1)
- ・中学3年生まで、市役所窓口での申請をなくしてほしい。申請に行くのが大変。(1)
- ・医療費は無料だが、薬のケース代がかかるのは変だと思う。(1)
- ・小学生も現物給付にしてほしい。(1)

#### (5) 予防接種

- ・任意予防接種の無料化をしてほしい。(2)
- ・手厚くやっていて良い。(1)
- ・必要なものは集団接種でやってほしい。(1)
- ・病院での時間指定をもっと広くしてほしい。(1)
- ・予防接種のお知らせを時期に合わせてしてほしい。(1)

#### (6) 小児医療

- ・子供が初めて熱性けいれんを起こした時、#8000に電話したが話し中でつながらず困った。(1)
- ・休日当番医は、小児科は必ずいてほしい。(1)
- ・日赤での股関節脱臼検査は無料だと説明を受けたが、後日検査するとお金がかかった。4か月健診でも見てもらえるのであれば、検査しなくても良かったのではと思う。(1)

### 3. 安心できる子育て環境の確保とゆとりある育児への支援

#### (1) 育児支援

##### [相談体制の充実]

- ・休日も専門職に相談できると良い。(2)
- ・休日も母子ともに集まって話したりできる場所(サロン、支援センター等)がほしい。(2)
- ・いろいろ相談したいが、大ごとになりそうできない。(1)
- ・子供の相談場所があることは非常にありがたいと思う。(1)
- ・子供同伴ではない、母親同士の交流の場があると良い。(1)
- ・いつでも気軽に相談できると良い。(1)
- ・いろいろなことを教えてほしい。(1)

##### [施設、施策等の充実]

- ・上の子を保育園に預けていても、下の子を出産した後利用できるようにしてほしい。(2)
- ・トコトコのような場所をもっと作ってほしい。(1)
- ・休日も子供を預けられる場所がほしい。(1)
- ・支援センターがあるので、サロンは減らしても良いと思う。(1)
- ・支援センターのプログラムを充実させてほしい。(1)

#### (2) 経済的支援

- ・金銭的援助が欲しい。(1)
- ・手厚いので良いと思う。(1)
- ・チャイルドシートの助成を知らなかったので、母子手帳交付時に知らせてほしい。(2)
- ・チャイルドシートの助成額が少ないと思う。(1)
- ・出産費用の助成が増えても、病院で出産費を上げるので、結局負担額が変わらない。(1)
- ・出産に対しての負担を減らしてほしい。(1)
- ・出産費が高くなると、二人目を考えてしまう。(1)
- ・給食費無料がありがたい。(1)
- ・1か月健診が保険がきかず、支払いがきつかった。(1)

### 4. その他

#### [行政に対する意見・要望]

- ・講演会やコンサート、セミナーなど、妊娠、出産、子育てについて企画をいろいろ考えてほしい。(2)
- ・大田原市は子どもに対して優しい市だと思う。(1)
- ・児童手当の手続きを平日にやるので、毎年仕事を抜けなければならない。良い方法を考えてほしい。(1)
- ・車の免許がなく健診に行くのが大変だったため、市営バスを充実させてほしい。(1)
- ・トコトコを有料化してほしくなかった。(1)
- ・産後すぐに手続することが多く、大変だった。(1)
- ・歩きながら楽しめる町にしてほしい。(1)

#### [専門職種の相談について]

- ・相談にのってもらえて感謝している。(1)
- ・担当スタッフによって言うことが違う。(4)
- ・健診での担当スタッフを指名できるようにしてほしい。(2)
- ・健診時のアドバイスに不満がある。(7)
- ・園に通っていて健診内容も一緒であるが、休ませて市の健診に連れていくのはいかがでしょうかと思う。(1)
- ・もっと話を聞いてほしかった。(1)
- ・育児相談の先生がどこまで専門か分からない。(1)
- ・学生が実習に入るときは、事前に連絡がほしい。(1)
- ・健診で待ち時間が長い時は声掛けしてほしい。(1)

[その他]

- ・充実していると思う。(5)
- ・母子手帳のデザインがかわいくない。(4)
- ・キャラクターの母子手帳にしてほしい。(2)
- ・母子手帳のサイズを小さくしてほしい。(2)
- ・祖父母手帳があると良い。(1)
- ・子供が肥満気味で病院に行くと、牛乳は必要ないと言われた。給食でも出るので心配になった。(1)
- ・健診で牛乳400ccと言われたが、医師にはそこまでいいものではないと言われた。(1)
- ・出産祝いの品がなくて残念だった。(1)
- ・支援センター以外の交流の場を周知してほしい。(1)
- ・市での健診でむし歯がなかったが、後日歯科受診したらむし歯があった。しっかり診てほしい。(1)
- ・歯のフッ素をやってもらいたい。(1)
- ・いろいろなことをやって助かっている母親はたくさんいると思うので頑張してほしい。(1)
- ・日赤の産科の待ち時間が無駄である。(1)
- ・お産できる病院が少ない。(1)
- ・他市に比べ子どもの支援が充実していると思う。(1)
- ・どのような支援があるか、情報が届きにくい。(1)

### 3 「愛あいプラン（第3次）」（H24～H28）の指標と評価

#### 1 思春期保健対策の向上と健康教育の推進

##### (1) 思春期の体と心の健康づくり

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
未成年の飲酒経験者の減少	小学生24.9% 中学生23.0%	0%	小学生13.7% 中学生10.8%	改善傾向	健康に関する調査 (H28実施)
未成年の喫煙経験者の減少	小学生1.7% 中学生1.6%	0%	小学生1.1% 中学生0.6%	改善傾向	健康に関する調査 (H28実施)
市内全ての小・中学校での 思春期健康教室の実施	小学校23校 中学校9校	全校実施	全校実施	達成	H27年度事業実績
生理周期カレンダーを記録 している生徒の増加	中1 23.5% 中2 18.8% 中3 18.0%	30%増加	中1 今後配布予定 中2 10.8% 中3 7.6%	検討が必要	健康に関する調査 (H28実施)
性自認のできる生徒 (特に女子)の増加	中3男子73.0% 中3女子49.0%	中3男子80% 中3女子70%	中3男子77.0% 中3女子55.1%	改善傾向	健康に関する調査 (H28実施)

(2) 関係機関との連携

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参 考 資 料
生理周期カレンダーを記録している生徒の増加	中1 23.5% 中2 18.8% 中3 18.0%	30%増加	中1 今後配布予定 中2 10.8% 中3 7.6%	検討が必要	健康に関する調査 (H28実施)
教育委員会や養護教諭部会との連絡会の実施	教育委員会 2回 養護教諭部会 3回	教育委員会 2回 養護教諭部会 3回	教育委員会 1回 養護教諭部会 3回 (電話やメールなど連携できている)	達成	H27年度事業実績
小学校思春期健康教室の内容について役割を分担して実施することができる	助産師・保健師・養護教諭が実施	助産師、学校教諭(担任・養護)、保健師が役割分担し、全校実施	講師となる人材確保が難しい。役割については学校の養護教諭と連携し分担できている。	達成	H27年度事業実績
中学校思春期健康教室について医療機関の助産師と中学校養護教諭が連絡調整し実施すること	市内全中学校で実施している	中学校養護教諭と担当助産師で連絡調整し全校実施	医療機関の助産師、大学の講師等が講師となり全校実施。養護教諭と事前に打ち合わせを実施し地域・学校の実情に合わせている。	達成	H27年度事業実績

2 安心して妊娠、出産できる環境の確保

(1) 相談・指導体制の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
妊娠11週以下での妊娠届出率	92.0%	95.0%	94.0%	増加傾向	H27年度事業実績
ハイリスク妊婦に対する相談実施率	—	100%	妊娠アンケートで把握したハイリスク者には全員相談を実施	達成	
妊娠届出時の妊娠アンケート実施率	100%	100%	H27妊娠届出者全員に実施	達成	

(2) 妊産婦と新生児等に対する保健・医療の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
妊婦健康診査公費負担制度	14回	14回	14回	達成	H27年度事業実績
新生児死亡率（出生1,000人対）	0%	0%	1.9%	増加傾向	人口動態統計（H27年度）
周産期死亡率（出生1,000人対）	3.4%	0%	3.5%	ほぼ横ばい	人口動態統計（H27年度）
低出生体重児の割合	11.3%	10.0%	10.9%	以前より減少傾向	H27年度事業実績

(3) 妊婦の環境に関する支援

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
妊娠届時の母性健康管理指導事項連絡カードを知っている人の割合	—	100%	妊娠届出時に周知	今後も継続	
妊娠届時の母性健康管理指導事項連絡カードを使っている人の割合	—	100%	妊娠届出時に周知	今後も継続	
妊娠中の喫煙率	3.4%	0%	3.4%	横ばい	すこやか親子アンケート (4か月児健診)

(4) 不妊に関する医療費支援の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
不妊治療費補助金交付件数	27件	60件	172件	達成	H27年度事業実績
不妊治療費補助金交付基準	体外、顕微授精 ・栃木県特定不妊治療の交付決定を受けた者 ・年2回（初年度のみ3回）10万円/回、年度5年10回まで	人工授精 ・2万円/5回まで 体外、顕微授精 ・年2回（初年度のみ3回）10万円/回、年度5年10回まで ※栃木県特定不妊治療の対象にならなかった者も含む	人工授精 ・2万円/5回まで 体外、顕微授精 ・年2回（初年度のみ3回）10万円/回、年度5年10回まで ※栃木県特定不妊治療の対象にならなかった者も含む	達成	H27年度事業実績



3 子どもの健やかな成長・発達への支援

(1) 相談・指導体制の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
相談窓口を知らなかった人の割合	33.1%	10.0%	相談相手が誰もいない人:0人 育児の協力者がいない人:0.4%	ほぼ全ての養育者に相談相手がいることが把握できた。相談窓口についても周知していく。	2歳児歯科健診票集計 (H27) 親と子の健康と子育てに関するアンケート (H28実施)

(2) 乳幼児健康診査の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
乳 幼 児 健 診 受 診 率	4 か月児健康診査	98.0%	99.1%	達成	H27年度事業実績
	10 か月児相談	96.0%	96.7%	達成	H27年度事業実績
	1 歳6 か月児健康診査	99.0%	98.8%	ほぼ達成	H27年度事業実績
	2 歳児歯科健康診査	94.0%	95.5%	ほぼ達成	H27年度事業実績
	3 歳児健康診査	89.2%	91.0%	達成	H27年度事業実績
	乳幼児健診においての保護者の満足度 (乳幼児健診について、今のままでよいと回答する割合)	41.8%	70.0%	44.5%	改善傾向
未受診理由の把握	100%	100%	100%	達成	H27年度事業実績

(3) 健康づくりの推進

指	標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
予防接種率の向上		81.3 %	92 %	95.9%	達成	H27年度事業実績
	フッ化物洗口実施の向上	32校(全校)	32校(全校)	30校(全校)	達成	H27年度事業実績
歯科保健	1歳6か月児のむし歯保有率	2.3 %	1.0 %	1.8%	改善	H27年度事業実績
	3歳児のむし歯保有率	24.7 %	22.0 %	24.7 %	横ばい	H27年度事業実績
肥満の割合	小学生	12.4 %	10.0 %	14.0%	やや増加	H27年度事業実績
	中学生	12.9 %	10.0 %	10.0%	達成	H27年度事業実績
高血圧の割合	小学生	7.1 %	5.0 %	7.1%	横ばい	H27年度事業実績
	中学生	18.6 %	15.0 %	17.5%	改善	H27年度事業実績
脂質異常の割合	小学生	19.6 %	15.0 %	23.3%	やや増加	H27年度事業実績
	中学生	17.2 %	15.0 %	17.8%	横ばい	H27年度事業実績
糖代謝異常の割合	小学生	4.5 %	2.0 %	3.0%	やや改善	H27年度事業実績
	中学生	3.5 %	2.0 %	1.9%	達成	H27年度事業実績

(4) 「早起き、早寝、朝ごはん、あいさつ、絵本の読み聞かせ」の推進

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参 考 資 料
子どもの起床時間 (7時まで起床する児の割合)	57.2%	70.0 %	67.2%	改善傾向	親と子の健康と子育てに関するアンケート (H28実施)
子どもの就寝時間 (21時まで就寝する児の割合)	13.3%	60.0 %	31.2%	改善傾向	親と子の健康と子育てに関するアンケート (H28実施)
朝ご飯を食べる児の割合	95.6%	100 %	97.4%	変化なし	親と子の健康と子育てに関するアンケート (H28実施)

4 発達に問題を抱える子どもへの支援

(1) 相談・指導・支援体制の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参 考 資 料
関係職種・機関との学習会の 実施	10回	10回	状況に応じ、関係 職種との研修会を 実施している	達成	H27年度事業実績等
連絡調整会議の実施	4回	4回	4回	達成	H27年度事業実績等
講演会・セミナーの実施	3回	3回	3回	達成	H27年度事業実績等

(2) 療育及び教育相談の充実

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参 考 資 料
障害の理解と支援方法の研 修会の充実	4回	4回	園研修会 4回 発達支援者研修会 1回	達成	H27年度事業実績等

5 安心とゆとりある子育てへの支援

(1) 子育て支援体制の充実（虐待予防対策を含む）

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
子どもを虐待していると思 う人の割合	26.0%	10.0%	4か月児健康診査 13.2% 1歳6か月児健康診査 23.8% 3歳児健康診査 53.5%	すこやか親子21の 質問の方法が異な るため、正確な評 価はできないが、 減少しているとは いえない。	すこやか親子21アンケート
乳幼児健康診査未受診者の 把握率	4か月児健康診査 100% 1歳6か月児健康診査 100% 3歳児健康診査 100%	4か月児健康診査 100% 1歳6か月児健康診査 100% 3歳児健康診査 100%	4か月児健康診査 100% 1歳6か月児健康診査 100% 3歳児健康診査 100%	達成	H27年度事業実績
子育て支援センターを利用し ていない人のうち、知らなかつ た人の割合	29.6%	20.0%	4か月児健診や乳幼 児健康相談で子育 て支援センターの チラシを配布し周 知している	今後も周知を継続 する	

(2) 子育てについての知識の普及

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
情報提供のためのパンフレット配付	配布	配布	配布している	達成	
すくすく教室参加率	24.6%	50.0%	14.0%	減少	H27年度事業実績
乳幼児健康診査に対しての満足度 (今のままでよいと思う割合)	41.8%	70.0%	44.5%	横ばい	親と子の健康と子育てに関するアンケート (H28実施)

(3) 育児負担軽減のための支援

指 標	H22年度	目標値	現 状	評 価	参考資料
各種制度について知っている親の割合	(未把握)	80%	妊娠届・出生届時にパンフレットやガイドブックを配布し、各種制度について周知している。	周知を継続する	
育児に協力している父親の割合	67.5%	80%	93.4%	達成	すこやか親子アンケート (4ヶ月健診)
父子手帳を利用している親の割合	(未把握)	50%	妊娠届出時に配布している。	配布を継続する	

#### 4 すこやか親子21の基盤課題・重点課題（国・県・市の比較）

基盤課題A 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

		国	県	市
1	妊産婦死亡率（周産期死亡率）	H26 3.7%	H26 4.3%	
2	全出生中の低出生体重児の割合	H25 9.6% H26 9.5%	H25 11.0% H26 10.3%	H25 71人 (13.3%) H26 51人 (9.5%) H27 56人 (10.4%)
3	妊娠・出産について満足している者の割合			81.5%
4	むし歯のない3歳児の割合	H25 82.09% H26 82.31%	H25 80.16% H26 81.38%	H25 73.2% H26 76.2% H27 75.26%
5	妊娠中の妊婦の喫煙率			3.4%
6	育児期間中の両親の喫煙率			母 4M 5.6% 1.6Y 8.1% 3Y 13.0% 父 4M 46.9% 1.6Y 56.1% 3Y 45.7%
7	妊娠中の妊婦の飲酒率			1.1%

8	乳幼児健康診査の受診率	実績報告（各健診）	H25 4M 98.8% 10M 98.1% 1.6Y 98.8% 2Y 93.8% 3Y 96.8%	H26 4M 97.3% 10M 97.8% 1.6Y 97.3% 2Y 98.1% 3Y 94.2%	H27 4M 99.1% 10M 96.7% 1.6Y 98.8% 2Y 95.5% 3Y 97.1%
9	仕上げ磨きをする親の割合	2歳児歯科健診票 (H24.10生～H25.8生の割合)	97.8%		

基盤課題B 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

1	10代の自殺死亡率	人口動態	H26 (人口10万対) 10-14歳 1.8 15-19歳 7.3	H26 (人口10万対) 10-14歳 1.1 15-19歳 4.3	
2	10代の人口妊娠中絶率		H26 (女子総人口あたり) 6.1%	H26 (女子総人口あたり) 5.3%	
3	児童・生徒における肥満傾向児の割合	小児生活習慣病予防 健診結果、学校保健 統計調査	小学校 (H27) 6.8% 男：7.4% 女：6.3% 中学校 (H27) 8.2%	小学 (H27) 9.8% 男：10.8% 女：8.7% 中学 (H27) 11.4%	小学 (H28) 12.2% 中学 (H28) 10.8% 小・中 計 11.3%

4	児童・生徒における瘦身傾向児の割合	小児生活習慣病予防 健診結果、学校保健 統計調査	男：8.7% 女：7.7%  小学校 全体：1.6% 男：1.5% 女：1.6%  中学校 全体：2.8% 男：2.1% 女：3.6%	男：11.3% 女：11.5%  小学校 全体：1.1% 男：1.3% 女：1.0%  中学校 全体：2.4% 男：1.9% 女：2.9%	小学（H28） 1.1% 中学（H28） 1.8%  小・中 計1.5%
5	歯肉に炎症がある10代の割合	現時点で数値なし			

基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

1	この地域で子育てをしたいと思う親の割合 （「そう思う」「どちらかといえばそう思う」 の割合）	すこやか親子21アンケート （全健診から）			4M 97.4% 1.6Y 96.9% 3Y 97%
2	主体的に育児にかかわっていると感じる父 親の割合 （「よくやっている」「時々やっている」の 割合）	すこやか親子21アンケート （4か月児：質問⑧）			93.4%



重点課題① 育てにくさを感じる親に寄り添う支援

1	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	すこやか親子21 アンケート	4M 82.4%	1.6 Y 75.1%	3 Y 70.0%
2	育てにくさを感じている親の割合	すこやか親子21 アンケート 「いつも感じる、時々感じる」と回答した割合	4M 19.0%	1.6 Y 26.8%	3 Y 35.4%
3	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	すこやか親子21 アンケート	86.9%	82.3%	84.4%
4	子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	すこやか親子アンケート21	90.1%	93.2%	84.9%

重点課題② 妊娠期からの児童虐待防止対策

1	児童虐待による死亡数				
2	乳幼児健康診査の受診率	基盤課題A再掲、実績報告より			
3	乳幼児ゆさぶられ症候群を知っている親の割合	健やか親子21 アンケート (4ヶ月)			98.9%

## 5 母子保健連絡協議会委員名簿

No	選出団体	氏名	所属（職名）
1	市医師会の代表者	わかえ 恵利子	あさかクリニック（小児科医師）
2	歯科医師会の代表者	たかねざわ 英二	みはら歯科医院（歯科医師）
3	栃木県歯科衛生士会の代表者	おおはし むつみ	渡辺歯科医院（歯科衛生士）
4	市内医療機関のうち産科に従事する者	そうま 幸子	那須赤十字病院産科部長（助産師）
5	市内小中学校長の代表者	むらかみ かづみ	蛭田小学校長
6	市内の養護教諭の代表者	こもり のりこ	湯津上中学校養護教諭
7	市内の幼稚園長の代表者	ふくだ はるお	野崎幼稚園（園長）
8	市内の保育園保護者の代表者	あくつ 恵美子	おおたわら保育園 保護者会代表者
9	健康政策課、福祉課、子ども幸福課及び学校教育課の職員	やの やよい	健康政策課成人健康係長（保健師）
10		たかはし けいこ	健康政策課成人健康係（管理栄養士）
11		そうとめ まこと	福祉課福祉支援係長
12		ましこ あつこ	子ども幸福課子育て支援係長
13		くろだ のぶゆき	学校教育課学校教育係（教諭）
14	その他市長が必要と認めるもの	しもいづみ ひでお	国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長 （小児神経科医師）
15		くわの てつみ	県北健康福祉センター一所長（医師）
16		おおくぼ まさみ	主任児童委員

## 6 「愛あいプラン（第4次）」策定の経過と進捗管理スケジュール

NO	日 程	場 所	会議名等	内 容
1	6月9日（木） 午後1時～3時	トコトコ 大田原 3階中会議室	第1回 母子保健連絡協議会	母子保健連絡協議会委員委嘱状交付 母子保健連絡協議会趣旨説明 計画策定の趣旨、前計画の評価と課題、今後のスケジュールについて
2	6月～7月		乳幼児保護者と小・中学生に対するアンケート調査の実施と集計	健康に関するアンケート調査 対象者 小学5・6年生 1,447名 中学1・2・3年生 2,086名 親と子の健康と子育てに関するアンケート調査 対象者 市内幼稚園5か所、市内保育園10か所に通園している子の保護者 1,112名
3	8月25日（木） 午後1時～3時	トコトコ 大田原 3階中会議室	第2回 母子保健連絡協議会	地域の実情を踏まえた計画の骨子（案）の検討
4	11月10日（木） 午後1時～3時	トコトコ 大田原 3階中会議室	第3回 母子保健連絡協議会	計画案について
5	12月5日（月） ～12月26日（月）	市ホームページ、子ども幸福課、湯津上支所、黒羽支所、アンケートを実施した保育園・幼稚園15か所	パブリックコメントの実施	
6	1月12日（木） 午後1時～3時	トコトコ 大田原 3階中会議室	第4回 母子保健連絡協議会	パブリックコメントの結果について 計画の決定
7	2月13日（月）		市長報告	審議結果（第4回会議の決定）の報告 「愛あいプラン（第4次）」を市長に提出
8	3月1日（水） ～3月21日（火） 4月14日（金）		パブリックコメントの実施結果について公表 議会への報告、報道機関への情報提供	「愛あいプラン（第4次）」
9	5月		広報「おおたわら」	概要版を全戸配布、関係機関へ「愛あいプラン（第4次）」の配布
10	毎年7月		母子保健連絡協議会	前年度の事業実績、計画進捗状況報告 計画の推進について

## 7 大田原市母子保健連絡協議会運営要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、市民の母子保健の向上を目指し、地域課題を分析・共有し実施体制の整備と推進を図るため、大田原市附属機関設置条例（平成25年条例第24号）第2条の規定に基づき設置された大田原市母子保健連絡協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営その他必要な事項について定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 母子保健計画の策定並びに評価及び見直しに関すること。
- (2) 母子保健事業の効果的な実施及び母子保健施策の検討に関すること。
- (3) 母子保健事業に係る保健、医療、福祉及び教育関係等の連携に関すること。
- (4) その他市長が必要と認めること。

(組織)

第3条 協議会は、委員20人以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 市医師会の代表者
- (2) 市歯科医師会の代表者
- (3) 栃木県歯科衛生士会の代表者
- (4) 市内医療機関のうち産科に従事する者
- (5) 市内小中学校長の代表者
- (6) 市内の養護教諭の代表者
- (7) 市内の保育園長又は幼稚園長の代表者
- (8) 市内の保育園又は幼稚園の保護者の代表者
- (9) 健康政策課、福祉課、子ども幸福課及び学校教育課の職員
- (10) その他市長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 会長に事故あるとき又は欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 協議会は、過半数の委員の出席がなければ開催することができない。

3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(報告)

第8条 会長は、会議の結果を速やかに市長に報告するものとする。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、保健福祉部子ども幸福課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

## 8 「愛あいプラン（第4次）」計画書 配布先一覧（順不同）

No.	配布先	部数
1	栃木県保健福祉部こども政策課	1
2	県北健康福祉センター	1
3	市内小中学校	31
4	市内保育園	16
5	市内幼稚園	7
6	近隣市町（県北健康福祉センター管内）	2
7	国際医療福祉リハビリテーションセンター	1
8	国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター	1
9	市医師会	1
10	市歯科医師会	1
11	栃木県歯科衛生士会	1
12	近隣産科医院	10
13	市議会議員	26
14	市役所関係（部課長）	47
15	母子保健連絡協議会委員 16名×5	80
計		226

○印刷部数 300部

○概要版印刷部数 22,600部



---

---

大田原市母子保健計画「愛あいプラン（第4次）」

【平成29年3月発行】



編集・発行／大田原市 保健福祉部 子ども幸福課  
〒324-8641

栃木県大田原市本町1丁目4番1号

TEL : 0287-23-8634

FAX : 0287-23-7632

---

---